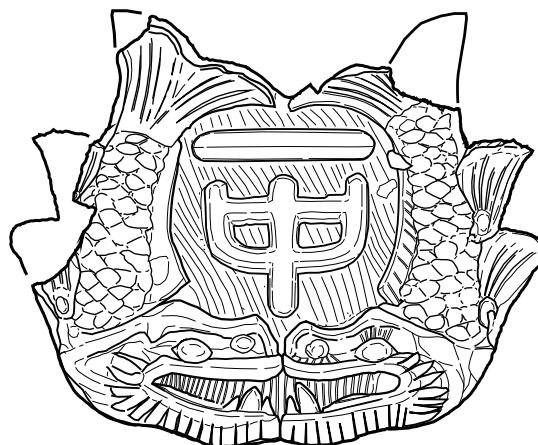


令和7年度

愛知県埋蔵文化財センター

年報



2026

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

目 次

I. 令和7年度事業概要	1
調査の理由と工程	2
令和7年度調査遺跡位置図	4
II. 遺跡調査の概要	7
稲沢市 船橋宮裏遺跡(本発掘調査B)	8
清須市 土田遺跡(本発掘調査B)	9
廻間遺跡(本発掘調査B)	11
名古屋市 西二葉町遺跡(本発掘調査B)	14
豊山町 青山神明遺跡(本発掘調査B)(道路・防災)	21
青山神明遺跡(本発掘調査B)(河川)	30
安城市 姫下遺跡・向田遺跡・中狭間遺跡(本発掘調査B)	32
姫下遺跡・向田遺跡・亀塚遺跡(本発掘調査A)	37
豊田市 内山遺跡(本発掘調査B)	39
豊橋市 萱野遺跡(本発掘調査B)	40
設楽町 下延坂遺跡(本発掘調査B)	42
境川林道遺跡・南ヶ岳遺跡・上戸神遺跡(本発掘調査A)	43
III. 刊行報告書抄録	45
第231集 花の木古墳群 花の木遺跡 花の木北遺跡	46
第232集 名城公園遺跡	48
第233集 一色青海遺跡IV	50
第235集 名古屋城三の丸遺跡IX	52
第236集 名古屋城三の丸遺跡X	54
第237集 牛寺遺跡II	56
第238集 蕎麦田遺跡	58
IV. 普及・公開活動の記録	61
埋蔵文化財展	62
あいち朝日遺跡ミュージアム企画展「あいちの発掘調査2025」	63
連続歴史講座	65
愛知県生涯学習推進センター協力講座	66
栄中日文化センター協力講座	67
清須市文化財講座(協力事業)	68
考古学フェア あいちの考古学2025	69
あいち埋文サポーターズクラブの活動について	70
V. 埋蔵文化財センターの活動	71
資料の貸出一覧	72
ホームページなど/SNSによる情報発信/エフエムななみにおける情報発信	73
地元説明会/発掘調査現場における遺構・遺物などの指導	74
令和7年度愛知県埋蔵文化財センター組織一覧	75

I. 令和7年度事業概要

調査の理由と工程

1. 発掘調査

事業主体		事業名	遺跡名	調査面積 (㎡)	調査期間	調査担当
国土交通省 中部地方整備局	豊橋河川事務所	矢作川鶴の首地区水位低下対策事業	内山遺跡	1,631	令和7年12月～ 令和8年3月	樋上・川添・ 柳原
	設案ダム 工事事務所	設案ダム	下延坂遺跡	706	令和7年5月～7月	樋上・河嶋・ 水野
			境川林道遺跡	44		樋上・水野
			南ヶ岳遺跡	30		樋上・水野
			上戸神遺跡	104		樋上・水野
愛知県建設局	道路建設課	(一)津島稲沢線道路改良工事	船橋宮裏遺跡	197	令和7年11月～ 令和8年1月	堀木・柳原
		防災拠点周辺道路整備工事	青山神明遺跡	3,171	令和7年5月～ 令和8年3月	鈴木・梶田
		名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業の本線工事・仮線工事(側道工事あり)	廻間遺跡、土田遺跡	1,815	令和7年5月～ 令和8年3月	永井宏・茶谷
		道路改良工事(交付金)(主)東三河環状線(石巻本町当古工区)	萱野遺跡	5,985	令和7年10月～ 令和8年2月	永井宏・早野・ 小柳
	河川課	中小河川改良事業・総合治水対策特定河川事業(一級河川大山川)	青山神明遺跡	5,041	令和7年5月～9月	永井宏・早野・ 小柳
		中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)	姫下遺跡、向田遺跡、中狭間遺跡	1,965	令和7年8月～ 令和8年3月	樋上・河嶋・ 水野
			姫下遺跡、向田遺跡、亀塚遺跡	280	令和7年8月～9月	樋上・河嶋
愛知県防災安全局	防災危機管理課	愛知県基幹的広域防災拠点整備事業	青山神明遺跡	10,181	令和7年5月～ 令和8年3月	鈴木・酒井・ 池本・中里・ 梶田
愛知県教育委員会	財務施設課	明和高等学校校舎等建築工事	西二葉町遺跡	3,646	令和7年5月～12月	堀木・川添・ 柳原

令和7年度の調査総面積は 34,796 ㎡

2. 整理・報告書編集

	事業主体		事業名	遺跡名	調査面積 (㎡)	調査年度
整理・報告	愛知県建設局	道路建設課	道路改良工事(交付金)(主) 東三河環状線(石巻本町当古 工区)	野添遺跡	5,390	R4・R5・ R6
		道路維持課	交差点改良工事(一般県道齋 藤羽黒線)	郷中遺跡	560	R4・R5
印刷・刊行	国土交通省 中部地方 整備局	営繕部計画課	名古屋第4地方合同庁舎整備 等事業	名古屋城三の丸遺跡	1,119	R5
					3,344	R5
	愛知県建設局	豊橋河川事務所	矢作川河川改修事業	牛寺遺跡	3,600	H29・H30・ R3
		上下水道課	日光川上流域下水道事業水 処理施設築造工事	一色青海遺跡	4,580	H30・R1・ R3・R5
	道路建設課	一般国道151号(一宮バイパ ス)	花の木古墳群・花の木 遺跡・花の木北遺跡	9,360	R2・R3	
整理・報告・ 印刷・刊行	愛知県建設局	道路建設課	道路改良工事(交付金)(主) 春日井一宮線	蕎麦田遺跡	1,098	R5
	愛知県スポー ツ局	愛知国際 アリーナ課	愛知県新体育館整備・運営等 事業	名城公園遺跡	27,000	R3・R4

3. 令和7年度刊行物

・埋蔵文化財調査報告書(計7冊)

第231集 花の木古墳群 花の木遺跡 花の木北遺跡

第232集 名城公園遺跡

第233集 一色青海遺跡IV

第235集 名古屋城三の丸遺跡IX

第236集 名古屋城三の丸遺跡X

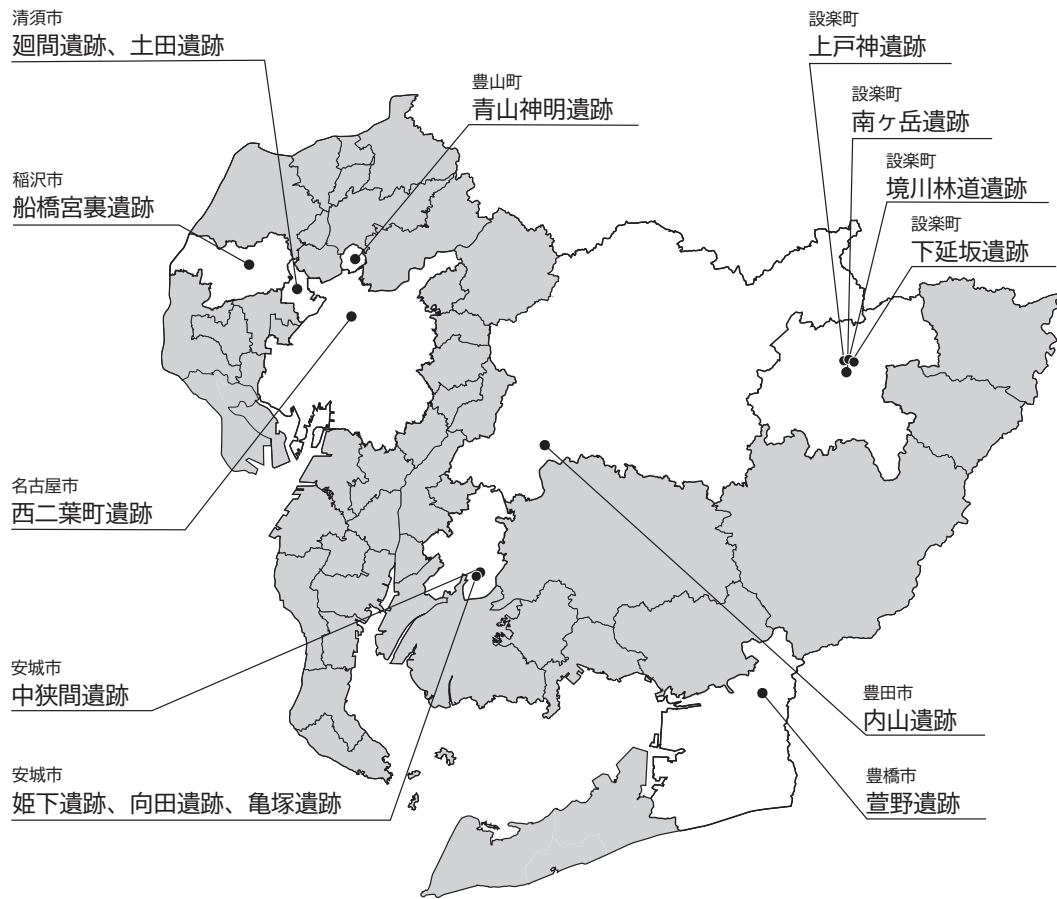
第237集 牛寺遺跡II

第238集 蕎麦田遺跡

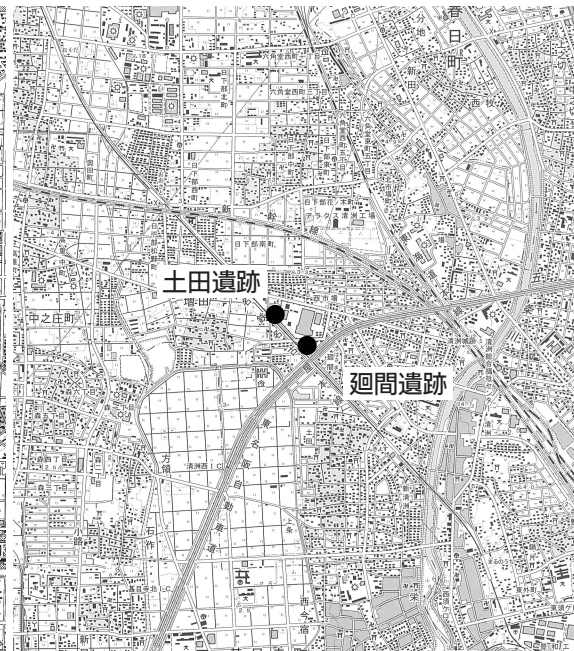
・令和7年度 愛知県埋蔵文化財センター年報

・研究紀要 第26号

令和7年度 調査遺跡位置図



国土地理院 1/2.5 万地形図「清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「清洲」

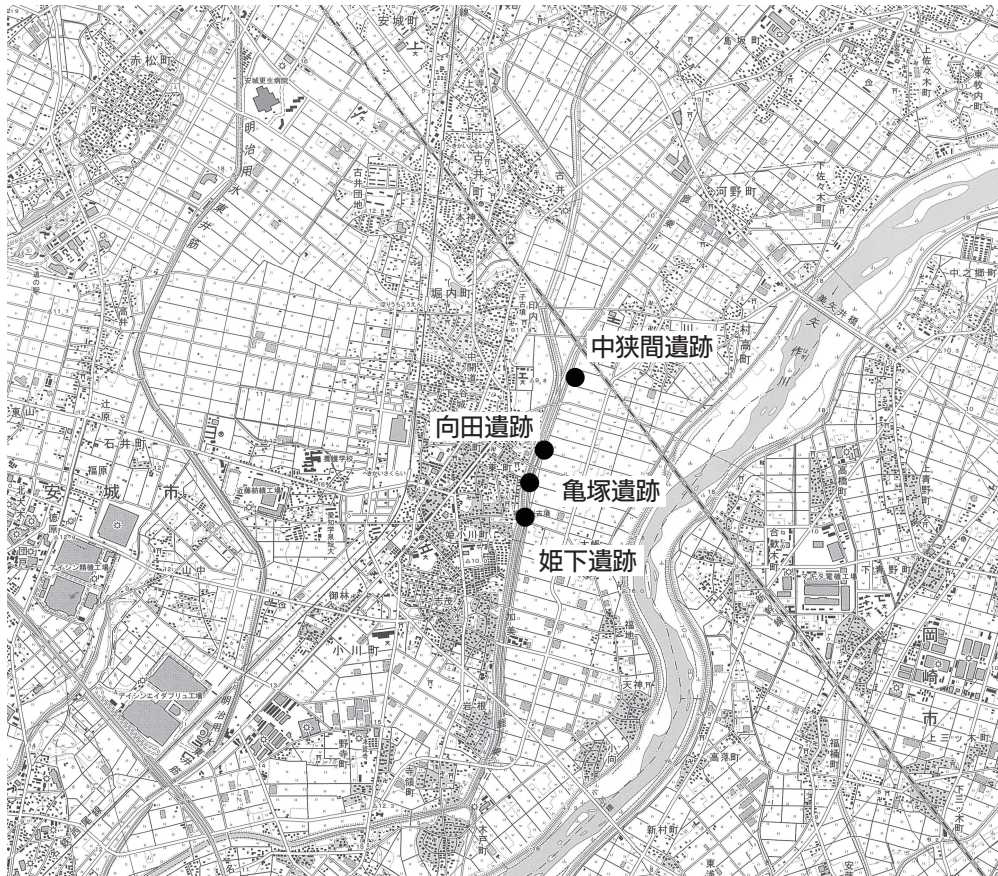
※地形図は 50%縮小しています。



国土地理院 1/2.5 万地形図「名古屋北部」



国土地理院 1/2.5 万地形図「小牧」



国土地理院 1/2.5 万地形図「安城」

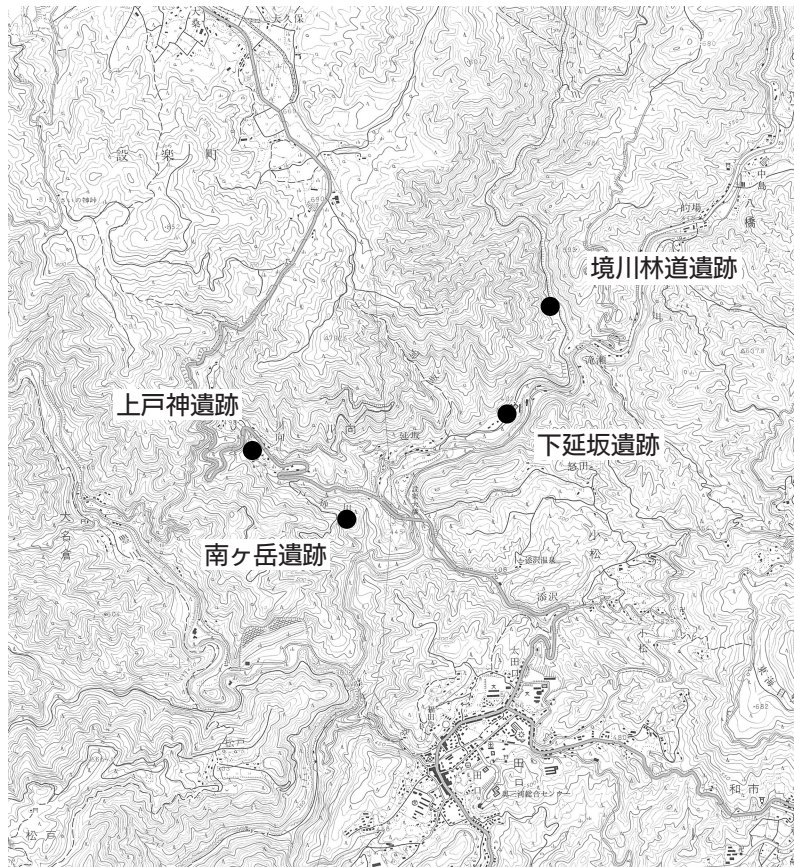
※地形図は 50%縮小しています。



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊田南」



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊橋」



国土地理院 1/2.5 万地形図「田口」

※地形図は 50%縮小しています。

II. 遺跡調査の概要

ふなぼしみやうら
船橋宮裏遺跡(本発掘調査B)

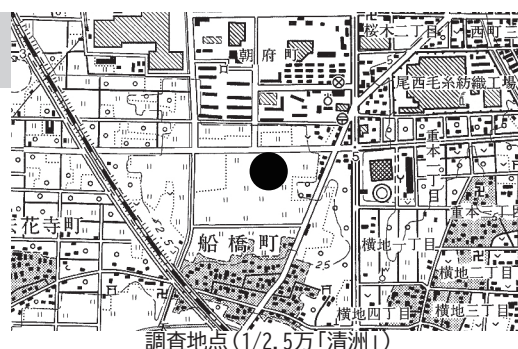
所在地 稲沢市船橋宮裏町地内
(北緯35度14分54秒 東経136度46分37秒)

調査理由 (一)津島稲沢線道路改良工事

調査期間 令和7年11月～令和8年1月

調査面積 197㎡

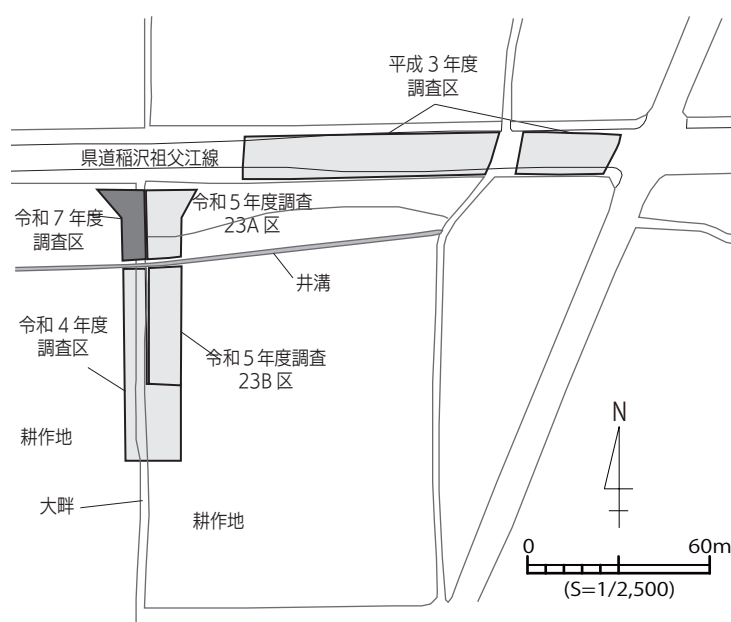
担当者 堀木真美子・柳原麻子



調査の経過 調査は、(一)津島稲沢線道路改良工事に伴うものであり、愛知県建設局道路建設課(一宮建設事務所)から愛知県県民文化局を通じて、委託事業を受けて実施した。令和7年11月から令和8年1月にかけて面積197㎡の発掘調査を行った。

立地と環境 船橋宮裏遺跡は三宅川右岸の自然堤防上に立地しており、周辺には小市畑遺跡、平野・小寺遺跡、船橋市場遺跡など中世の集落跡が展開される。船橋宮裏遺跡では過去に3回の発掘調査が実施されている。平成3年度の発掘調査では15世紀代の火葬施設や方形土坑群を伴う墓域が確認されており、令和4・5年度の発掘調査では遺構・遺物が希薄であり、集落の周縁部と判断されている。

調査の概要 今年度の調査区の現況は水田であり、湧水が多い。北壁の基本層序は次の通りである。まず、現地表面より約0.1mは耕土・床土が、それより下は灰色シルトと黒色粘土～シルトの互層が約0.2m堆積し、遺構検出面である黒褐色粘土～粘質土層に達する。調査区内は遺構検出面が、調査区南西部から北東方向に緩く傾斜しており、遺構はやや標高の高い調査区南部に特に集中していた。主な遺構は土坑、杭である。土坑は約3m×1mの長方形を呈する。杭は10本以上を検出した。そのうち4本は南北方向に列をなすように配される。鎌倉時代～室町時代の山茶碗がわずかに出土しており、中世の遺構である可能性が高い。
(柳原麻子)



船橋宮裏遺跡の発掘調査区



調査区全景(南東から)



杭検出状況(北東から)

つちだ
土田遺跡(本発掘調査B)

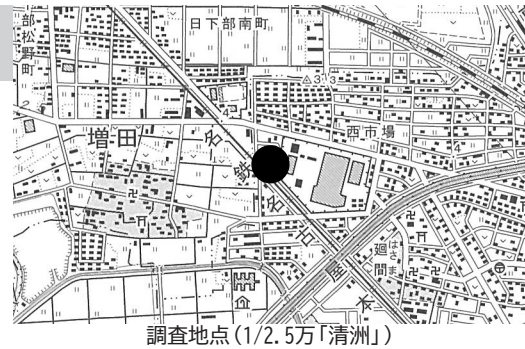
所在地 清須市西市場地内
(北緯35度13分2秒 東経136度49分45秒)

調査理由 名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業の本線工事・仮線工事(側道工事あり)

調査期間 令和7年5月～10月

調査面積 578㎡

担当者 永井宏幸・茶谷 満

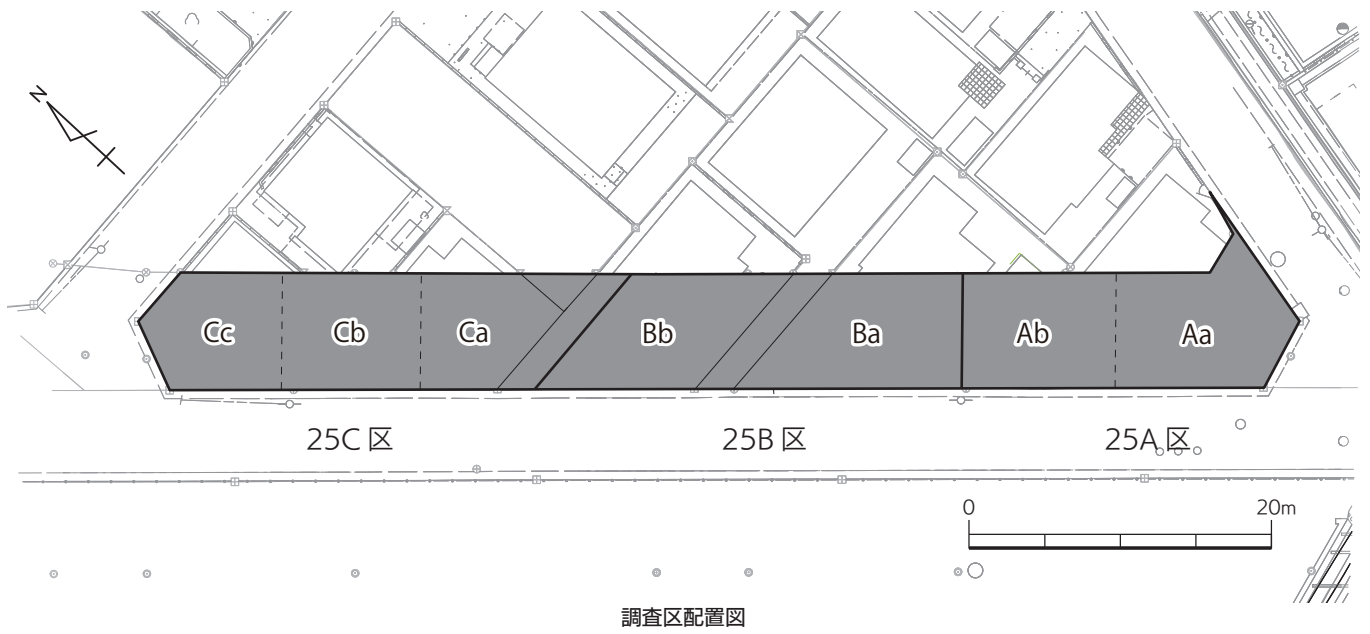


調査の経過 調査は、名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業に伴う事前調査として、愛知県建設局道路建設課(尾張建設事務所)より愛知県県民文化局より委託事業を受けて実施した。調査期間は令和7年5月から10月で、調査面積は578㎡である。

立地と環境 調査地は清須市の中央西寄り、稲沢市との境界付近で、名古屋第二環状自動車道と名鉄名古屋本線との交差点から北西におよそ300m離れた箇所である。遺跡は清須市域の東側を南北に流れる五条川右岸の沖積低地に立地する。標高は現況で3m前後である。今回の調査は、令和5年度の廻間遺跡調査区(23A区)の北西に延長した部分であり、周知の埋蔵文化財包蔵地である土田遺跡の北端にあたる。調査地の現況は住宅地であり、隣接する住宅の埋設管や生活導線の関係から、調査区を南東側から25A区、25B区、25C区と設定し、それぞれ2分割ないし3分割で調査を行った。

調査の概要 土田遺跡は主に古墳時代前期初頭を最盛期とする集落遺跡と考えられ、今回の調査区は集落が形成されていた推定範囲の北端に位置する。古代以降、中世では主に耕作地として展開し、畝・井戸等が確認されている。25A区はa区、b区の2分割で調査を行った。a区では近代までの畦畔付近において山茶碗小皿や古瀬戸(仏供)が出土した。古代～中世の面で土坑001SKおよび不明遺構002SXを検出した。b区では古代から中世のピットを数基検出した。また調査区壁面において古墳時代前期の竪穴建物と考えられる痕跡をわずかに検出した。25B区もa区、b区の2分割で調査を行った。a区は古墳時代前期より下層と考えられる湧水のある砂層まで近代以降の水田により攪乱されていたことが判明した。b区では古墳時代前期初頭の竪穴建物跡029SIを検出した。調査区が狭隘なため全体は検出できなかったが、1辺がおよそ4mを測る。029SI内の輪郭に沿って炭化材が出土した。また、029SIの北西寄りでは脚部が欠けた椀形高杯が伏せられた状態で出土した。25C区はa～c区の3分割で調査を行った。a区では中世以降(近世か)以降と考えられる畑の畝立溝を数条検出した。多くは南北方向を主軸とするが、一部直交して東西方向に伸びるものもある。また古墳時代前期に相当する第2面で土坑および溝、第3面で先行する竪穴建物跡(028SI)を検出した。b区もa区と同様に第1面で中世(または近世)以降と考えられる畑の畝立溝を検出した。第2面では中世と考えられる山茶碗を含む溝を検出した。第3面では古墳時代前期に相当する溝、土坑、不明遺構を検出した。遺構内からは古墳時代前期初頭のS字甕、高杯等が出土した。c区では井戸を2基(056SX、058SX)検出した。いずれも素掘りで、深さは検出面から80cm程度であった。下層では古墳時代前期初頭の溝および不明遺構を検出した。また、調査区北端では古墳時代前期初頭頃の落ち込みを確認した。勾配がかなりあり、地形としてこれより北側は深く落ち込んでいくものと考えられる。

(茶谷 満)



Bb 区 029SI 検出状況 (南西から)



Cb 区 047SD 遺物出土状況 (西から)



Cb 区 053SD 遺物出土状況 (西から)



Cc 区 056SX 下層確認状況 (井戸か) (北東から)

はさま
廻間遺跡 (本発掘調査B)

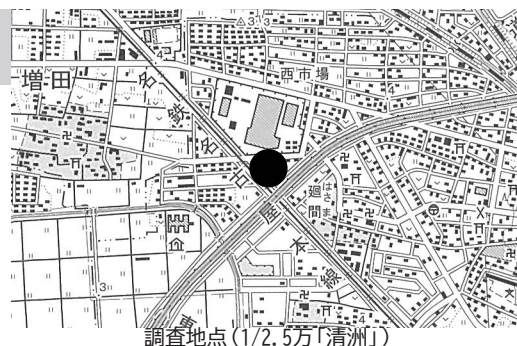
所在地 清須市廻間地内
(北緯35度13分3秒 東経136度49分42秒)

調査理由 名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業の本線工事・仮線
工事(側道工事あり)

調査期間 令和7年7月～令和8年3月

調査面積 1,237㎡

担当者 永井宏幸・茶谷 満



調査の経過 調査は、名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業に伴う事前調査として、愛知県建設局道路建設課(尾張建設事務所)から愛知県県民文化局を通じて委託事業を受けて実施した。調査期間は令和7年7月から令和8年3月で、調査面積は1,237㎡である。

立地と環境 調査地は清須市の中央西寄り、稲沢市と接する付近、名古屋第二環状自動車道と名鉄名古屋本線が交差する付近から北西におよそ50m離れた箇所である。遺跡は清須市域の東側を南北に流れる五条川右岸の沖積低地に立地する。標高は現況で3m前後をはかる。今回の調査は、令和5年度調査(23A区)の北西側に隣接する。調査地の現況は住宅地および商業・工業用地であり、隣接する住宅等の埋設管や生活導線、汚染土処理等の関係から、調査区を南東側から25A区～25E区と設定し、それぞれ2～6分割で調査を実施した。

調査の概要 廻間遺跡は古墳時代初頭を最盛期とする集落遺跡で、中心となる居住域(東側)と墓域(西側)が展開する。今回の調査区は居住域の北西に位置し、古代以降は居住を示す遺構が乏しくなり、中世頃からは主に耕作地として機能していたと推定される。

これまでの調査および試掘調査の結果から、古代～中世の遺構面、古墳時代前期初頭の遺構面の2面調査を行った。古代～中世に相当する包含層は、およそ風化した花崗岩の粘土～シルトを母材としたやや白い褐色土層で、古墳時代前期初頭の包含層は、およそ有機物を多く含む暗褐色土層である。暗褐色土層の下層は極細粒砂～細粒砂が厚く堆積し、遺物をはじめとして混雑物の入っていない自然堆積層となっている。

25A区はa区、b区に2分割して調査を行った。25Aa区は令和5年度調査(23A区)の北西に接しているが、攪乱のため明確に延長している遺構は確認できなかった。古代～中世の遺構面では焼土遺構とそれに伴うと考えられる土師器片が出土した。古墳時代前期初頭の遺構面ではS字甕を含む土器片がやや多く出土するピットと土坑を数基検出した。

25Ab区では市道に沿って近現代までの湿地状の堆積を確認した。また、宅地の造成に伴う土壌改良により、古代～中世の遺構面で検出した遺構はかなり不定形の土坑状落ち込みとなっていた。古墳時代前期初頭の遺構面ではやや不定形な堅穴建物状の平面を持つ遺構017SKのほか複数の土坑を検出した。017SK埋土からは甕、高杯などがややまとまって出土した。

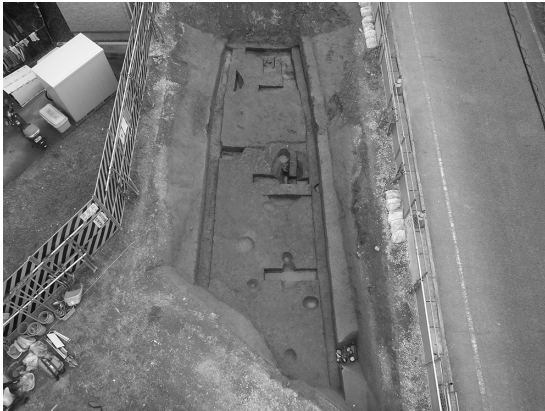
25B区はa区、b区に2分割して調査を行った。25Ba区では古代～中世に相当する遺構面がほぼ削平されていた。第1面として堅穴建物024SIおよび複数の土坑・ピットを検出した。またその下面においても古墳時代前期初頭のピット群を検出した。25Bb区は浄化槽跡のため、調査区の大半が攪乱となっていた。湧水も激しく、検出が困難であったが、わずかに残っていた古墳時代前期初頭の遺構面で土坑・ピットを4基検出した。



Ab区第2面完掘状況（南東から）



Ba区第1面完掘状況（北西から）



Cb区第2面完掘状況（北西から）



Cb区050SK遺物出土状況（北から）



Cb区055SK遺物出土状況（南西から）



Cb区056SK井戸側検出状況（南西から）



Da区第1面完掘状況（北西から）



Da区075SP遺物出土状況（南西から）

にしふたばちょう
西二葉町遺跡 (本発掘調査B)

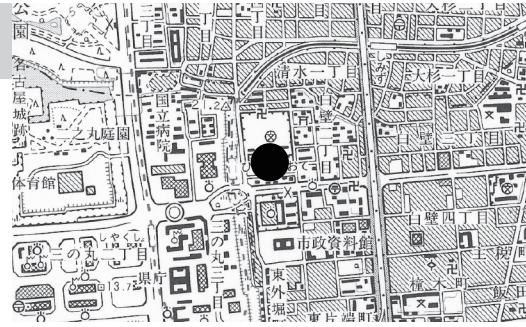
所在地 名古屋市東区白壁2丁目32番6号
(北緯35度18分34秒 東経136度90分95秒)

調査理由 明和高等学校校舎等建築工事

調査期間 令和7年5月～12月

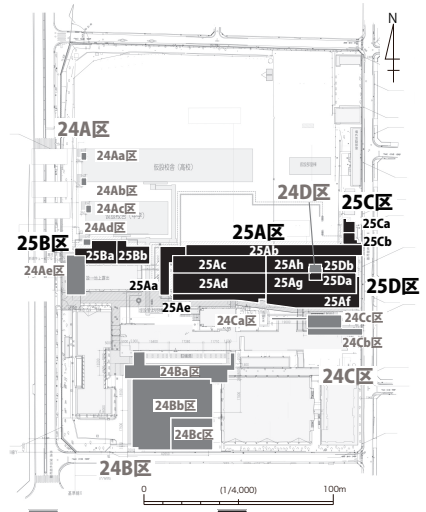
調査面積 3,646㎡

担当者 堀木真美子・川添和暁・柳原麻子



調査地点 (1/2.5万「名古屋北部」)

調査の経過 調査は愛知県教育委員会財務施設課による明和高等学校校舎等建築工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受けて、令和7年5月から12月にかけて実施した。調査面積は計3,646㎡で、学校旧北館跡および周辺エリアを25A区、西エリアを25B区、東門付近を25C区、通常とは排土処理の異なるエリアを25D区とした。調査の都合上、25A区はa～hの8区に、25B・C・D区はそれぞれa・bの2区ずつに、さらに区分けて実施した。



令和6(2024)年度調査区 令和7(2025)年度調査区
西二葉町遺跡 調査区位置図

立地と環境 当地では昨年令和6年度、すでに2,470㎡実施しており、今年度の調査は、2カ年目に当たる。西二葉町遺跡は、名古屋市東区白壁に位置し、遺跡範囲は、愛知県立明和高等学校敷地から北東に鎮座する七尾天神社方面に広がる。当地の現地表の標高は15.5m、名古屋台地が北側に向かって傾斜する崖ぎわ付近に立地している。

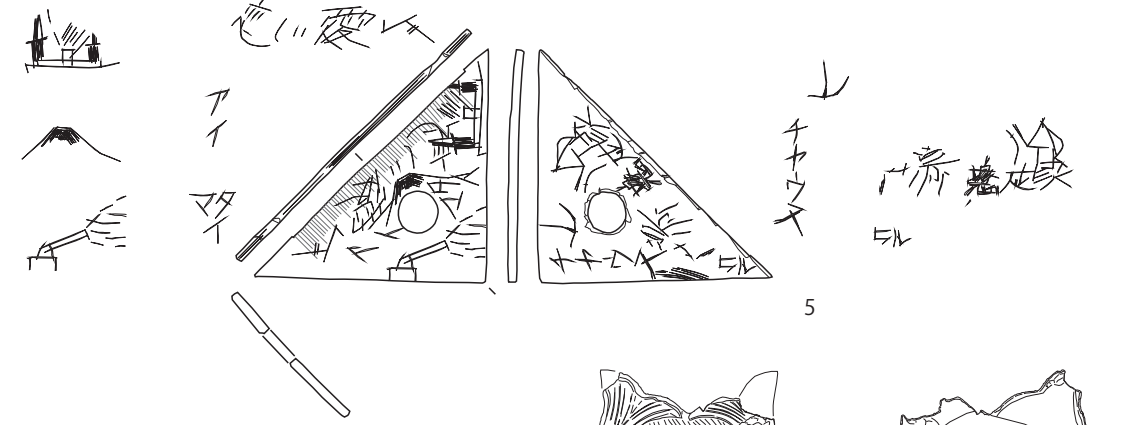
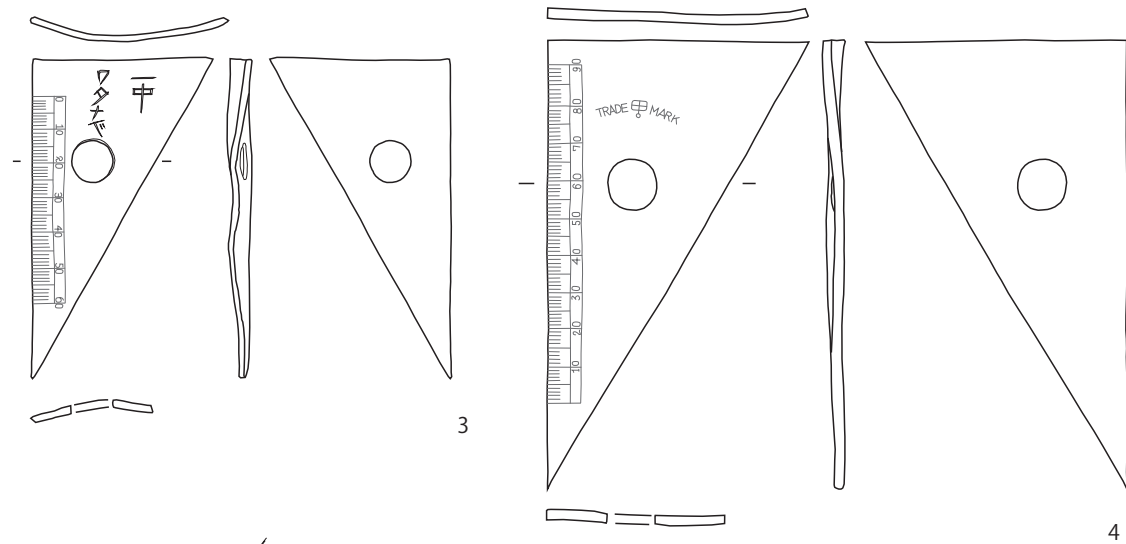
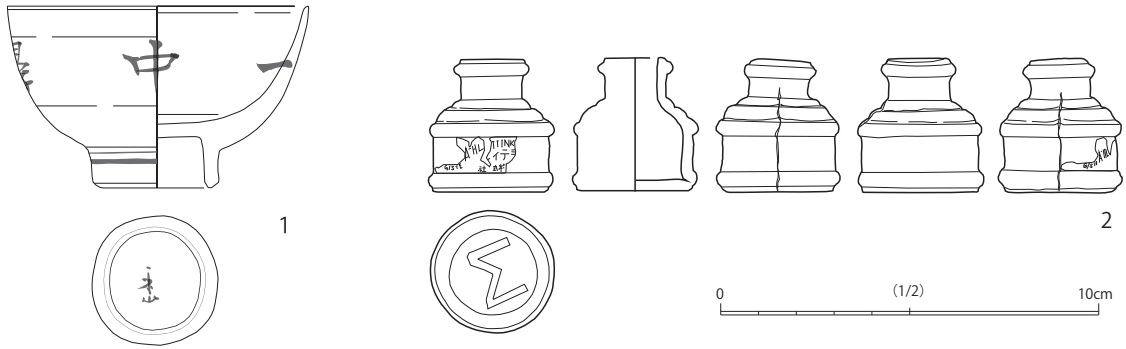
令和7年度 西二葉町遺跡 調査区別概要一覧

エリア	学校校内西		旧北館跡		東門		旧北館跡							
	北西端	北端	南側	北側	校舎基礎北隣接地		校舎基礎枠内			校舎基礎南隣接地				
区面積	25Ba	25Bb	25Aa	25Ab	25Cb	25Ca	25Ac	25Ah・25Db	25Ad	25Ag	25Da	25Ae	25Af	
時代	202 m	200 m	140 m	507 m	55 m	55 m	452 m	460 m	485 m	480 m	30 m	150 m	430 m	
戦後	○グラウンド整地層、 ○食堂関係廃棄土坑、 ○愛知県第一高等女学校校舎基礎跡、 ○空襲焼土層	○愛知県第一高等女学校校舎和楽会館基礎跡、 ○空襲後廃棄土坑 ○空襲焼土層	○復興住宅基礎、 ○愛知県第一高等女学校校舎、和楽会館関連施設基礎跡、 ○空襲焼土層		○空襲後廃棄土坑		○空襲後廃棄土坑、 ○空襲焼土層		○愛知県立明和高等学校旧北館基礎跡、 ○愛知県第一高等女学校校舎基礎跡、および和楽会館基礎跡			○空襲後廃棄土坑、 ○空襲焼土層		
近代	○地下室(名帝大?) ○雨水排水路、橋	整地層	○愛知県立第一中学校舎基礎跡				○愛知県立第一中学校舎基礎跡(講堂・渡り廊下など含む)						整地層	○廃棄土坑群(愛知一中)
近世後半	○井戸、 ○河原石を列状に並べた溝状遺構、 ○柱穴	○井戸、 ○柱穴、 土坑	○整地層、 ○三和土による池状遺構、 ○陶管による導水炉	○整地層、 ○柱穴、土坑、 ○大型土坑群、 ○常滑焼瓦埋設遺構(水等窟か)	○柱穴、 ○大型土坑群	○大型土坑	○整地層、 ○柱穴、土坑、 ○大型土坑群、 ○布掘り溝 ○築山、 ○陶管による導水炉、	○整地層、 ○柱穴、土坑、 ○大型土坑群(地下室由来か)、	○整地層、 ○大型土坑、 ○布掘り溝	○整地層、 ○大型土坑、 ○布掘り溝	○大型土坑群(軒丸瓦出土)	○築山、 ○大型樹木の植栽痕、 ○柱列(堀 or 柵列)	○柱列(堀 or 柵列)	
近世前半	○地下室由来の大型土坑群、 ○柱穴、	○焼塩壺廃棄土坑							○三和土で形作られた池状遺構、導水施設、 ○築山、大型樹木の植栽痕、					
戦国期									区画溝					
中世	溝		包含層											
古代	遺物のみで遺構は未確認													
古墳	遺物のみで遺構は未確認													
備考			南半分は地山達せず											

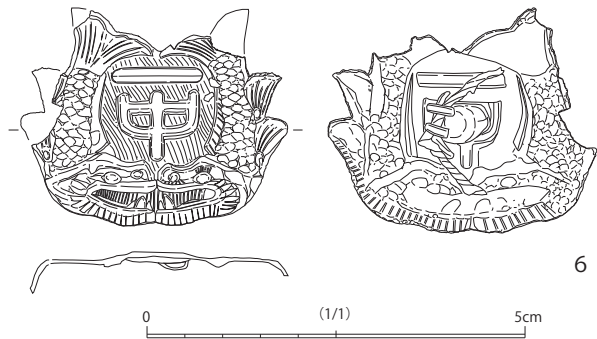
- 基本層序** 基本層序は、上からⅠ層：現代堆積層（20cm）、Ⅱ層：灰褐色硬砂層（10cm）【近代もしくは江戸時代堆積層】、Ⅲ層：褐色もしくは灰褐色砂層（60cm）【近世整地層】、Ⅳ層：灰色～黒色粘土層（20cm）【古墳時代～戦国期の耕作土・遺物包含層】、Ⅴ層：にぶい黄褐色シルト・粘土層（10cm）【漸移層】、Ⅵ層：黄褐色粘土層（熱田台地）【地山】である。なお、Ⅰ層の下層には空襲による焼土層が認められるところが多い。
- 調査の概要** 今回の調査では、工事との関係から、調査区を細切れに設定して実施した。その調査区ごとに調査内容をまとめたものが、14頁下の表である。今回の調査では、北館基礎枠内の25Ad区・25Ag区での遺跡の保存が良好であったことを特に記しておく。
- 古墳から中世前半** 昨年度同様に、今年度の調査では古墳時代以降の各時代の遺物が出土している。7世紀代の須恵器片や灰釉陶器は、近世以降の遺構から出土しており、原位置は保っていない状況であった。中世山茶碗片も近世以降の遺構から散在しているものがある一方、25Aa区および25Ba区ではⅣ層からの出土が確認されている。
- 戦国期** 戦国期から近世初頭に属すると想定される大型の溝が、旧北館基礎枠内25Ad区・25Ag区を東西に貫いて見つかった。昨年度24Ae区で調査された溝と同一のもので、検出レベルで幅3～4m、深さ2mを測り、断面はV字に近い形状を呈する。那古野城跡関連の遺構と推測されるものの、埋土内からの遺物の出土はほぼ皆無であった。
- 近世** この遺跡の主体は、近世以降である。近世は成瀬隼人正中屋敷関係の遺構・遺物がまともに見つかった。調査区西側の25B区では屋敷建物自体が、25A・C・D区では屋敷地裏の内容が調査された。調査の詳細については、18頁を参照されたい。
- 近代以降** 愛知県立第一中学校、名古屋帝国大学、愛知県立第一高等女学校、さらに愛知県立明和高等学校と、学校関係の遺構・遺物が調査された。これらに加えて、今回は戦後の復興住宅跡も見つかった。注目すべきは、上記の遺構が戦争による焼土層および整地層を含めて、層序的あるいは重複関係を保ちながら良好な状態で確認された点にある。
- 県立第一中学校** 25A・C・D区では、コンクリート基礎の上にレンガ積みの校舎建物基礎跡が全面的に見つかっており、渡り廊下の位置が推定されるような形で見つかったところもある。25Ad区・25Ag区では、基礎枠内の柱列の痕跡も確認されている。25Ba区で見つかった排水路とレンガ積みの柵も、当初は当時期に造られたもので、名古屋帝国大学期以降に作り替えられたものと考えられる。また、学校校舎配置の空白地であった25Af区東側では、廃棄土坑群が見つかり、磁器碗や三角定規がまとも出土した。
- 名古屋帝国大学** 名古屋帝国大学期と特定できた遺構として注目されるものに、25Ac区で見つかった、実験器具の一括廃棄された土坑がある。磁器乳鉢などの容器に加え、製作に失敗したガラス製試験管がまとも出土した。
- 県立第一高等女学校** 25B区および25Aa区で、コンクリート校舎基礎跡が見ついている。25Ad区では、講堂であった和楽会館の基礎が見ついている。レンガ積みの基礎であるが、県立第一中学校校舎のレンガを再利用しており、かつ第一中学校校舎基礎に重複した状態で見ついている。また、25Ab区では、和楽会館に伴うレンガ積み基礎の水周り施設も調査された。これらの建物は、愛知県立第一高等女学校として建てられたものであるが、明倫高等学校との合併で、すぐに明和高等学校となるため、明和高等学校初期の校舎跡ともいえる。
- 復興住宅** 25Ab区および25Cb区では、小型のレンガで積まれた基礎跡が調査された。一部第一中学校校舎基礎に重複した状態で見つかっており、建物配置などから戦後復興住宅跡と推定される。

(川添和暁)

茅 一 中 学 校

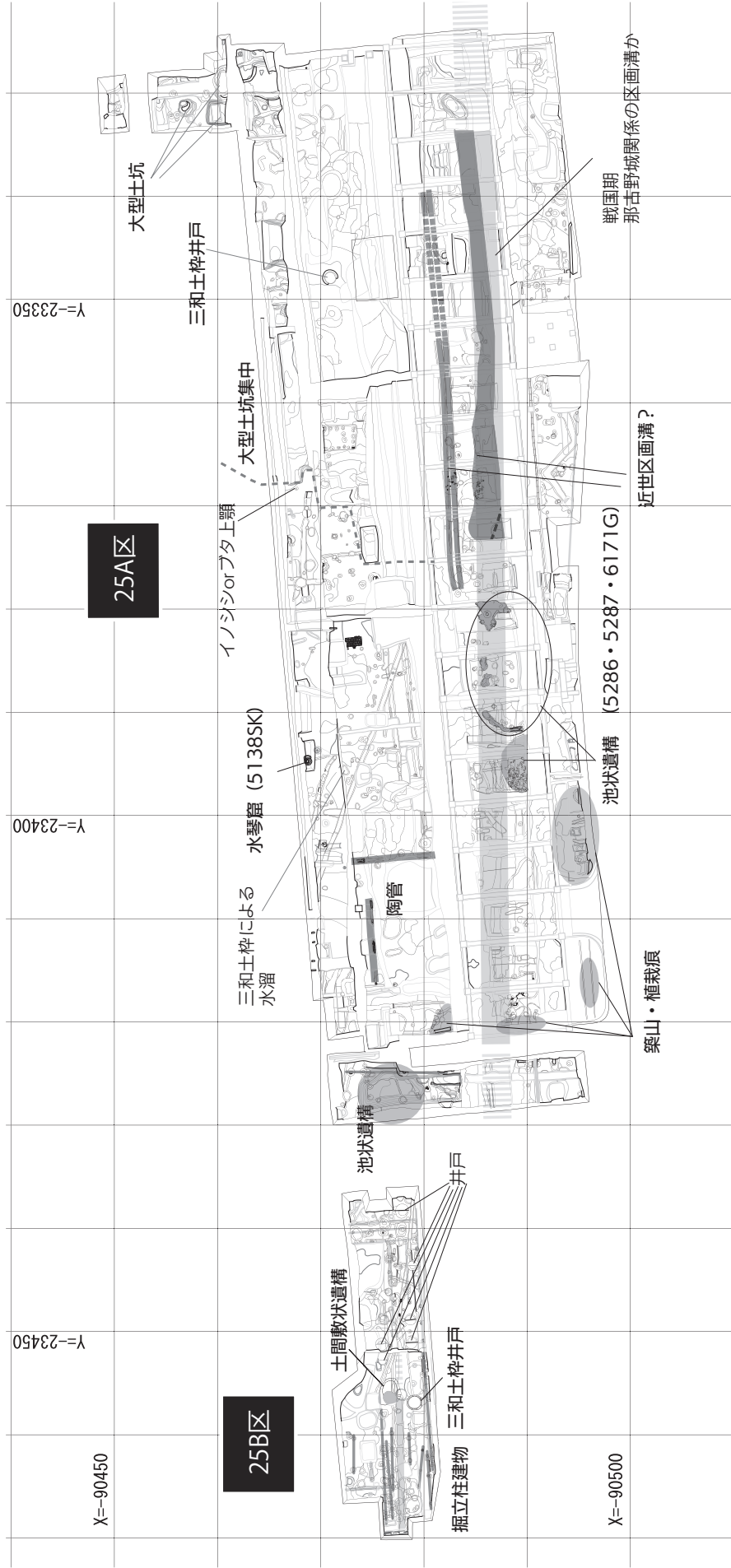


- 1：第一中学校 銘 磁器碗
- 2：インク瓶【ガラス製】
- 3～5：三角定規【セルロイド製】
- 3・5は線刻入
- 6：一中徽章【真鍮製】



愛知県立第一中学校関係遺物

- 近世の遺構の概要** 近世の遺構検出面は、確認された6面のうち2面(Ⅲ層・Ⅳ層)上面が該当する。本年度の発掘調査では、近世の遺構として、成瀬隼人正中屋敷に関連する礎石や井戸、地下室、庭園に関連する遺構(池状遺構、水琴窟、築山など)、大型土坑群、溝などを検出した。
- 犬山城白帝文庫所蔵の「成瀬隼人正中屋敷絵図1」(江戸時代後期)によれば、成瀬家の屋敷は名古屋城が位置する西を正面として、敷地の西側に位置する。今年度発掘調査を実施した25A～D区の中でも、西側に位置する25B区を除いて、調査区のほとんどが絵図から想定される屋敷の裏の空白地に該当していた。このことから、当初調査区は大型土坑などの廃棄場があったことが想定された。しかし、発掘調査では25A区の西部に池状遺構、水琴窟、築山など庭園を構成する遺構が集中して検出されたことから、庭園も営まれていたことが想定される。
- 25A・C・D区 庭園関連遺構** 池状遺構は25A区で4基以上を確認した。25A区で検出された池状遺構(5286・5287SG)は三和土によって構築される。三和土の範囲は東西に約13.0mを測る。5286・5287SGは不定形の平坦面が形成される。平坦面の側部には縁が形成され、中央には19世紀中頃の陶製盤が埋設されていることから、流水を中央に溜めていたと考えられる。この平坦面は幅0.7mの樋状遺構(6161SD)に接続する。樋状遺構も三和土によって構築され、陶管を伴う。池状遺構6171SGは、5286・5287SGと同地点の下層から検出された。東西約5.7m、南北2.5m以上を測る土坑で、底部に三和土の塊や18～19世紀の5～10cm大の瓦・土器片が密な状態で出土した。廃棄土坑の可能性も考えられるが、破片の大きさが均質で、平坦面を意識した配置であるため、意図的に配されたと判断される。水琴窟は25A区の中央北部で検出した。直径約0.7mの土坑内に常滑焼甕を天地逆に据えたもので、底部は破損しているが小孔のある底部片が出土した。築山は25A・C・D区の西部で計3基を確認した。5cm大の小礫あるいは50cm大の角礫や盛土で構築される。
- 区画溝** そのほか特筆すべき遺構には東西方向の溝3条がある。5414SDは全長40.0m以上、幅約2.0m、深さは検出面から約0.5mを測る。25A区では、調査区東部に戦国期と考えられる東西の溝が確認されたが、5414SDはこれを切る。5403SDと5394SDは近接し並行する。いずれも全長35.0m以上、幅約0.6m、深さ約0.4mを測る。名古屋城下を描いた近世の絵図(「享保十四酉年名護屋絵図」など)によれば、18世紀後半頃までは成瀬家屋敷地のある一区画の南部は他家の屋敷地であった。本調査で確認した東西の溝は、敷地を区切る区画溝であった可能性が高い。
- 25B区** 25B区は、「成瀬隼人正中屋敷絵図1」によれば屋敷の存在していた地点であり、近世の遺構が密集していた。特に柱穴が多く、東西方向に延びる柱当たりを数条確認した。これらは重複することから建物の建て替えがあった可能性が高い。また、調査区東部では土間状の遺構(4200SK)を検出した。土間の素材は硬化面を持ち、ワラ状の繊維が含まれる。そのほか、5基以上の井戸を確認した。うち1基(4199SE)は井戸枠に三和土を用いる。
- 出土遺物** 出土遺物の大半は大型土坑から出土し、陶磁器および瓦類が主体で、17世紀から19世紀に位置づけられる。陶磁器には茶碗、皿、徳利などが含まれ、墨書を有する資料も多い。年代の明記されたものとしては、「延享四年／御カ」の墨書土器がある。17～18世紀の焼塩壺も多数出土し、「サカイ／泉州磨生／御塩所」や「泉湊伊織」などの刻印が認められる。軒丸瓦には巴文、梅鉢文のほか、「丸に蔦」の家紋を確認した。これは成瀬家の家紋である「丸に片喰」とは異なり、別の氏族の由来が想定される。(柳原麻子)



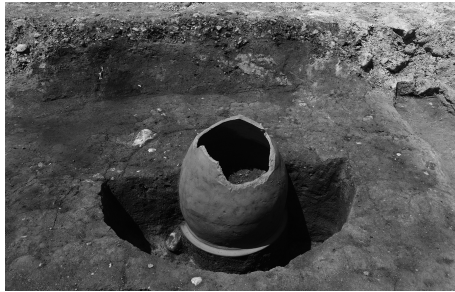
西二葉町遺跡の近世の主な遺構 (2・3面目)600分の1



池状遺構 (6171SG)



池状遺構 (5286・5287G)



水琴窟 (南寄り)



三和土粹井戸 (4199SE)



25Ba区 第一高等女学校学校基礎と
雨水排水暗渠・レンガ積みみ拵 (東より)



25Ac区 名古屋帝国大学
実験器具廃棄土坑 (東より)



25Ab区 校基礎【愛知一中】と
戦後復興住宅基礎の重複 (東より)



25Ad区 愛知一中校舎基礎と
第一高等女学校和楽会館基礎の重複 (北西より)



25Ah区 愛知一中校舎基礎
渡り廊下脇の雨落ち部 (東より)



25Af区 愛知一中廃棄土坑出土遺物

あおやましんめい

青山神明遺跡 (本発掘調査B)

所在地 西春日井郡豊山町青山神明地内
(北緯35度15分35秒 東経136度54分49秒)

調査理由 愛知県基幹的広域防災拠点整備事業および防災拠点
周辺道路整備工事

調査期間 令和7年5月～令和8年3月

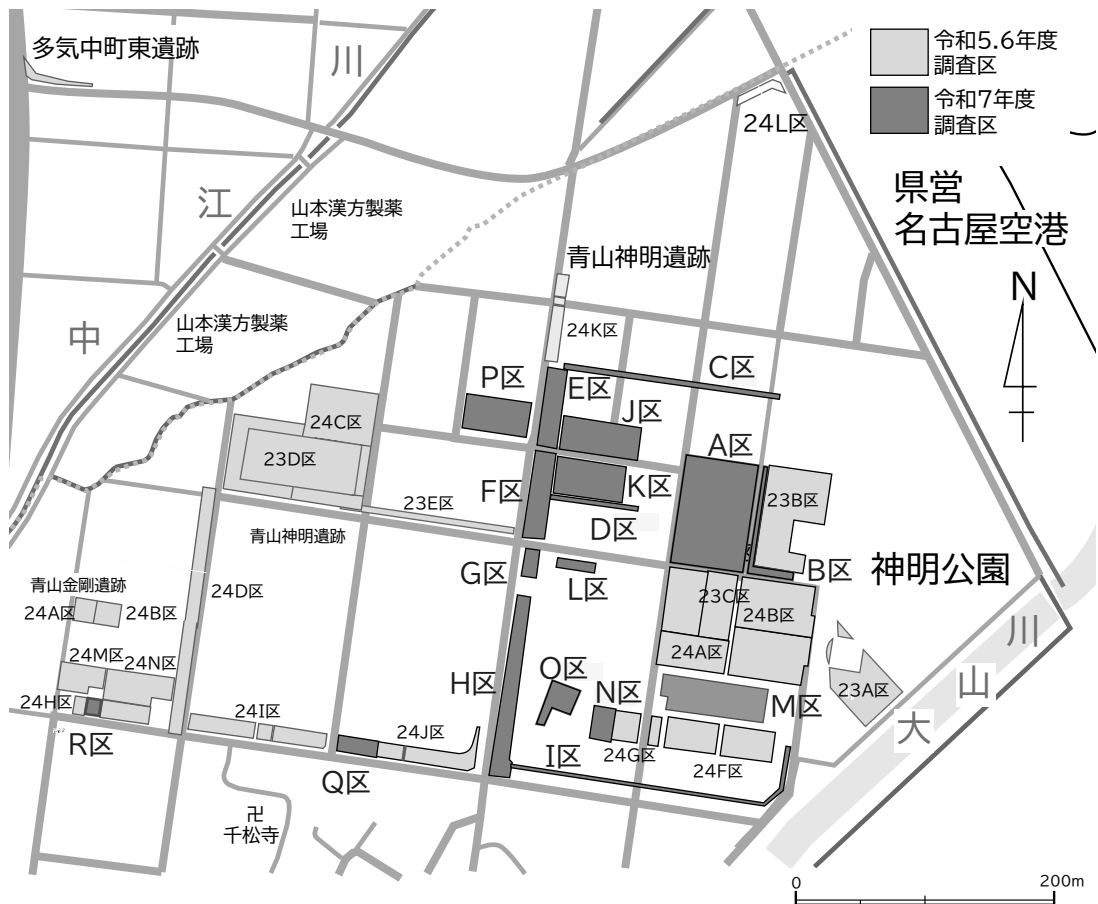
調査面積 12,753㎡(10,181㎡+2,572㎡)

担当者 酒井俊彦・池本正明・鈴木正貴・中里伸明・
梶田真由



調査の経過 調査は、愛知県防災安全局による愛知県基幹的広域防災拠点整備事業と、愛知県建設局
道路建設課による防災拠点周辺道路整備工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局
より委託を受け、令和7年5月から令和8年3月まで実施した。調査区はC区からP区ま
での14区あり、現地の状態に応じて調査区をさらに細分して調査を実施した。調査面積は
12,753㎡である。こちらのうち防災安全局による事業の面積は、10,181㎡であり、道路建
設課による事業面積は2,572㎡である、調査区のうちE, F, G, H区は両事業が隣接して
いることから調査成果については本稿でまとめて報告を行う。

立地と環境 青山神明遺跡は、西春日井郡豊山町の北部に位置しており、小牧市から続く低位段丘上
に立地する。本遺跡の南東側には大山川、北西側には中江川があり、挟まれている。標高
は約10mである。
(鈴木正貴)



令和7年度 青山神明遺跡調査区位置図

調査の概要

25C区

25C区は東西に細長い調査区で、柱穴が密集する西側と、溝が重複し井戸が分布する東側とで様相が異なる。西側では、古墳時代前期～中期の竪穴建物が1棟確認されたほか、土師器が出土する浅い土坑が散見された。また、L字に折れ曲がって25E区に続く中世の溝が確認できた。東側では中近世の溝が縦横に錯綜する他、古代の土坑・中世の井戸が確認された。

25D区・25K区

25D区およびK区は、柱穴等の分布密度が低く、溝や井戸が主要遺構となる。これは、微地形レベルで低地であることに加え、調査区西半分が大きく削平されていることに起因している。さらに調査区東側では遺構検出面から湧水層(非常に硬くしまった砂層)までの深さが数十cmと浅く、水気の多い土地条件であることが大きな特徴となっている。

25K区東側を中心に、風倒木痕が多数検出された。これは、非常に硬くしまった砂層までの深さが浅いことと相関しており、硬い砂層を突き破って根を張ることができずに横方向に広がっていった結果、強風等に抵抗する力が弱かったものと理解している。風倒木痕の埋土からは時期不明の土器極細片が稀に出土するものの、基本的に全ての遺構に切られている。よって、最も古い遺構(古墳時代前期末～中期初頭)よりは確実に古い時代に形成されたと判断できる。時代を決定する根拠に乏しいが、縄文時代に形成されていた植生が変化して低湿地化し、さらに弥生時代までに低位段丘化した状況が推定できる。

25D区では古墳時代前期末～中期初頭の井戸が1基確認された。出土した土器は相前後する時期のものがやや混在しており、25A区や25F区で検出された古墳時代の溝出土土器とよく似た構成となっている。井戸と溝が同時併存であった可能性は高い。

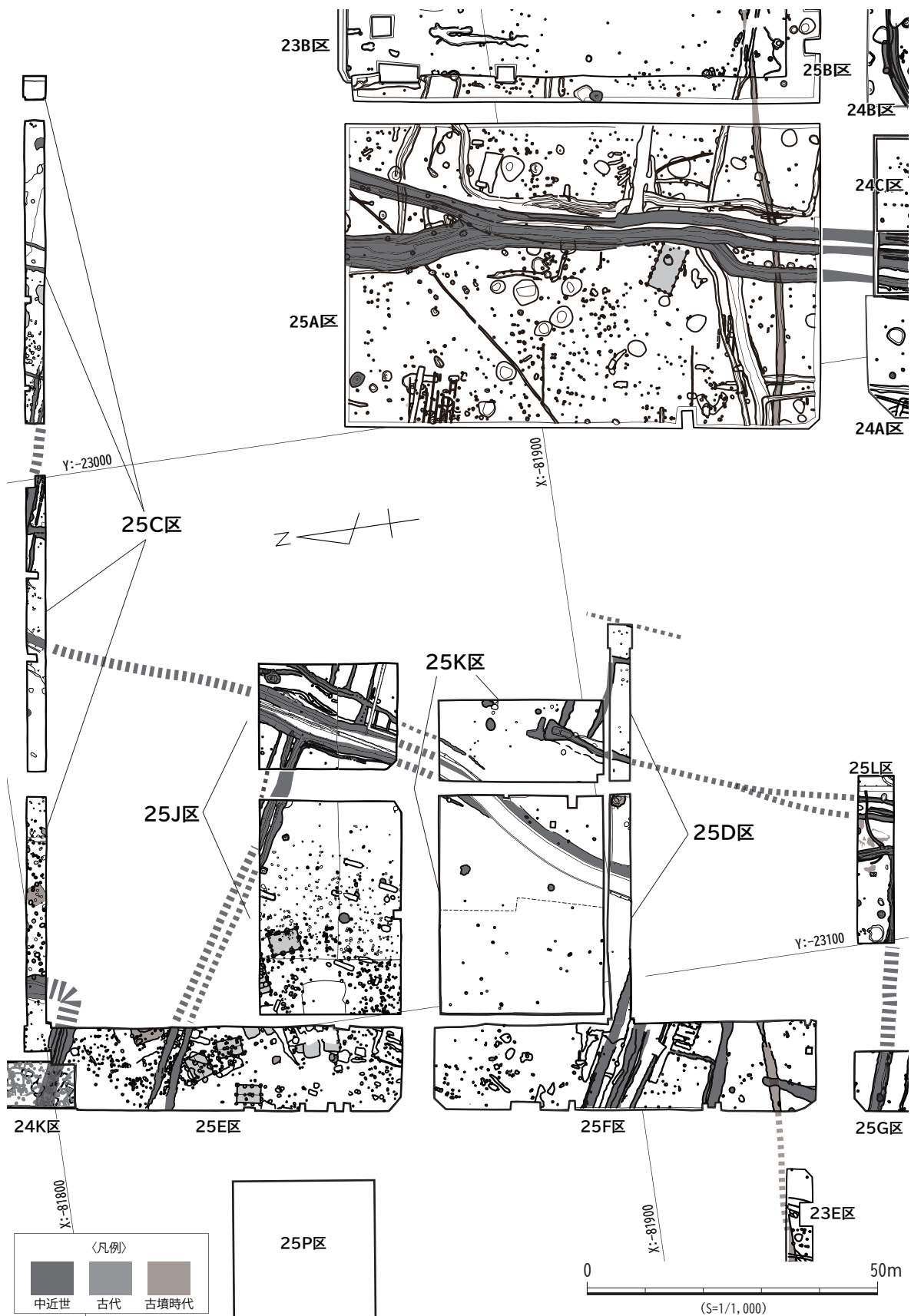
25K区では中世の井戸、中近世の溝が確認された。井戸は山茶碗がまともって出土するのが主体であり、そのうちの1基からは初期山茶碗・皿が完形で出土している。25K区東側では溝の起点が検出された。湧水層(非常に硬くしまった砂層)まで掘りこみ、その水を溝に流し込む構造となっている。灌漑用水路として機能していたのであろう。

25J区

25J区は柱穴等が密集する西側と、溝や井戸が分布する東側に大別できる。25J区西側では古代の掘立柱建物が確認された。ただし、柱穴自体から明確な遺物は出土していない。調査区西側に分布する遺物包含層に古代の遺物が目立つことと、柱穴の平面規模等からの推定にすぎないことは付言しておく。25J区東側で検出された溝はT字あるいはL字の平面形で、南北方向の溝に集束するのが特徴である。南北方向の溝を基幹水路、東西方向の溝が支水路として機能していたものと推定している。東西方向の支水路は近代までには埋まっていたとみられるが、南北方向の基幹水路は近代以降も踏襲され、1940年代には道路として利用されていたことが国土地理院所管の衛星写真から確認でき、コンクリート製の排水溝も実際に確認できた。



25K区東側全景(南から)

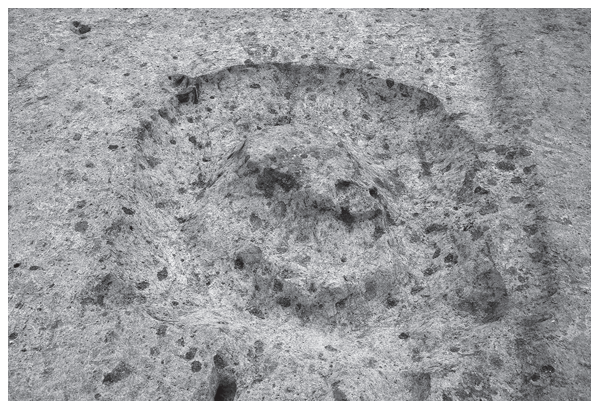
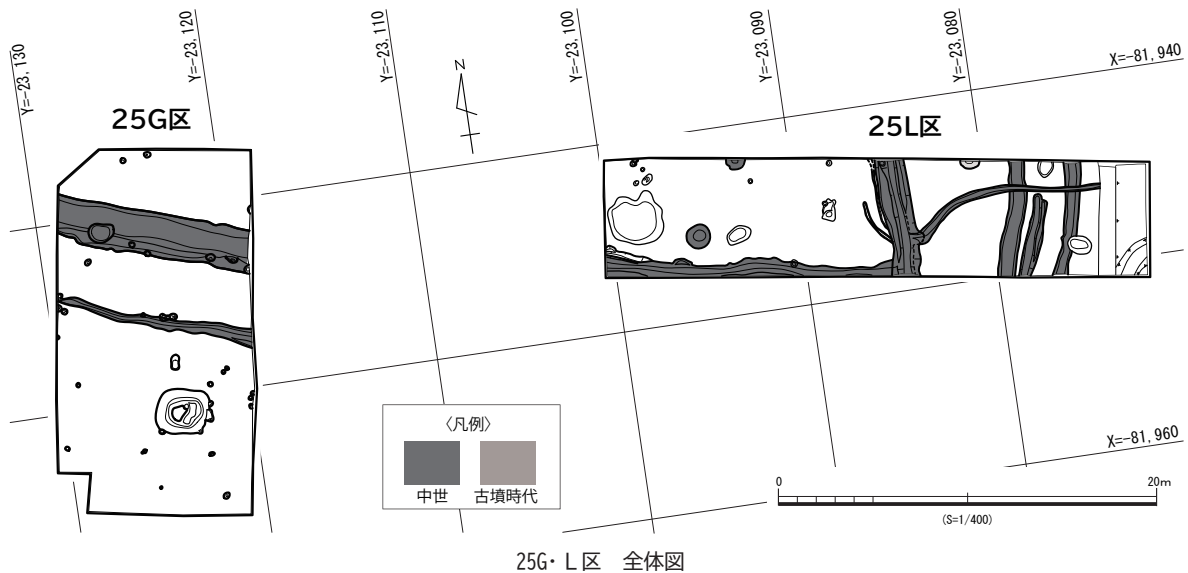


25C・D・J・K 区全体図

25G区 25G区は柱穴等の分布密度が低いエリアで、東西方向の溝2条、井戸1基、周溝遺構1基などが検出された。東西方向の溝は中世のもので、後述する25L区で検出された溝につながる可能性が高い。井戸は溝と重複する位置で検出されており、山茶碗が出土している。周溝遺構は平面が隅丸方形のもので、一辺2.5m前後の小規模のものである。遺物が出土しなかったため時期不明であるが、類例として24Cb区で検出された円形周溝遺構(中世)があり、25G区近辺の調査事例を踏まえても中世以降のものである可能性が高い。

25L区 25L区では中世の溝と井戸が確認されたほか、古墳時代の井戸1基が確認された。ただし、山茶碗の破片が多少出土するものの、いずれの遺構も遺物が乏しく、時期比定の決め手に欠ける。25G区同様、柱穴等の分布密度が低く、土坑も浅いものが多い。

南北方向の溝のうち、調査区中央で検出された溝には東西方向の溝が接続する。そのうち、西に延びる溝は25G区で検出された溝に続く可能性が高い。土層観察から、東西方向の溝が先に埋まり、最終的には南北方向の溝のみが機能した先後関係が認められる。調査区東側で検出された南北方向の溝は、25K区東側で検出された溝につながる可能性が高い。
(中里伸明)



25G区 周溝遺構(東から)

25E区・ 25E区は昨年度24Ka区の南側に接し、25F区は25E区の南側に位置する。両調査区で検出された主な遺構は古墳時代前半、奈良時代、中世および近世である。古墳時代の遺構としては25E区で竪穴建物1棟、井戸1基および周溝遺構1基を検出した。25F区では昨年度の24E区から伸びる東西方向の溝1条を検出し、土師器類が比較的多く出土した。周溝遺構は最大幅1.8mの溝が方形に巡ると推定される。奈良時代の遺構はE区で竪穴状遺構5棟、掘立柱建物3棟、井戸1基を検出した。竪穴状遺構は検出面では浅く、遺存状況は悪い。遺物は須恵器が少量出土した。掘立柱建物は2×3間の総柱で南北方向のもの2棟、東西方向のもの1棟である。柱穴より須恵器杯蓋が出土した。井戸は直径約1.6m、深さ約1mである。中世の遺構としては25E区で南北方向の溝5条、F区で南北方向の溝1条、井戸2基が検出された。近世の遺構としては25F区で東西方向の溝6条、南北方向の溝2条を検出した。近世の陶磁器類が少量出土した。



25E区遺構図



掘立柱建物(奈良時代)



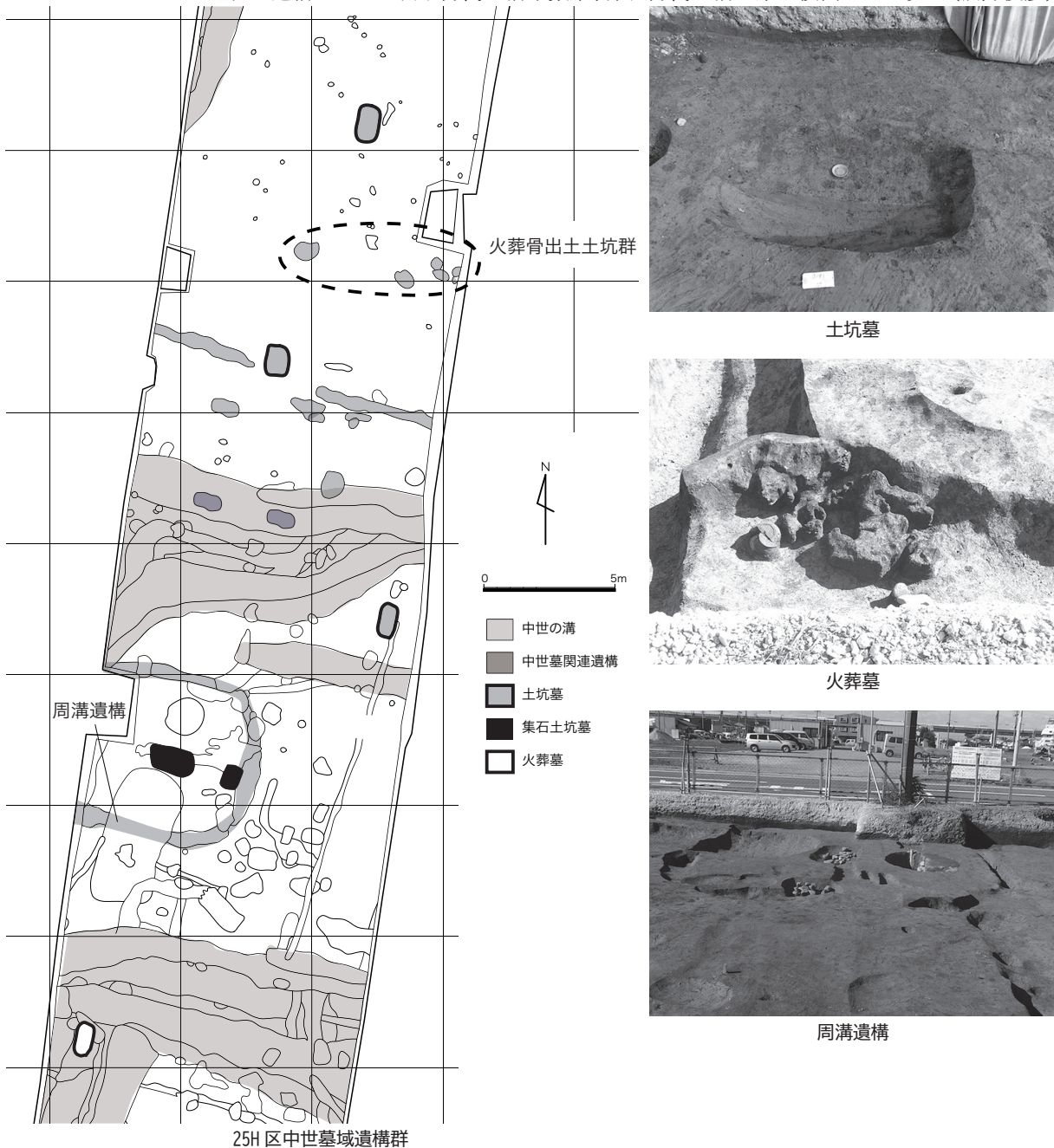
井戸(奈良時代)



25E区調査区全景(東より)

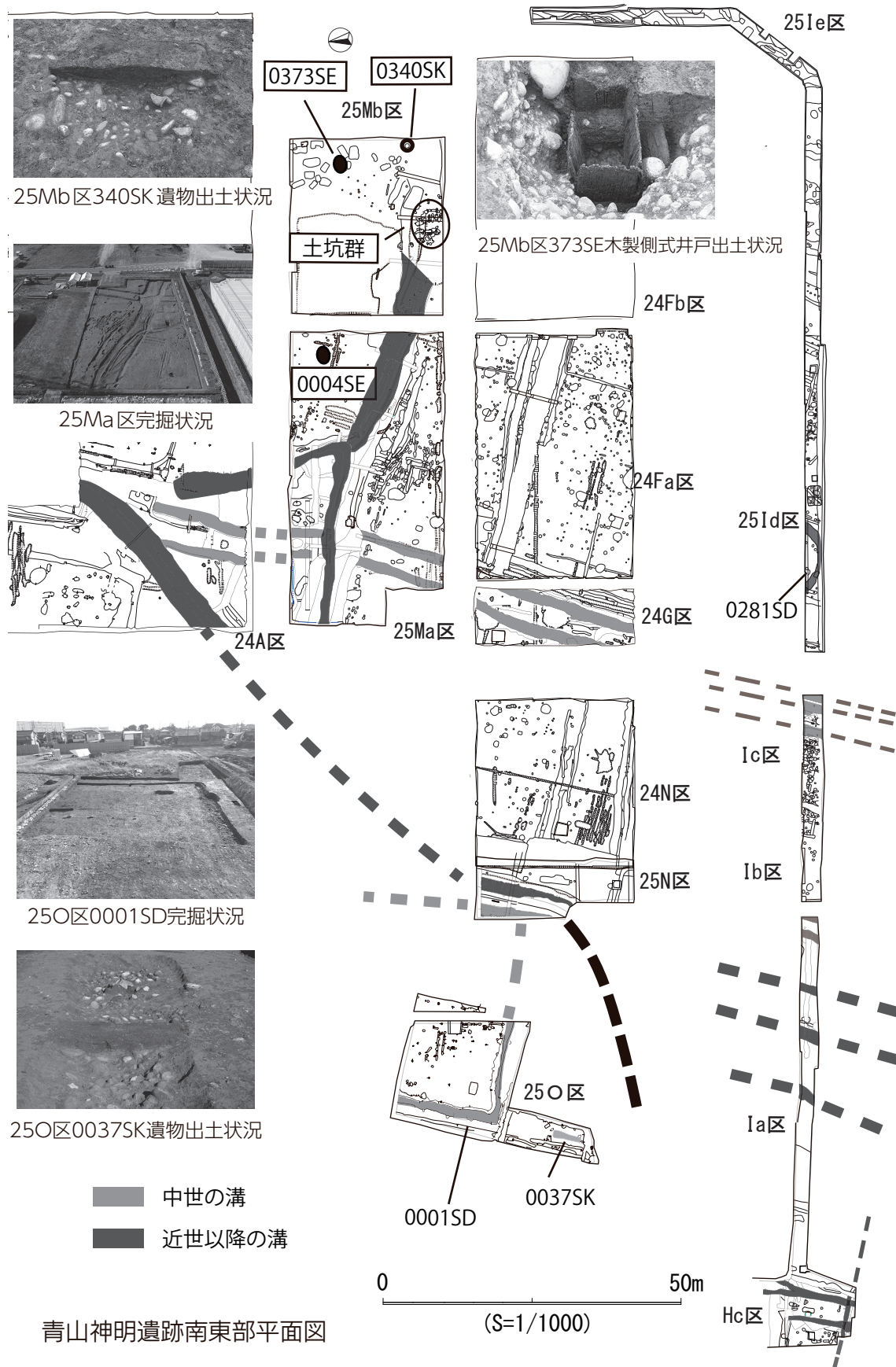
25Ha 区・ 25Ha・Hb 区では中世および近世の遺構が検出された。

25Hb 区 中世の遺構としては溝と中世墓および中世墓関係の遺構が確認された。東西方向の溝三十数条と南北方向の溝二十数条が検出された。中世墓の遺構として土坑墓3基、集石土坑墓2基、火葬墓1基が確認された。土坑墓は長軸が南北方向をとり、3基が離れて位置する。集石土坑墓は2基が東西方向に並ぶ。小形のものから骨片が出土した。火葬墓は中世溝の掘り方を利用しており、骨片、焼土、炭化物と古瀬戸陶器が出土した。また、骨片、焼土、炭化物を含む埋土の小土坑5基が集中して検出された。火葬に伴うものと推定される。集石土坑墓2基の周囲に周溝遺構が検出された。溝が囲む範囲の直径は約7mで、埋土より骨片、焼土が検出された。その他、中世墓に関連する遺構が検出されている。直線的に並び、約2mほどの途絶部分がある溝1条が検出された。途絶部分は通路的な機能があると推定される。溝に近接して同方向に並ぶ、柱穴の可能性のあるやや大型の土坑3基が検出された。また、特殊な平面形で根石が複数ある土坑が溝に近接して3基検出された。近世の遺構としては南北方向の溝十数条、東西方向の溝1条が検出された。（酒井俊彦）



- 調査の概要** Hc区では中世の井戸1基と近世の溝などが確認された。
- 25 Hc区** 井戸(0444SE)は素掘りの井戸で、深さは地表面から約1.5mであった。井戸の中ほどで灰褐色粘土が水平に堆積しているところがあり、上下で2時期で使用していたと推測する。上層から東濃型山茶碗、下層からは尾張型小皿が出土した。溝0440SD・0401SDは南北方向に延びており、それぞれ近世の陶器が出土した。
- 25 I区** I区は調査区を西からIa・Ib・Ic・Id・Ieと計5区に分けて調査を行い、主に溝と土坑が確認された。南北方向に延びている溝は7条が確認され、中世後半～近世と推測される。Id区では、古墳と竪穴建物跡が確認された。
- 25 M区** M区は調査区を西からMa・Mbの2つの調査区に分けた。
- Ma区では、主に掘立柱建物跡、中世の井戸2基、溝や近世の溝が確認されている。
- 掘立柱建物跡は、調査区の北東側で確認され一部調査区外に広がっていたが、推定で1間×2間と推測される。近くには素掘りの井戸0004SEが確認され、三筋壺が出土したことから12世紀に属すると思われる。溝は合計10条以上が確認され、いずれも深さは約20～40cmであった。このうち0085SDは尾張型山茶碗第5型式、0093SDは尾張型山茶碗第5型式、0297SDは尾張型山茶碗第3型式が出土しているため、中世の溝と考えられる。また0033SDの下層には礫が敷き詰められており、石材はほとんどが地山由来の濃飛流紋岩の円礫であった。道路遺構の名残の可能性はある。
- Mb区では溝、掘立柱建物跡、土坑、井戸が確認された。
- 溝は、Ma区から続く東西方向に延びる4条が確認された。掘立柱建物跡は、調査区中央で確認され、3間×1間であった。土坑は南側の地形から一段低くなった部分で確認され、遺構の平面プランの多くは隅丸方形であった。このうち、土坑340SKからは灰釉陶器瓶が出土しており、古代に属すると思われる。井戸0373SEは調査区北東側にあり、青山神明遺跡では数が少ない木製側式の井戸であった。この井戸は、各面に1枚板が使用されている。また、板を安定させるように下の部分を鋭角に削る加工がなされていた。また板にほぞ加工があり転用材と思われる。
- 25 N区** N区は中世の溝や、近世末～近現代にかけての道路が見つかった。
- 溝0001SDは、南北方向に延びており古瀬戸盤類が出土した。この溝に平行する形で近世から近代と思われる道路遺構0003SFも延びている。また、道路遺構の両脇には側溝と思われる溝がある。井戸0015SEは調査区の南西側で確認された。近世の水田遺構によって大部分が削平されており、下層の一部のみが残存していた。遺物は尾張型山茶碗第5型式や渥美窯産の甕片が出土している。
- 25 O区** O区は中世～近世の溝が3条、柵列が2列、中世の土坑墓が確認されている。
- 溝は調査区東側で東西方向に延びており、調査区西側で南北方向に屈曲する。断面を精査した結果、2条の溝が重複していることが確認された。遺物は古瀬戸四耳壺が出土しており、中世後期に属すると思われる。柵列は調査区北東側で南北方向と東西方向の2列が確認された。東西方向の柵列の0002SPからは永楽通宝などの銅銭が出土しており、中世後期に属すると思われる。土坑墓は調査区南西側から検出された。深さは10cmと浅かったが古瀬戸四耳壺片などが出土した。
- 25 P区** P区では、古墳時代から近世にかけての遺構・遺物が確認された。

(梶田真由)



あおやましんめい

青山神明遺跡 (本発掘調査B)

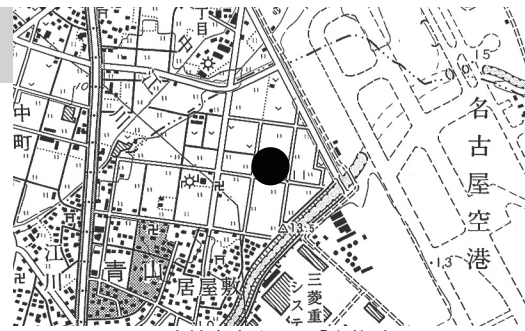
所在地 西春日井郡豊山町大字青山字神明地内
(北緯35度15分46秒 東経136度54分41秒)

調査理由 防災拠点周辺道路整備工事

調査期間 令和7年5月～8月

調査面積 599㎡

担当者 鈴木正貴・梶田真由



調査地点(1/2.5万「小牧」)

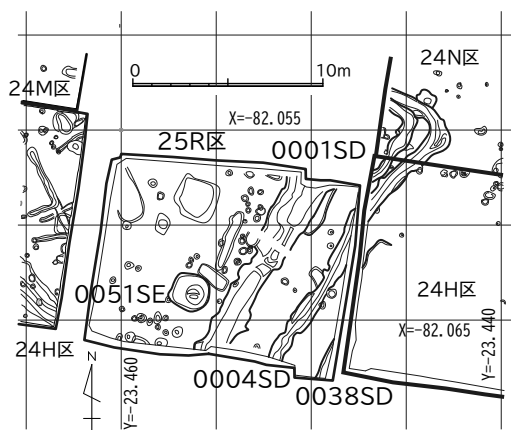
調査の経過 調査は、愛知県建設局道路建設課による防災拠点周辺道路整備工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、令和7年5月から8月まで実施した。調査区は遺跡南西部に位置しており、西側からRa区、Rb区、Qa区、Qb区と区分した。調査面積は599㎡である。

立地と環境 青山神明遺跡は、西春日井郡豊山町の北部に位置しており、小牧市から続く低位段丘上に立地する。本遺跡の南東側には大山川、北西側には中江川があり、挟まれている。標高は約10mである。

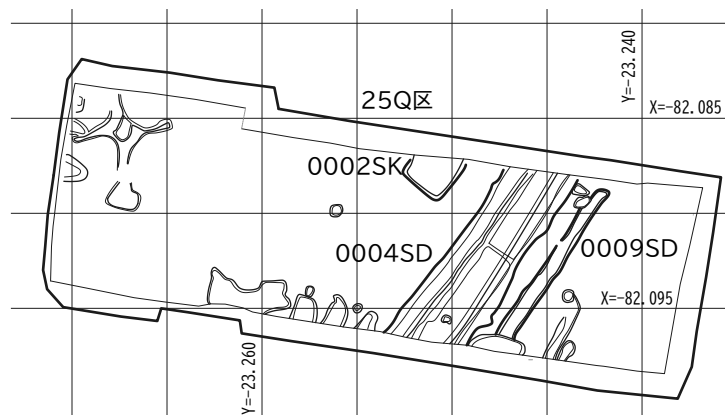
調査の概要 調査区全体が湿地状の灰色粘土が堆積しており、灰色粘土の下位から溝と方形土坑1基が検出された。溝は大略南北方向に走るもので2回以上の掘り直しが確認されており、古瀬戸製品などが出土したことから15世紀に位置付けられる。方形土坑は埋土が斑土となるもので、土坑墓の可能性が考えられるが、出土遺物は確認できなかった。

25R区 大略南北方向に平行して延びる溝3条と井戸1基が検出された。溝は隣接する24H区、24M区、24N区の調査成果と合わせてみると方形に巡る形に復元され、内部からは井戸の他に柱穴などの小規模遺構群が確認されていることから、屋敷であったと推定される。これらの遺構は古瀬戸製品などを伴うことから、室町時代に属すると考えられる。

(鈴木正貴)



25R区全体図



25Q区全体図

青山神明遺跡 (本発掘調査B)

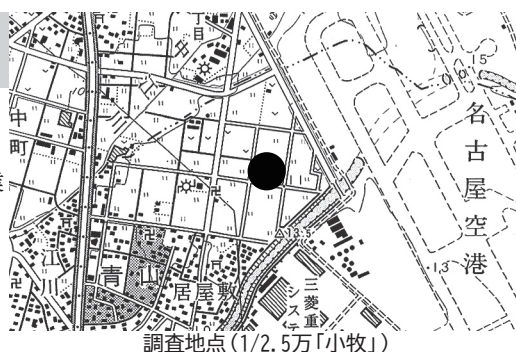
所在地 西春日井郡豊山町大字青山字神明地内
(北緯35度15分35秒 東経136度54分49秒)
中小河川改良事業・総合治水対策特定河川事業
(一級河川大山川)

調査理由

調査期間 令和7年5月～9月

調査面積 5,041m²

担当者 永井宏幸・早野浩二・小柳篤史



調査の経過 調査は、愛知県建設局河川課による中小河川改良事業・総合治水対策特定河川事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、令和7年5月から9月まで実施した。調査区は23B区の西側、23C区、24A区の北側、24B区の北西側に位置する。調査面積は5,041m²である。

立地と環境 本遺跡は南東側の大山川と北西側の中江川という二本の河川に挟まれた低位段丘上に位置する。遺跡付近の標高は約10mである。

調査の概要 調査の結果、縄文時代草創期から中世にかけての遺物、遺構が検出された。中でも古墳時代前期から中期、古代末から中世の遺構、遺物が多く確認された。

縄文時代草創期 縄文時代草創期の遺物として、有舌尖頭器が出土した。石材には下呂石が用いられている。同時期の遺物は他に確認できなかった。

古墳時代 古墳時代の遺構は溝560SDが中心である。溝560SDからは土師器の甕、高杯、壺が多く出土した。時期は古墳時代前期後半から中期前半までで、やや幅がある。560SD周囲には628SXなど同時期の土師器を多く含む不定形の土坑がある。これらは竪穴建物(の掘方)と想定できる。

古代 古代の遺構としては、掘方が方形を呈する井戸800SEなどがある。井戸800SEの底面には、須恵器把手付鉢が正位で据えられていた。井戸の時期は共伴した須恵器から、8世紀後半と考えられる。井戸800SEの西側には、掘立柱建物730SBが位置する。掘立柱建物730SBは桁行6間以上、梁行2間で、井戸800SEの掘方と方位が近似することから、井戸と建物は同時期と考えられる。

古代末から中世 古代末から中世の遺構として、多数の溝、土坑、井戸が確認できた。特に井戸は計17基を確認した。平安時代末の井戸310SEでは、灰釉陶器輪花碗、玉縁口縁碗などが出土した。また、井戸10046SEでは、尾張型山茶碗、土師器伊勢型鍋などの遺物が出土した。鎌倉時代の井戸102SEは、尾張型山茶碗が多数出土した。室町時代の井戸10060SEは、墨書がある東濃型山茶碗、土師器皿などが出土した。

近代 調査区中央に南北に延びる2条の溝は、明治時代から存在していた道路と、その両脇にある側溝である。

まとめ 以上、今年度調査区の遺構、遺物としては、縄文時代草創期が最も古く、集落としては古墳時代前期から中期に形成され、その後、古代から中世にかけて継続したと考えられる。

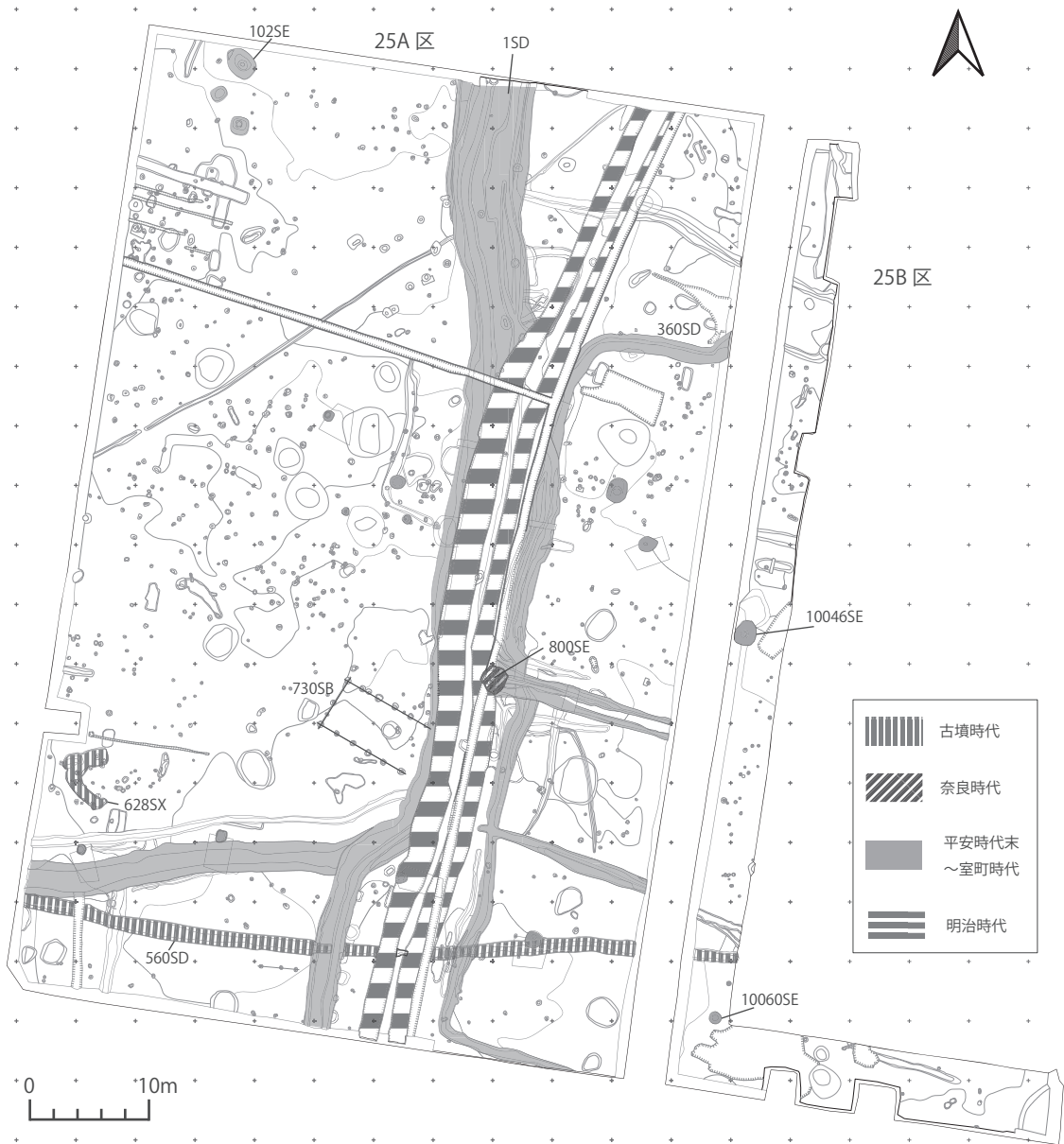
(小柳篤史)



25A区 560SDの遺物出土状況



25A区800SE 須恵器把手付き甕の出土状況



青山神明遺跡25A区, 25B区 主要遺構図 (S=1/600)

姫下遺跡・向田遺跡・中狭間遺跡
(本発掘調査B)

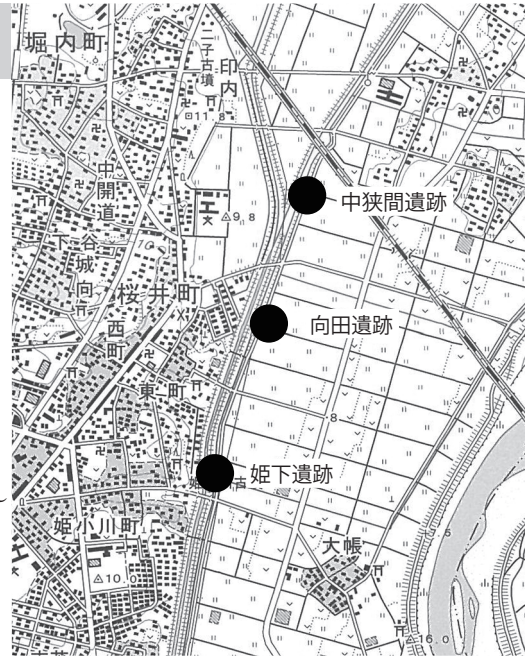
所在地 姫下遺跡
安城市桜井町・川中町地内
(北緯34度92分34秒 東経137度10分00秒)
向田遺跡
安城市姫東町向田
(北緯34度91分83秒 東経137度09分79秒)
中狭間遺跡
安城市姫小川町姫野池・姫向田、東町向田、
小川町寄島
(北緯34度91分43秒 東経137度09分67秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)

調査期間 令和7年9月～令和8年3月、令和7年9月～
10月、令和7年8月

調査面積 1,721㎡+229㎡+15㎡

担当者 樋上 昇・河嶋優輝・水野領介



調査地点(1/2.5万「安城」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局知立建設事務所河川整備課による中小河川改良事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託を受け実施した。

姫下遺跡の調査区は南北2箇所に分かれ、それぞれ25Aa～Ad区、25Ba～Bd区に4分割して調査を行った。調査面積は1,721㎡である。

向田遺跡の発掘調査は平成29年度から調査を開始し、今年度が第5次の調査となる。今年度の調査対象地は2019年度調査区の西側にあたり、調査面積は計229㎡である。

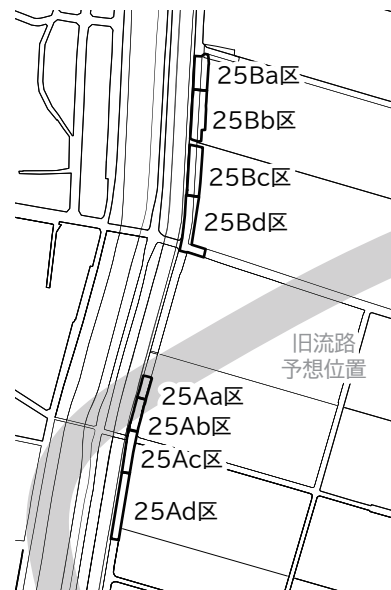
中狭間遺跡で実施した今年度調査区(25区)は、東及び北が令和4年度の22E区に隣接し、南西にはやや間隔を開け令和6年度の24区が位置する。調査面積は15㎡である。

姫下遺跡立地と環境 姫下遺跡は、碧海台地東縁部から沖積地に広がる鹿乗川流域遺跡群の一部であり、南には寄島遺跡、北には向田遺跡が隣接する。また、西を南流する鹿乗川を隔てた対岸には、姫小川古墳が所在する。

調査範囲は大部分が現道直下にあたり、周辺での既往調査では、25Aa区北側に古墳時代前期ごろの旧流路、25Bd区東側から旧流路の間で同時期の居住域が検出されている。

調査の概要 25A区では全体に古墳時代～鎌倉時代の遺物を含む包含層の広がりが見られ、調査区北側の下層では旧流路の堆積が確認された。25B区では25A区と同時期の包含層が確認されたほか、弥生時代中期に遡る遺物も出土した。

25A区旧流路1029NR 25Aa区の全域と25Ab区の北側2/3程度にかけて検出された、北東から南西方向に流れる旧流路であり、25A区の北に隣接する22C区では1029NR、東に



姫下遺跡 令和7年度調査区配置図 S=1/5000

隣接する06C区では001NRとされているものと同一である。また、25A区の北東部で実施された今年度の姫下遺跡本発掘調査Aでもその堆積と思われる土層が確認されている。

旧流路は左岸から幅約3.5mの緩傾斜面を経て幅約5.2mの浅い平坦面に移り、最大幅約6mの土手状高まりの後に再び落ち込んで深い平坦面となり、右岸へ向かう。そして緩斜面部では土器の集中が確認でき、浅い平坦面部では井泉1002SXが検出された。

1029NR 1029NRからは土器、木製品、金属製品が出土した。
出土遺物 土器については、台付甕、広口壺、直口壺、二重口縁壺、有稜高杯、椀型高杯、小型精製器種(小型丸底壺・小型鉢・小型器台)、ミニチュア土器などが見られる。帰属時期は廻間III式期がほとんどであるが、廻間II式期のものも少量含まれる。

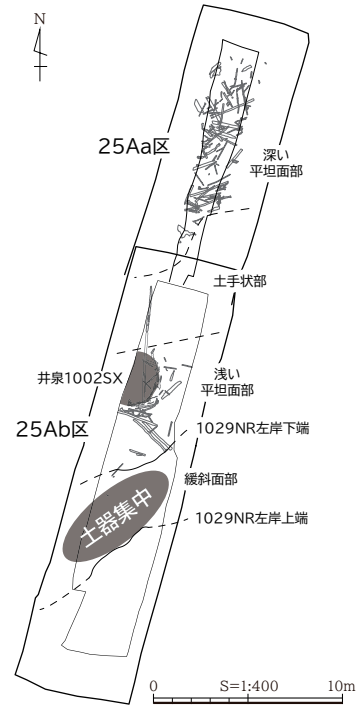
緩斜面部の土器集中と流路のそれ以外の地点では出土する器種に差異がみられる。土器集中では甕、壺、高杯が大多数を占め、そこに小型精製器種が少量混じるのに対し、それ以外の地点では小型精製器種が比較的多く見られ、高杯の出土量が非常に少ない。

特殊な土器としては、土器集中から伊勢型二重口縁壺や小型平底甕が、その他の地点からはく字状口縁をもち激しく被熱している脚付鉢、西濃型有稜高杯、陶邑産初期須恵器の甕が出土している。今年度の調査では、須恵器はこの1点のみしか確認できない。

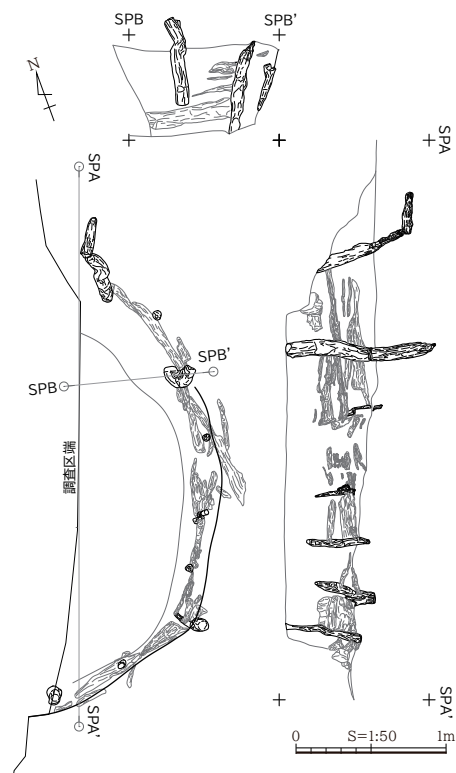
木製品 旧流路全体から自然木や木製品が出土しており、特に深い平坦面部で集中して出土した。用途不明の丸棒、板材のほか、確認できた器種としては、掘立柱建物柱、竪穴建物柱、建物横架材、楣、鋤膝柄、曲柄平鋤、泥除け、曲物底板が出土しており、建築部材が多い。また、数カ所で河床に杭が打ち込まれている。

金属製品 深い平坦面部で鏡形小型銅製品が出土した。これは径20mm、厚さ1mm程度の円盤であり、片面に鈕を表すものと思われる三角形の板状突起が見られる。

井泉 土手状部を背にした場所に位置し、浅い平坦面を掘り込んで作られている。掘方は断面逆台形で上端部の直径は約3m以上、深さ0.5m程



25Aa・Ab区 平面図 S=1/400



井泉1002SX平面図・立面図 S=1/50

度で、底部は粗い砂層となっており激しい湧水がある。

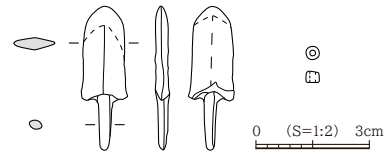
掘方に沿って木組みが確認された。木組みは杭(図中黒色)をおおよそ等間隔に打ち込み、その内外に横材(図中灰色)を渡す



井泉1002SX 木組み検出状況(北西より)

もので、杭には加工して先端を尖らせた棒材、横材には草本の茎を思わせる脆弱なものが用いられている。

井泉内部からの出土遺物は乏しく、土器は細片が少量あるのみであるが、埋土の水洗を行った結果、銅鏃とガラス小玉が各1点確認された。



井泉1002SX出土 銅鏃・ガラス小玉 S=1/2

帰属時期に関しては、層位から前述の土器集中の形成時期と1002SXの埋没時期が同時期と想定されるため、機能していた時期は廻間III式期以前と推定される。(河嶋優輝)

2 5 B 区 南北に走る現道下の調査区である。東は平成17年度・平成18年度の05A区・06B区に隣接し、北東にはやや間隔を開け令和4年度の22D区が位置する。

05A区及び06B区では、弥生時代・古代の竪穴建物跡(竪穴状遺構)や古墳時代の溝、近世以降の溝群等が確認されているが、集落域ではなく、水田地帯であった可能性も指摘されている。

調査の概要 当初は2面調査の計画であったが、一部で中面を設定した。

基本層序は、上層から①褐色中粒砂層(現代造成土)、②褐灰色細粒砂層(近代～現代旧耕作土)、③灰黄褐色細粒砂層(近世以降堆積層)、④黒褐色シルト層(中世遺物包含層)、⑤⑥層ブロックを含む黒褐色シルト層(古墳時代～古代耕作土か)、⑥灰色シルト層(弥生時代遺物包含層)、⑦黄褐色粗粒砂層(河川堆積層)である。

上 面 ③層上面に設定した。現在の水路と同一方位となる、西北西―東南東を軸とする溝群が確認され、05A区・06B区の結果と符合した。出土遺物から、埋没時期は近世や明治、昭和まで多様である。

中 面 上面遺構掘削時、一部の遺構肩部で土坑群が確認されたため、④層上面に設定した。土



25Ba区 下面 001SD～003SD完掘状況(南東より)



25Ba区 ⑥層 石鏃出土状況

坑群における出土遺物は認められなかったが、12世紀代の尾張型山茶碗等を包含する④層を切ることから、構築時期は中世以降と考えられる。

下 面 ⑤層上面又は下面に設定した。複数条の溝に加え、無数の足跡状遺構が確認された。05A区・06B区において多数報告された竪穴建物跡(竪穴状遺構)は確認されなかった。溝の平面形は、直線状及び弧状にカーブするものがある。足跡状遺構は、人及び牛の痕跡と想定される。遺物出土量は、25Ba区及び25Bb区は寡少であるが、25Bc区以南は南ほど増加傾向にある。また、25Bc区南部より、地形が南東へ高くなる。

足跡状遺構や土質、遺物出土量、周辺地形から、25B区の大半は水田を中心とした土地利用が想定される。しかし、畦畔等の水田遺構の確認には至っていない。

下層確認 ⑥層を掘削し、堆積状況を確認した。遺構は認められなかったが、瓜郷式の土器や石鏃等、弥生時代中期に比定される遺物が少量出土した。(水野領介)

ま と め 25A区では他の遺跡でも確認された旧流路の続きを検出し、多数の土器・木製品が出土した。また、1002SXは規模の大きさ、内部からの祭祀関連遺物の出土から井泉と認定できるもので、内部の木組みの構造も遺存しており、貴重な調査事例となった。25B区は、南に位置する旧流路が形成した自然堤防の縁辺部から後背湿地に該当し、古墳時代から古代は牛耕が行われる水田が展開したと想定される。また、景観が河川から湿地帯へ変化し、人々が活動を開始した時期は弥生時代中期以降の可能性がある。(河嶋優輝・水野領介)

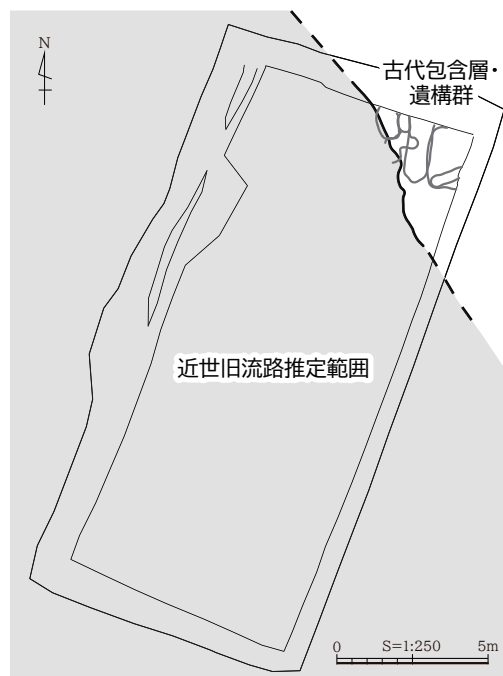
向田遺跡立地と環境 向田遺跡は矢作川下流域の鹿乗川左岸の沖積地に立地する。北には鹿乗川流域遺跡群の北群、南には向田遺跡を含む南群が広がり、西方の碧海台地上には桜井古墳群が展開する。今年度調査区周辺での既往調査では遺構が確認されておらず、沼地や河道にあたと推測されていた。



向田遺跡 旧流路01NR 埋土断面(南より)



向田遺跡 古代遺構群 完掘状況(北東より)



向田遺跡 令和7年度 本発掘調査B
調査区平面図 S=1/250

調査の概要 調査では、調査区の大半を覆う、北西から南東方向へ流れる幅広の旧流路が検出された。埋土からは土師器と共に近世の施釉陶器が出土するため、近世に属するものと想定される。

旧流路の範囲外となる調査区北東部では、2層に分かれた遺物包含層が確認され、下層包含層の上面では複数の遺構が検出された。遺構・上層包含層からは弥生時代後期の土器、土師器、須恵器、灰釉陶器が、下層包含層からは土器・土師器が出土している。

ま と め 既往調査で確認されていた旧流路の推定肩部が検出できたほか、その帰属時期を確定でき、また流路外には古代以前の遺物包含層・遺構が遺存することが確認できた。

(河嶋優輝)

**中狭間遺跡
立地と環境** 中狭間遺跡は、碧海台地東縁部から沖積地に展開する鹿乗川流域遺跡群を構成し、遺跡群の北群に属する。25区は遺跡北部に位置する。周辺の既往調査では、古墳時代から古代の竪穴建物跡や古代及び中世の溝等が確認され、集落域が展開する。一方、遺跡南部では弥生時代中期後葉から古墳時代初頭の方形周溝墓や土器棺墓等が確認され、墓域が展開する。

調査の概要 調査は、須恵器及び土師器を含む遺物包含層の上・下面を遺構面として実施した。

上 面 上面では、溝が1条確認されたのみである。001SDは調査区北東に位置し、北西—南東を軸とする。北東肩部や北西端、南東端は22E区へ延びる。埋土より、灰釉陶器及び土師器が出土した。検出地点や主軸方位等から、22E区037SDと考えられる。

下 面 下面では、ピットが6個、土坑が2基、不明遺構が3基確認された。ピットは、断面の堆積からいずれも柱穴とは考え難く、性格は不明である。007SK及び012SXを切る004SPより、土師器が出土した。また、011SPより、灰釉陶器が出土した。

土坑は、平面形が隅丸方形を呈する。006SKより須恵器及び土師器が出土し、007SKより土師器が出土した。006SKは、検出地点から22E区341SKと想定される。不明遺構は、断面から地形の落ち込み又は足跡状遺構の集積である可能性がある。008SX及び009SXより土師器が出土、012SXより須恵器及び土師器が出土した。

ま と め 溝やピットが展開する様相は、22E区や24区に近似する。帰属時期も上面が古代以降、下面が古墳時代から古代と推定され、遺跡北部の既往調査と同様である。よって、当該地は集落域の縁辺部に該当すると想定される。

(水野領介)



中狭間遺跡 遺構面上面 完掘状況（北東より）



中狭間遺跡 遺構面下面 完掘状況（南東より）

ひめした むかいだ かめづか
 姫下遺跡・向田遺跡・亀塚遺跡(本発掘調査A)

所在地 姫下遺跡・向田遺跡・亀塚遺跡
 安城市姫小川町姫野池・姫向田、小川町寄島、
 東町向田・亀塚・秋葉下、桜井町中狭間・大橋
 (北緯34度91分77秒 東経137度09分71秒)

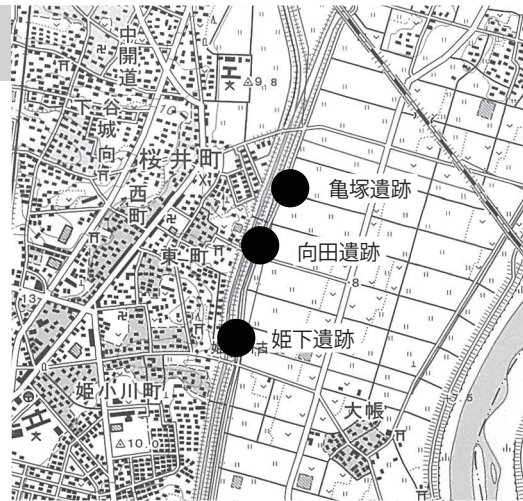
姫下遺跡
 安城市姫小川町姫野池・姫向田、小川町寄島、
 (北緯34度91分46秒 東経137度09分74秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)

調査期間 令和7年8月～9月、令和7年8月

調査面積 213㎡+67㎡

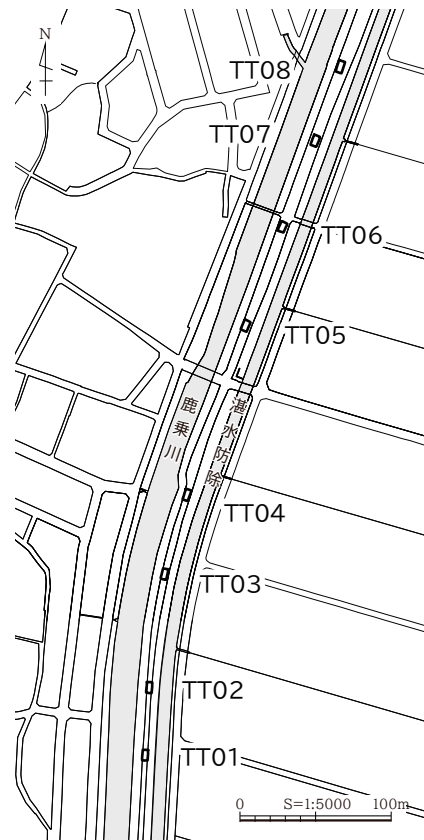
担当者 樋上 昇・河嶋優輝



調査地点(1/2.5万「安城」)

調査の経過 姫下遺跡・向田遺跡・亀塚遺跡の調査は愛知県建設局知立建設事務所河川整備課による中小河川改良事業(一級河川鹿乗川)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査面積は213㎡であり、調査期間は令和7年8月～9月である。

姫下遺跡の調査地点は鹿乗川とそれに並行する水路の間の堤防部にあたり、TT01～04は3.5m×7m、TT05～07は4m×7m、TT08は4m×7.75mのトレンチを設定して調査を行った。調査面積は67㎡であり、調査期間は令和7年8月である。調査地点は鹿乗川に直交する東西道の南北にあたり、TT01、02は5m×2m、TT03は3m×2.5m、TT04～08は4m×2mのトレンチを設定して調査を行った。



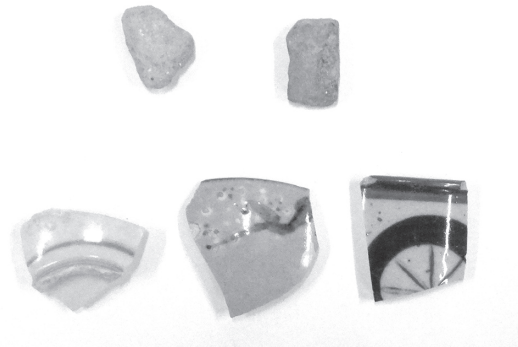
姫下遺跡・向田遺跡・亀塚遺跡立地と環境調査の概要 遺跡は全て、碧海台地東縁部から沖積地に広がる鹿乗川流域遺跡群の一部であり、調査範囲は南北500m弱にわたる。TT05～08では遺物包含層が確認された。上面の標高は約7.3m～7.5mで、北に行くほど高くなる。TT01～08にかけて、基盤層となる砂質土層



TT05 完掘状況(北より)

姫下遺跡・向田遺跡・亀塚遺跡
 令和7年度本発掘調査A トレンチ配置図
 S=1/5,000

は標高約7.2m～7.3mで確認された。ただし、TT02では粘土質土層が厚く堆積しており、標高7.0mまで掘削しても基盤層が確認できなかった。遺構としてはTT05で基盤層に打ち込まれた杭、TT06で遺物包含層への掘り込みを確認した。



TT07出土 土師器・近世磁器・近現代陶器

ま と め

遺物は造成土からは近世～現代の陶磁器や瓦片が、遺物包含層からは土師器、灰釉陶器が出土した。

姫下遺跡

今年度調査では北半のトレンチで成果が得られ、地形の傾斜方向も確認することができた。

立地と環境

姫下遺跡は、碧海台地東縁部から沖積地に広がる鹿乗川流域遺跡群の一部であり、今年度調査地の北西側で行われた過去の調査では古墳時代前期の居住域や旧流路が検出された。

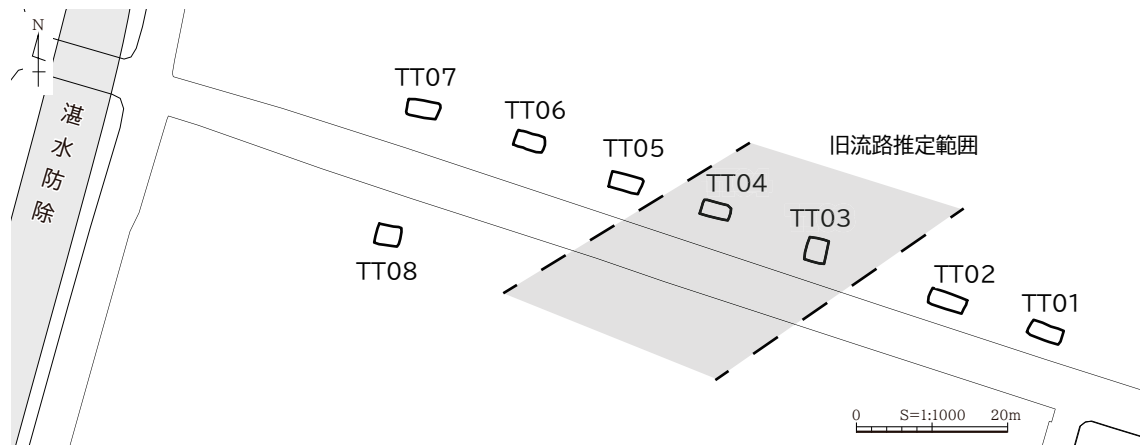
調査の概要

TT01ではトレンチ内の西側でのみ、標高7.4mほどで土師器を含む遺物包含層を確認し、TT02では標高7.0mで土師器・灰釉陶器等を含む落ち込みを検出した。また、TT03では標高6.2m、TT04では6.4mほどで植物遺存体や繊維を含む黒色粘土層を確認しており、土質から、以前に検出された古墳時代前期ごろに埋没する旧流路の堆積と推定される。

ま と め

出土遺物は乏しいものの、東半部では旧流路や遺構、遺物包含層が確認できた。

(河嶋優輝)



姫下遺跡 令和7年度本発掘調査Aトレンチ配置図 S=1/1000



TT01 完掘状況(東より)



TT02 出土 土師器・須恵器・灰釉陶器・近世陶器

内山遺跡 (本発掘調査B)

所在地 豊田市秋葉町10丁目
(北緯35度06分46秒 東経137度17分74秒)

調査理由 矢作川鶺の首地区水位低下対策事業

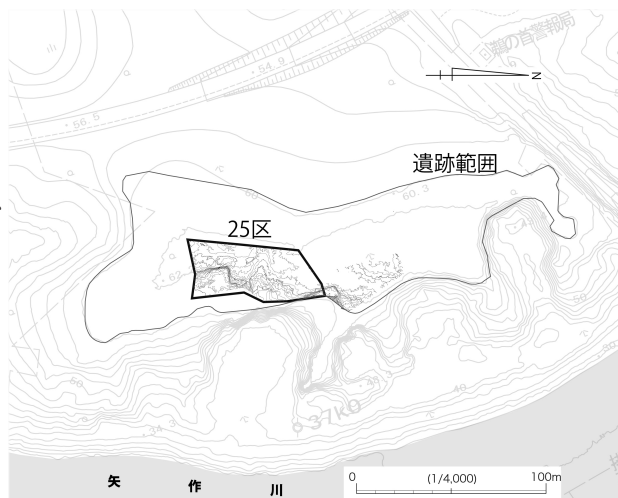
調査期間 令和7年12月～令和8年3月

調査面積 1,631㎡

担当者 樋上 昇・川添和暁・柳原麻子



調査の経過 調査は国土交通省中部地方整備局・豊橋河川事務所による矢作川鶺の首地区水位低下対策事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受けて、令和7年12月から令和8年3月にかけて実施した。調査面積は計1,631㎡で、調査区は遺跡範囲中央に当たる。



令和7年度 内山遺跡調査区位置図

立地と環境 内山遺跡は、拳母盆地の南の「鶺の首」と呼ばれる矢作川の狭窄部右岸の丘陵上に位置する。標高は、調査区中央で60mを測る。当地は、内山1号墳をはじめとする内山古墳群の範囲にあたり、内山遺跡の範囲内には以前から内山2号墳の所在が伝えられている。

調査の概要 基本層序は、上からⅠ層：腐植土10～20cm)、Ⅱ層：灰色砂質シルト層(10cm)【江戸時代後期以降遺物包含層】、Ⅲ層：灰黄褐色粘質シルト層(5～10cm)【旧耕作土および遺物包含層】、Ⅳ層：赤褐色粘土層および黄褐色礫層【地山】である。



古墳時代管玉出土状況

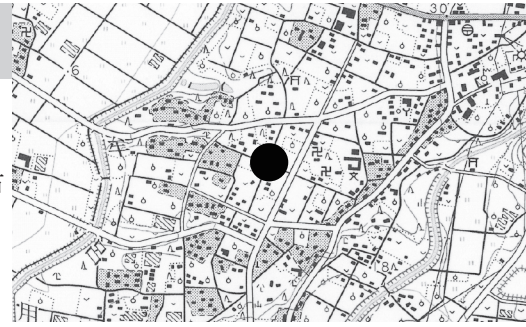
縄文～弥生 先史時代の遺物は、Ⅲ層から、土器片や石器(石鏃・剥片・擦切具など)が出土している。縄文時代晩期から弥生時代にかけてのものと思われる。

古墳 本遺跡の主体となるのは古墳である。調査前から墳丘の確認できているところが2カ所、石室床が別に1カ所見つかっており、計3カ所は確認できた。溝から須恵器片のほか、石製管玉の出土も確認された。

近世 調査区南東側には、地山を削り整地した平坦面が調査され、区画溝のほか、寛永通宝の出土があった。陶器には小型壺などもあり、祠などが所在していた可能性もある。また、調査区北東側には近世後半以降に宅地が所在していたと考えられる。Ⅱ層の堆積が良く残っており、陶磁器・キセルのほか、鉄滓がまとまって出土した。(川添和暁)

かやの
萱野遺跡 (本発掘調査B)

所在地 豊橋市石巻本町地内
(北緯34度48分3秒 東経137度26分2秒)
調査理由 道路改良工事(交付金)(主)東三河環状線(石巻本町古工区)
調査期間 令和7年10月～令和8年2月
調査面積 5,985㎡
担当者 永井宏幸・早野浩二・小柳篤史



調査地点(1/2.5万「豊橋」)

調査の経過 愛知県建設局道路建設課東三河東建設事務所による道路改良工事(交付金)(主)東三河環状線(石巻本町古工区)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け実施した。本遺跡は令和6年度より調査を実施している。本年度の調査面積は計5,985㎡である。

立地と環境 遺跡は豊川左岸の河岸段丘縁辺部に立地し、東側には神田川沿いの低地がある。調査地点は、河岸段丘上に位置する。本遺跡の東側には昨年度まで調査を行っていた中世から近世を主体とする野添遺跡、神田川沿いの低地には弥生時代中期から後期、中世を主体とする東下地遺跡がある。

調査の概要 25Ab区、25Ba区においては、中世末から近世にかけての遺構、遺物が多く検出された。中世以前の遺物は少量であるが弥生時代の磨製石斧、古代の土師器甕などが確認できた。25Ab区の溝428SDでは15世紀ごろから17、18世紀までの遺物が特に多く確認された。遺物の多くは土師器皿や鍋、焙烙が多く、大窯製品なども確認される。また、溝428SDとBa区の溝10003SDではどちらも鉄滓などが出土していることから近隣で鍛冶を行っていたことが想定される。溝428SDの西側には柱穴が多く確認された。掘立柱建物1は桁行4間、梁行1間の規模である。柱穴は深いものでは検出面から60～70cmほど掘り込まれたものが多い。遺物は少ないが15世紀後半の播鉢や煙管、内耳鍋、土師器皿などが確認でき、溝と同様の存続期間、屋敷がこの調査区に展開していたと考えられる。

25Ba区は溝10003SDを境にして北側は柱穴が少なく、逆に南側には柱穴が集中する。このため溝に囲まれた内側が屋敷の敷地内だと考えられる。25Ba区も25Ab区同様に15世紀後半から17、18世紀の遺物が確認できる。こちらも土師器皿などの出土が多く確認できた。掘立柱建物2は桁行6間以上、梁行1間の南北に細長い建物である。柱穴1097SPでは土師器皿と古瀬戸の縁釉小皿が共伴して出土した。また、溝10003SDでは土師器皿が数枚、縁にまとまって出土しており、屋敷側から捨てられたと考えられる。反対に鉄滓は外側の縁から出土しており、鍛冶が行われた作業場は屋敷区画の外側にあったと想定できる。

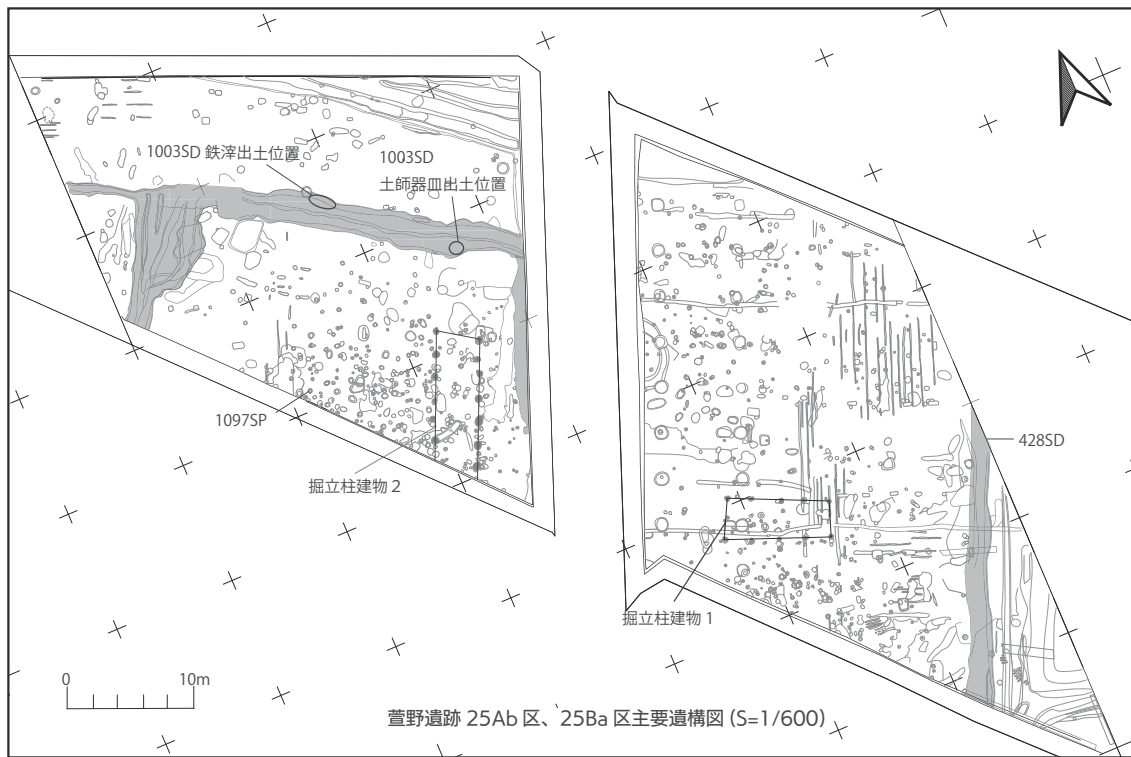
(小柳篤史)



25Ab区231SP 古瀬戸播鉢の出土状況



25Ba区1097SP 縁釉小皿と土師皿の出土状況



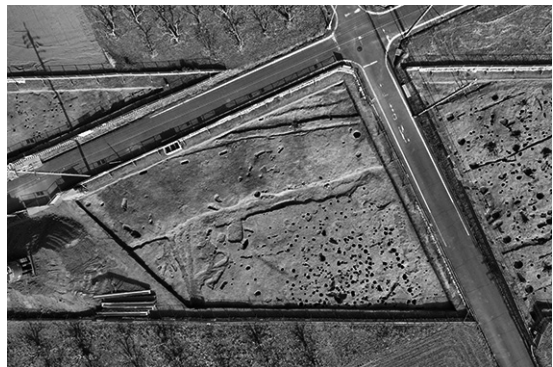
25Ab区 428SDの遺物出土状況



25Ab区 空撮写真



25Ba区 1003SDの土師器皿出土状況



25Ba区 空撮写真

下延坂遺跡(本発掘調査B)

所在地 北設楽郡設楽町川向字下延坂・上延坂
(北緯35度11分61秒 東経137度57分42秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 令和7年5月～7月

調査面積 706㎡

担当者 樋上 昇・河嶋優輝・水野領介



調査地点(1/2.5万「設楽」)

調査の経過 調査は国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダムに伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受けて、令和7年5月から7月にかけて実施した。調査面積は706㎡である。調査区は4分割し、北から25A～25D区を設定して調査を行った。

立地と環境 遺跡は設楽町内を流れる境川の右岸河岸段丘から山麓の丘陵斜面に立地し、南西には石原遺跡が、境川を挟んだ対岸の北東にはマサノ沢遺跡が位置する。

調査の概要 25C・25D区では、後世の攪乱のため遺構・遺物を確認できなかった。25B区では土石流のため南半部が削平され、北半部にも明瞭な遺構は少なく、遺物の出土も乏しい。25A区では縄文時代中期後半の包含層と遺構面が確認された。

縄文時代中期後半 遺構面上に堆積した包含層に掘り込まれた土坑052SKでは、長辺5cm程度の黒曜石片が7点集中出土している。

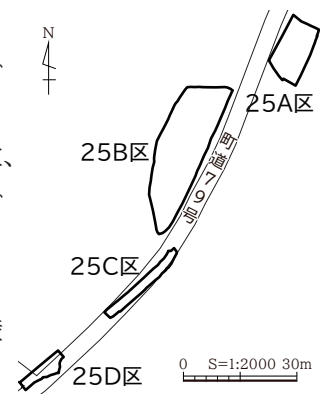
遺構面で検出された遺構には、竪穴建物跡、土坑、溝、炉穴、集石遺構がある。竪穴建物跡083SIでは底面に柱穴が確認でき、掘方の端に掘られた土坑からは石棒の破片が直立して出土した。118SX、119SKにも竪穴建物跡の可能性もある。

炉穴134SLは平面形が楕円で袋状の掘方を持つもので、壁面には明瞭な被熱痕が残る。

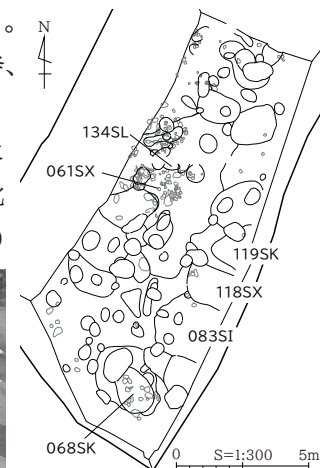
遺構面から包含層にかけて、数カ所で拳大～人頭大の礫が集中し、中でも集石遺構061SX周辺では遺物の出土量が多い。063SKなど、掘り込みの中に集石が見られる遺構も存在する。

出土遺物には、土器、剥片、石鏃、石核、打製石斧、磨製石斧、石棒のほか、楕円形の軽石に穿孔を施したものがある。

まとめ 既往調査と今年度調査の結果より、25A区の北～南東側に縄文時代中期後半の居住域が広がっており、町道を挟んだ北西側は遺構が希薄である様相を確認できた。(河嶋優輝)



下延坂遺跡
令和7年度調査区配置図
S=1/2000



25A区 縄文時代中期後半面
遺構分布図 S=1/300



25A区 土坑068SK出土土器



25A区 竪穴建物跡083SI完掘状況(北西より)

<p> <small>さかいがわりんどろ</small> 境川林道遺跡 <small>みなみがたけ</small> 南ヶ岳遺跡 <small>かみとがみ</small> 上戸神遺跡 (本発掘調査A) </p> <p> 所在地 北設楽郡設楽町八橋字コハツカ地内 北設楽郡設楽町川向字南ヶ岳地内 北設楽郡設楽町川向字上戸神・下戸神地内 (北緯35度07分21秒 東経137度34分39秒) (北緯35度06分37秒 東経137度33分46秒) (北緯35度06分51秒 東経137度33分21秒) </p> <p> 調査理由 設楽ダム 調査期間 令和7年5月～7月 調査面積 178㎡(44㎡+30㎡+104㎡) 担当者 樋上 昇・水野領介 </p>	<p>調査地点(1/2.5万「田口」50%縮小)</p>
--	------------------------------

調査の経過 調査は、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダムに伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受けて実施した。調査目的は遺跡の範囲及び性格の確認であり、事業予定地内にトレンチを設定・掘削し、調査を行った。

境川林道遺跡立地と環境 境川林道遺跡は、タコウズ川右岸の東向き緩斜面に立地する。斜面の裾には、遺跡名の由来となる境川林道が、タコウズ川に沿う形で南北に造成されている。

調査の概要 トレンチは、TT01～TT07の7箇所を配した。調査面積は、計44㎡である。

炭焼窯跡 調査前の踏査時に、炭焼窯跡を1基確認した。焚口は東へ開口する。焚口両袖に築かれた石垣は、右側壁の大半は原型を留めていたが、左側壁は崩壊していた。天井は全面が崩落していた。これに対し、東西の主軸方向トレンチと南北の直交方向トレンチを設定した(TT07)。

主軸方向トレンチでは、燃烧室の奥壁と考えられる石材が確認されたほか、床面において焚口と燃烧室を隔てる石材が確認された。直交方向トレンチでは、側壁と考えられる石材及び側壁外部の盛土が左右ともに確認された。

窯の法量は、焚口から燃烧室の奥行きが約5.5m、燃烧室奥行きが約3.5m、燃烧室幅が約2.0mを測る。焼成室の平面プランは楕円形を呈する。床面には石材を用いず、焚口から奥壁へやや低くなる。堆積は、埋土下に床面が検出され、床面の一部において黒色焼土層が確認された。奥壁及び左側壁では、褐色又は明赤褐色の被熱痕が壁面に沿って確認された。遺物は、生産品の一部と思われる炭化物が少量出土した。

窯跡を破壊して生育していた樹木の年輪から、築窯時期は少なくとも太平洋戦争以前と推定される。

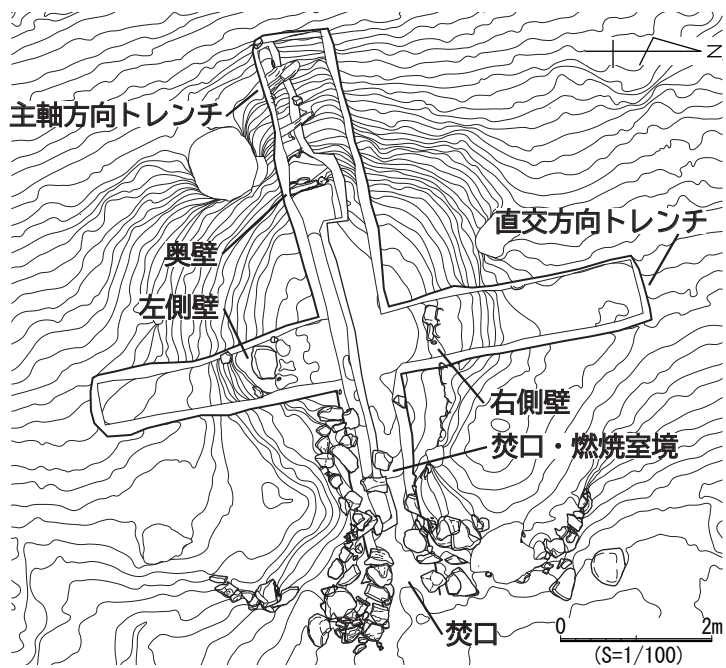
塚状遺構 遺跡周辺には、中礫が円形に集積された石積み点が点在している。そのひとつを断ち割る形でトレンチを設定した(TT04)。

石積みの法量は、直径約3.0m、高さ約0.4m～約0.7mを測る。礫層下は土石流堆積層が確認された。遺物は認められなかったが、付近において近世後半以降の徳利が採集された。点在する石積みへ供えられた酒器として関連する可能性がある。

これらの石積みは、令和3年度・令和4年度に調査された北設楽郡設楽町大崎遺跡の塚状遺構と類似する。法量は小規模であるが、機能は同様と想定されることから、近世以降の石塚と推測する。

緩斜面 遺跡周辺の緩斜面にトレンチを設定した(TT01～TT03, TT05, TT06)。いずれも表土下に厚い土石流堆積層が確認され、地山は検出されなかった。遺構・遺物も認められなかった。

ま と め 土石流堆積層によって緩斜面が形成された境川林道遺跡周辺は、近世以降に墓域として利用された。その後、炭焼窯による木炭生産が開始されたが、長期的な操業には至らなかった。太平洋戦争以前に植樹がなされ、以降は山林としての機能を有したと考えられる。



南ヶ岳遺跡 立地と環境 南ヶ岳遺跡は、境川林道遺跡 TT07 トレンチ配置図(S=1/100) 戸神川右岸にそびえる山地の一頂部に立地する。頂上は東西に平坦面が広がり、東・南・北は斜面となる。西には国道257号線へと通じる林道が設けられている。

調査の概要 トレンチは、TT01～TT11の11箇所を配した。調査面積は、計30㎡である。
平坦面・緩斜面 平坦面及び緩斜面にトレンチを設定した(TT01～TT10)。いずれも薄い表土下に地山が検出された。TT03・TT06において自然に形成された落ち込みが確認されたが、遺構・遺物は認められなかった。

林 道 林道上にトレンチを設定した(TT11)。碎石が含まれる造成土が確認され、地山は削平されたと考えられる。遺構・遺物は認められなかった。

ま と め 南ヶ岳遺跡において人々の生活痕跡は認められなかった。林道造成時に初めて人為的な改変が行われたと考えられる。

上戸神遺跡 立地と環境 上戸神遺跡は、戸神川左岸の河岸段丘上及び南向き斜面に立地する。遺跡中央から南東には狭小な平坦面が連続する階段状地形がみられ、北西には東堂神社が建つ平坦面が広がる。

調査の概要 トレンチは、TT001～TT010の10箇所を配した。調査面積は、計104㎡である。
中央平坦面 遺跡中央の階段状地形を構成する平坦面にトレンチを設定した(TT001～TT005)。表土下に造成土や土石流堆積層、河川堆積層が確認され、地山は検出されなかった。表土及び土石流堆積層より、時期不明の土器細片や近世以降の陶磁器等が出土した。

北西平坦面 遺跡北西の東堂神社周辺に広がる平坦面にトレンチを設定した(TT006～TT009)。表土下に造成土や盛土、土石流堆積層が確認され、地山は検出されなかった。表土より、近代以降の陶磁器等が出土した。

南向き斜面 東堂神社北の南向き斜面にトレンチを設定した(TT010)。表土下に盛土が確認され、地山は検出されなかった。表土より、近代以降の陶器が出土した。

ま と め 上戸神遺跡では、土石流堆積層により形成された斜面を削平又は造成し、平坦面及び階段状地形へ改変したと考えられる。よって、遺跡の展開は考え難い。(水野領介)

Ⅲ．刊行報告書抄録

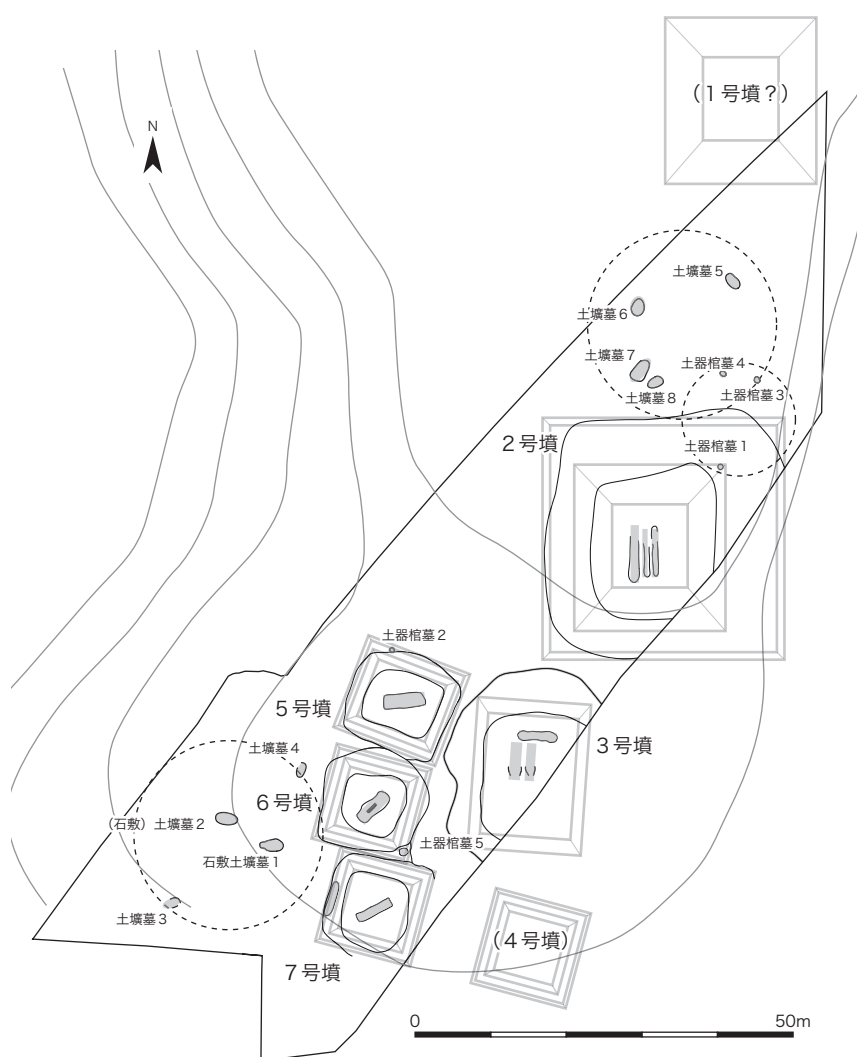
第231集 花の木古墳群 花の木遺跡 花の木北遺跡

花の木古墳群は調査区内に再調査の2号墳を含めた5基の古墳(2・3・5・6・7号墳)が分布し、古墳5基の墳形(方墳)と規模が判明した。時期は古墳時代前期後半から中期前半である。7号墳は新旧の(再利用した)古墳を確認した。埋葬施設は木棺直葬で、鉄製品と玉類を副葬する。

花の木遺跡では、弥生時代中期後葉から後期の竪穴建物41棟を検出した。建物群は大型竪穴建物、排水溝が付属する竪穴建物を含む。

花の木北遺跡では、弥生時代前・中期の土器棺墓、弥生時代中期の竪穴建物、古墳時代中期の大型を含む竪穴建物、掘立柱建物と土坑群を検出した。古墳時代中期の大型竪穴建物からは編物石が出土した。

(早野浩二)



花の木古墳群主要遺構配置図

報告書抄録

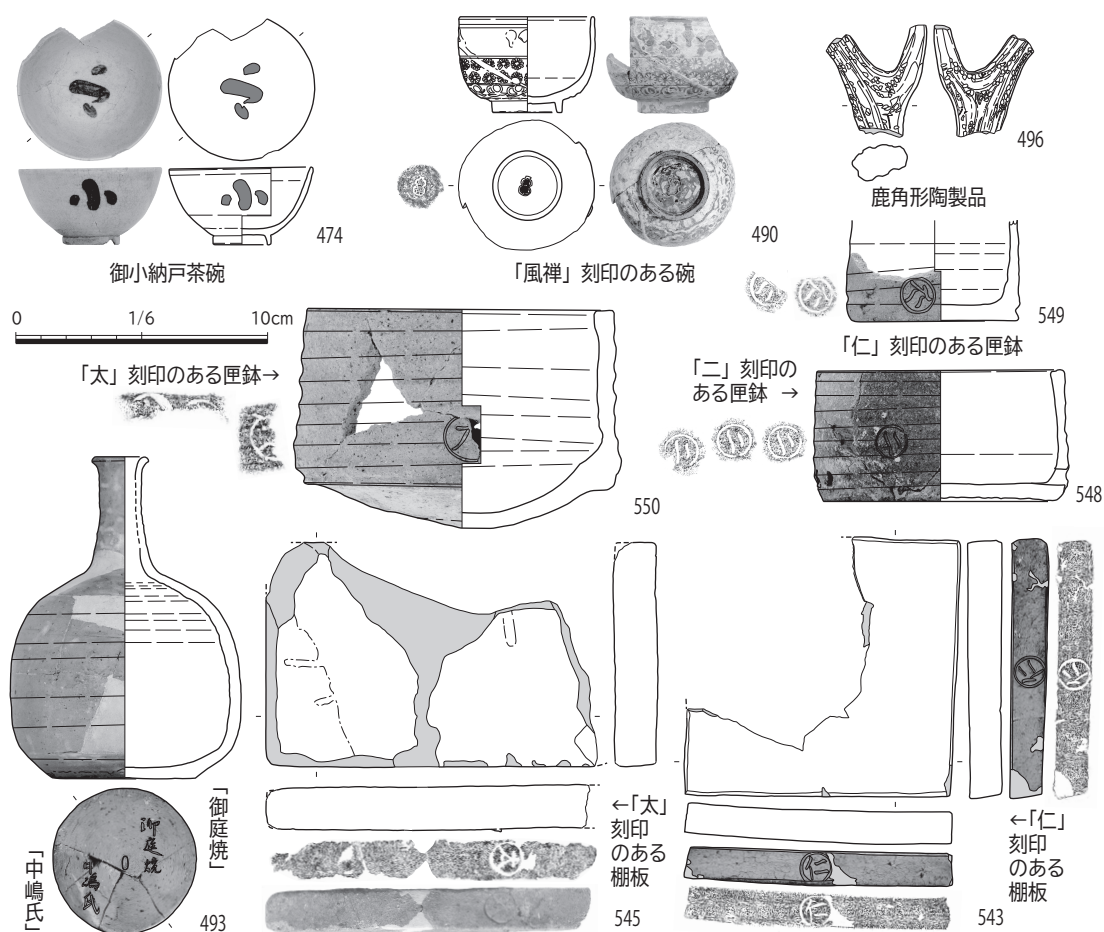
ふりがな	はなのきこふんぐん はなのきいせき はなのききたいせき							
書名	花の木古墳群 花の木遺跡 花の木北遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第231集							
編著者名	早野浩二・田中 良							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はなのきこふんぐん 花の木古墳群 はなのきいせき 花の木遺跡 はなのききたいせき 花の木北遺跡	あいちけん とよかわし 愛知県豊川市 おおぎちょうちない 大木町地内	232076	830195～ 830201 830428・ 830431	34度 51分 32秒・ 34秒	137度 24分 31秒・ 28秒	2020.05～ 2021.03 2021.05～ 2023.07	5,510 3,850	一般国道 151号 (一宮 バイパス)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
花の木古墳群	古墳	古墳時代	墳丘・周溝 埋葬施設 土器棺墓・土壇墓		土師器 鉄製品・玉類		方墳・木棺直葬 周辺埋葬施設 鉄製武器・農工具 墳丘出土玉類	
花の木遺跡	弥生	弥生時代	竪穴建物・土坑		弥生土器・石器		大型竪穴建物 排水溝が付属する 竪穴建物	
花の木北遺跡	弥生・ 古墳	弥生時代 古墳時代	土器棺墓・竪穴建物 竪穴建物・土坑 掘立柱建物		弥生土器・石器 土師器・石製品・ 鉄製品		前・中期の土器棺墓 大型竪穴建物 編物石	
文書 番号	発掘届出(2埋せ第7号・2020.4.8/3埋せ第7号・2021.4.6/4埋せ第71号・2022.9.8/5埋せ第12号・2023.4.13) 通知(2文芸第330号・2020.5.14/3文芸第209号・2021.4.15/4文芸第1565号・2022.10.6/5文芸第181-1号・2023.4.24) 終了届・保管証・発見届(2埋せ第164号・2021.3.19/3埋せ第101号・2021.9.30/4埋せ第147号・2023.3.2/5埋せ第51号・2023.7.11) 鑑定結果通知(2文芸第3879号・2023.3.31/3文芸第1632号・2021.10.11/4文芸第2472号・2023.3.13/5文芸第807号・2023.7.28)							
要約	<p>花の木古墳群は調査区内に再調査の2号墳を含めた5基の古墳(2・3・5・6・7号墳)が分布。古墳5基の墳形(方墳)と規模が判明。時期は古墳時代前期後半から中期前半。</p> <p>7号墳は新旧の(再利用した)古墳を確認。埋葬施設は木棺直葬で、豊富な鉄製品と玉類を副葬。鉄製品は武器(刀、蛇行剣を含む剣、鉄鏃)、農工具(斧、鎌、刀子)で構成される。</p> <p>7号墳墳丘斜面から玉類が出土。周辺埋葬施設として、土器棺墓5基、(石敷)土壇墓8基を検出。</p> <p>花の木遺跡は弥生時代中期後葉から後期の竪穴建物41棟を検出。竪穴建物群は大型竪穴建物、排水溝が付属する竪穴建物を含む。</p> <p>花の木北遺跡は弥生時代前・中期の土器棺墓、中期の竪穴建物3棟を検出。</p> <p>古墳時代中期の竪穴建物6棟、掘立柱建物7棟と土坑群を検出。竪穴建物群は大型竪穴建物を含む。大型竪穴建物から編物石が出土。</p>							

第232集 名城公園遺跡

名城公園遺跡は、名古屋市北区の名城公園北園を中心とする沖積低地に展開する、弥生時代後期～近代の集落・庭園遺跡である。現在IGアリーナが所在する地点を、27,000㎡にわたって令和4年1～6月に発掘調査を行った。遺跡の立地は熱田台地上の名古屋城本丸から北堀を挟んだ指呼の地で、名古屋城築城後に下御深井御庭として整備されたことが文献史料から知られている。

本発掘調査によって、名城公園遺跡には3つの時期で遺構・遺物のピークを見出すこととなった。すなわち①弥生時代後期～古墳時代前期の集落では、人面文土器やパレス・スタイル土器(主に壺)を用いた特殊な性格の一角があること、②古墳時代中期～同後期の集落では、特に6世紀代において、東山丘陵などで活発化した須恵器生産が他地域に流通する過程で選別を行い、不良品の廃棄を行っていたこと、③江戸時代に13万余坪(約430,000㎡)に及ぶ広大な回遊式庭園として整備された下御深井御庭が、19世紀前葉、尾張藩第10代藩主・徳川斉朝によって大規模な改変が行われ、また庭園内に築かれた御庭焼の窯(御深井窯)で瀬戸の陶工(加藤家)によって特別な窯業生産がなされていたことの3点である。

出土遺物で最多となるのは旧河道に廃棄された②にともなう須恵器であるが、意図的に器を歪ませたものが含まれるなど、須恵器の生産・流通に関わる興味深い資料がある。①も土器の量は多く、黥面をモチーフにした人面文土器は伊勢湾岸地域の特徴を示すものとして重要である。(永井邦仁)



江戸時代末期の廃棄土坑 00220SK 出土の下御深井御庭と御庭焼関連陶磁器類・窯道具

報告書抄録

ふりがな	めいじょうこうえんいせき							
書名	名城公園遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第232集							
編著者名	永井邦仁・永草康次・藤根 久							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
めいじょうこうえん 名城公園 いせき 遺跡	あいちけん なごやし 愛知県名古屋市 きたく めいじょう ちょうめ 北区名城1丁目 ほんち 2番地	23220	002027	35度 11分 24秒	136度 54分 09秒	2022.1.20~ 2022.6.30	27,000	愛知県 新体育館 整備・ 運営等 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
名城公園遺跡	集落 庭園	弥生時代後期、 古墳時代、 奈良時代、 鎌倉時代、 室町時代、 江戸時代、 明治時代	掘立柱建物、 竪穴建物、溝、 井戸、旧河道、 土器集積、畑、 池、高射砲陣地	弥生土器、土師器、 須恵器、灰釉陶器、 山茶碗、緑釉陶器、 瀬戸・美濃窯産陶器、 染付磁器、木製品、 耳環、砥石、窯道具、 製塩土器、人面文土器		古墳時代初頭の人面文 土器、古墳時代中期の 須恵器選別場、古墳時 後期の集落が河道沿い に営まれる。江戸時代 は名古屋城下御深井御 庭となり、付近で御 庭焼が操業された。		
文書番号	発掘届出（埋セ3第122号・2021.12.24） 通知（3文芸第2149号・2022.1.11） 終了届・保管証・発見届（埋セ4第49号・2022.7.7） 終了届受理（4文芸第1087号・2022.7.15） 鑑定結果通知（4教文137号・2022.7.21）							
要約	<p>本遺跡は、熱田台地北辺から約10m下った沖積低地上に展開する。台地崖下を西流する矢田川水系に属する河道によって形成された微高地上に弥生時代後期以降、断続的に集落が営まれる。特に古墳時代初頭には、人面文土器や加飾壺（パレス・スタイル）を多く含む土器廃棄があり、集落の祭祀に関わる場に近いことをうかがわせる。古墳時代中期になると、東山丘陵などで開始された須恵器生産の流通に関わる拠点として、二次選別を行って廃棄した多量の須恵器が旧河道跡から出土する。その拠点は引き続き集落として奈良時代初頭まで継続し、集落には有力者層の大型建物も所在し、河道から分岐する大溝も開削される。集落廃絶後は、鎌倉時代にかけて畑の耕作がなされていたが、江戸時代に名古屋城築城に合わせて整備された尾張藩の庭園（下御深井御庭）が13万余坪の広大な面積を占有し、瀬戸の陶工による御庭焼も営まれた。近代以降は練兵場で高射砲陣地が設置された。</p>							

第233集 一色青海遺跡Ⅳ

一色青海遺跡は濃尾平野の南西部に位置する弥生時代中期後葉の大集落であり、本報告は日光川上流浄化センター建設に伴う最後の報告書となる。『一色青海遺跡Ⅲ』で確認した遺跡の北端を北西から南東に流れる河道、この河道の埋没後に掘削された大溝、竪穴建物跡22棟、竪穴建物廃絶後に造られた方形周溝墓2基などを確認した。なかでも平成30年度調査区で見つかった302SIは長軸8.55m、単軸7.92mを測る大型の竪穴建物跡で、焼失した炭化材や土器が多数残されており、その埋没状況から住居廃絶後に燃やされた可能性が高いことが注目される。 (樋上 昇)



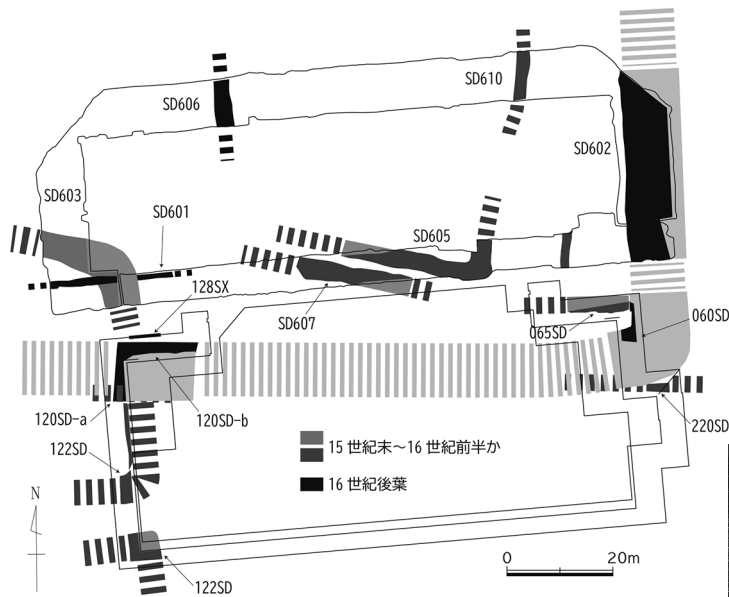
報告書抄録

ふりがな	いっしきあおかいいせき 4							
書名	一色青海遺跡IV							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第 233 集							
編著者名	鈴木 恵介・永井 宏幸・樋上 昇・柳原 麻子・伊藤 茂・佐藤 正教・廣田 正史・山形 秀樹・Zaur Lomtadidze・小林 克也							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いっしきあおかいいせき 一色青海遺跡	あいちけん 愛知県 いなざわいっしきあおかいいせき 稲沢市一色青海町、 ぎちようちよう いぼりのぐちちよう 儀長町、井堀野口町、 へいわちようすがたに 平和町須ヶ谷	232203	270013	35 度 14 分 9 秒	136 度 45 分 20 秒	2018.6~11 2019.5~10 2021.5~10 2023.6~9	4,580	日光川 上流流 域下水 道浄化 センタ ー建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
一色青海遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴建物跡 22 棟 方形周溝墓 2 基、 溝 13 条、土坑	弥生土器、石器、木器		焼失した大型竪穴 建物跡、木器に残る 鉄製工具の使用痕跡		
	集落跡	鎌倉時代 ～ 室町時代	溝 2 条					
文書番号	発掘届出 (30 埋七第 7 号・2018.4.13) (31 埋七第 4 号・2019.4.1) (3 埋七第 1-1 号・2021.4.1) (5 埋七第 11 号・2023.4.6) 発掘届出 (30 教生第 184 号・2018.4.16) (31 教生第 273 号・2019.4.19) (3 文芸第 128 号・2021.4.9) (5 文芸第 134 号・2023.4.18) 終了届・保管証・発見届 (30 埋七第 90 号・2018.11.19) (31 埋七第 91 号・2019.11.1) (3 埋七第 104 号・2021.10.19) (5 埋七第 73 号・2023.9.14) 鑑定結果通知 (30 教生第 3184 号・2018.12.25) (31 教生第 4167 号・2020.3.27) (3 文芸第 1736 号・2021.10.27) (5 文芸第 1077 号・2023.9.26)							
要約	三宅川の右岸自然堤防上に形成された弥生時代中期後葉の大規模集落跡で、平成 3 年度より 30 年以上に渡って発掘調査が行われてきた。これまでに 267 棟の竪穴建物跡、28 棟の掘立柱建物跡などが確認されてきた。今回の平成 30 年度から令和 5 年度までの調査では、さらに竪穴建物跡を 22 棟確認し、竪穴建物跡の総数は 289 棟となった。また、平成 21 年度の調査で見つかった河道の続きを確認し、多量の土器・石器・木器が出土した。							

第235集 名古屋城三の丸遺跡Ⅸ

調査は名古屋第4地方合同庁舎等建設に伴うもので、旧建物基礎を残した周囲が本書報告分の調査範囲(23A区)である。江戸時代の名古屋城三之丸においては本町門に近く、上級藩士の中でも家老職を代々勤めた渡辺半蔵家など重臣が配置されていた武家屋敷地であった。

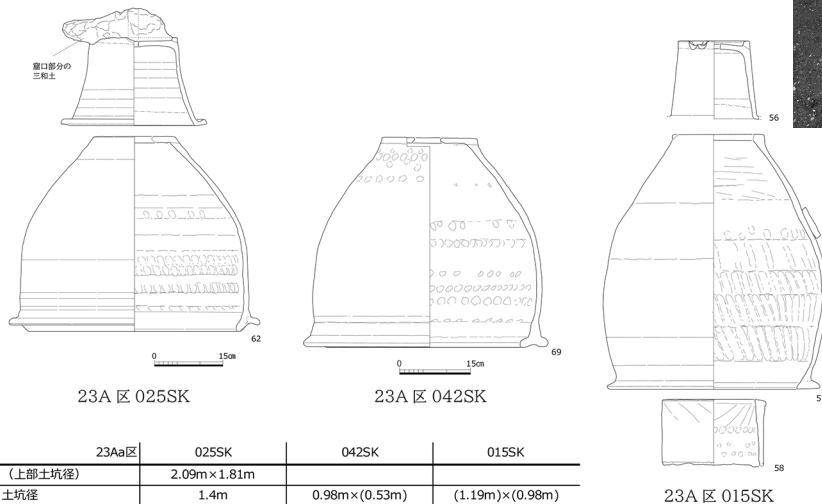
調査では、池の痕跡や江戸時代後期の水琴窟を含む埋甕の排水施設など庭園関連の遺構が検出され、遺物には多数の植木鉢が含まれるなど、これまでの調査ではみられなかった屋敷奥の趣味的な空間が明らかとなった。重臣の邸宅ならではの階層性を示す遺構群と位置付けられる。また、下層では戦国期の屋敷地区画溝の上層を確認し、東西方向に100m以上延びる幅11mほどの大溝を確認した。戦国期那古野城に関連する情報として注目される。
(武部真木)



23A区と県三の丸庁舎地点の戦国期溝(掘)の配置



埋甕遺構(025SK)上部



23Aa区	025SK	042SK	015SK
(上部土坑径)	2.09m×1.81m		
土坑径	1.4m	0.98m×(0.53m)	(1.19m)×(0.98m)
土坑深さ	1.06m	0.85m	1.18m
土坑底面標高	11.242m	11.649m	11.195m
土坑底面から甕(口縁部)までの距離	21cm	15cm	40cm
甕 口径	44.7cm	40.8cm	45~47cm
甕 最大径	55.1cm	52.3cm	
甕 底径	18.1cm	20.0cm	19.4cm
甕 器高	42.8cm	44.3cm	53.8cm

名古屋城三の丸遺跡の埋甕遺構の事例

報告書抄録

ふりがな	なごやじょうさんのまるいせき 9							
書名	名古屋城三の丸遺跡 IX							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第235集							
編著者名	武部真木(編)・鈴木正貴							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なごやじょう 名古屋城 さんのまるいせき 三の丸遺跡	あいちけん なごやし 愛知県名古屋市 なかく さんのまる 中区三の丸2丁目	23106	007027	35度 10分 45秒	136度 54分 4秒	2023.05.17~ 2023.08.31	1,119	名古屋第4 地方合同庁舎 整備等事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
名古屋城 三の丸遺跡	集落 城郭	奈良時代 戦国時代 ~ 江戸時代	溝(堀)、井戸 溝、土坑、井戸、 庭園遺構(池)		須恵器 土師器(皿・鍋・人形)、 国内産陶磁器、 輸入陶磁器、 金属製品、石製品等		尾張藩武家屋敷の 庭園遺構(池)及び 水琴窟	
文書番号	発掘届出(5埋セ第3号 2023.4.5) 通知(5文芸第94-1号 2023.4.11) 終了届・保管証・発見届(5埋セ第149号 2024.3.21) 鑑定結果通知(6文芸第130号 2024.4.15)							
要約	調査地点は、名古屋城三の丸尾張藩武家屋敷のうちでも本町御門に最も近い重臣屋敷の一角にあたり、広大な敷地を継続して保有した渡邊半蔵家とその東側屋敷地が含まれる。屋敷奥となる範囲には池の痕跡や水琴窟を含む多数の埋蔵遺構が確認され、廃棄土坑からは多数の植木鉢も出土した。広い屋敷地ならではの空間の利用方法と、17世紀後半以降に活発に流行した園芸趣味の武家地での様相が窺われる資料である。							

第236集 名古屋城三の丸遺跡X

調査は名古屋第4地方合同庁舎等建設に伴うもので、旧建物基礎を撤去した範囲が本書の調査範囲(23B区)である。江戸時代の名古屋城三の丸においては本町門に近く、上級藩士の中でも家老職を代々勤めた渡辺半蔵家など重臣が配置されていた武家屋敷地であった。

現地表から3.5m程下の面から開始となった調査では、井戸約14基と戦国期の巨大な溝の下部のみが確認された。上層で幅約11mとした大溝は、地表面から約4.5mの深さがあり、土塁を伴っていたと考えられる。これまでの調査事例等の検討からは東西方向に約350mほどの規模が推定され、戦国期那古野城の中心域に対しては、南辺を画する遺構の発見となった。(武部真木)



大溝(315SD)の埋土断面 東から撮影



名古屋城三の丸遺跡の戦国期溝(掘)の分布

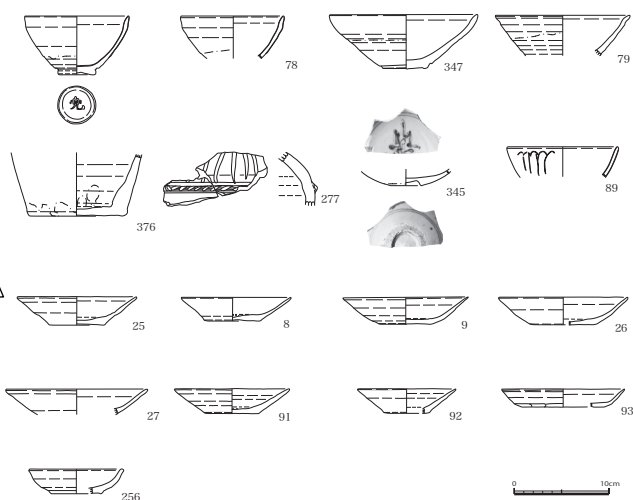
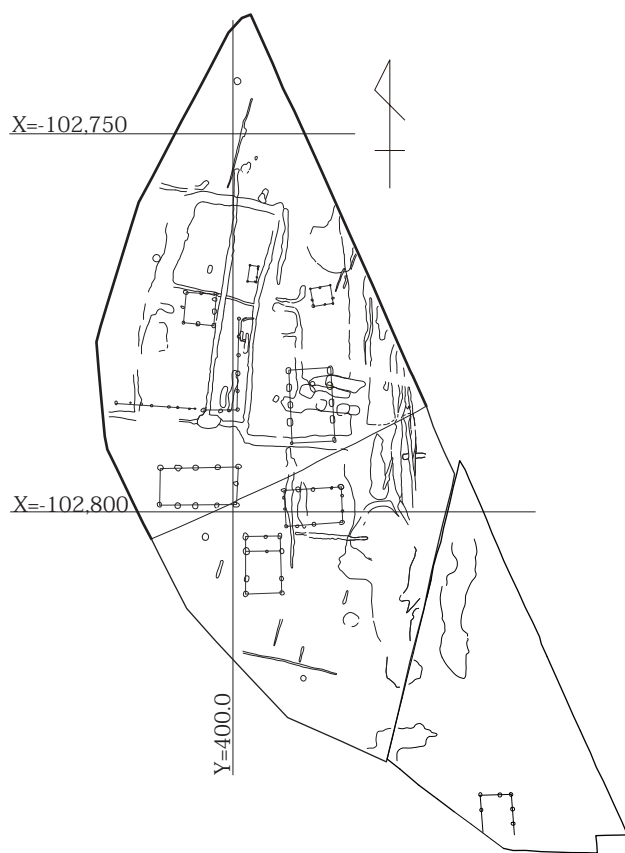
報告書抄録

ふりがな	なごやじょうさんのまるいせき 10							
書名	名古屋城三の丸遺跡 X							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第236集							
編著者名	武部真木							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なごやじょう 名古屋城 さんのまるいせき 三の丸遺跡	あいちけん なごやし 愛知県名古屋市 なかく さんのまる 中区三の丸2丁目	23106	007027	35度 10分 45秒	136度 54分 4秒	2024.01.09.~ 2024.03.22.	3,344	名古屋第4 地方合同庁舎 整備等事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
名古屋城 三の丸遺跡	城郭	戦国時代 ~ 江戸時代	溝(堀)、井戸 溝、土坑、井戸	国内産陶磁器、 金属製品、石製品等 土師器(皿・鍋・人形)、 国内産陶磁器、 輸入陶磁器、 金属製品、石製品等		那古野城の南辺を 画する大溝を確認		
文書番号	発掘届出(5埋セ第3号 2023.4.5) 通知(5文芸第94-1号 2023.4.11) 終了届・保管証・発見届(5埋セ第149号 2024.3.21) 鑑定結果通知(6文芸第130号 2024.4.15)							
要約	調査地点は、名古屋城三の丸尾張藩武家屋敷のうちでも本町御門に最も近い重臣屋敷の一角にあたり、広大な敷地を継続して保有した渡邊半蔵家とその東側屋敷地のそれぞれ一部が含まれる。建物基礎撤去後の旧地表面より約3m 下からの調査において、江戸時代と戦国期の井戸計14基のほか、幅約12m 規模の大溝の底面を確認した。大溝は深さ約4m、土塁を伴い東西方向に103m 以上延びることが判明し、戦国期那古野城の南辺を画するいわゆる「惣構」と想定される重要遺構の発見となった。							

第237集 牛寺遺跡Ⅱ

牛寺遺跡は愛知県豊田市御立町に所在する。遺跡は、矢作川の鵜の首狭窄部から上流に約900m地点で、左岸の北西から南東に半島状に伸びる段丘面(籠川面)に位置する。遺跡の西側は現在の矢作川流路と接しており、一部がその堤防内側に取り込まれた形となっている。

発掘調査は、平成29(2017)年度・平成30(2018)年度・令和3(2021)年度に実施した。検出された遺構は、縄文時代から近世と様々な時期に属するが、主体となるのは中世以降の遺構群で、15世紀には溝により形成された区画中に掘立柱建物・井戸・土坑などが展開する様子が確認できる。なお、これらの遺構が廃絶する16世紀以降には、7基の火葬施設が検出されており、葬送の空間として利用が想定できる。(池本正明)



報告書抄録

ふりがな	ごでらいせき2							
書名	牛寺遺跡 II							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第237集							
編著者名	池本正明、荒木徳人、株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
ごでらいせき 牛寺遺跡	あいちけん とよたし 愛知県豊田市 みたちちょう 御立町	232114	630359	35度 4分 23秒	137度 10分 33秒	2017.04~06 2018.12~02 2021.10~02	200 800 2,800	矢作川 河川改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
牛寺遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 中・近世	土坑 竪穴建物、土坑 掘立柱建物、土坑、 溝、井戸、 火葬施設関連遺構	縄文土器、石器 弥生土器 土師器、 瀬戸美濃窯産陶器		溝による区画		
文書番号	発掘届出 (29埋セ7号 2017.04.10、 30埋セ第86号 2018.11.08、 3埋セ第76号 2021.08.05) 通知 (29教生第280号 2017.04.19、30教生第2733号 2018.11.20、3文芸第1277号 2021.08.18) 終了届・保管証・発見届 (29埋セ27号 2017.06.13、 30埋セ第131号 2018.03.08、 3埋セ第147号 2022.03.07) 鑑定結果通知 (29豊教第1210号 2017.07.03、 3豊文財第4021号 2022.03.18)							
要約	本遺跡は、矢作川東岸の半島状に伸びる段丘面に立地している。調査では主に縄文時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が確認された。中心となる中世では屋敷地が展開していることが判明した。屋敷地の廃絶後は、火葬施設が確認されるなど、葬送に関わる場へと土地利用が変容している事も確認できた。当該地域の中世の集落を考える上で貴重な資料を得ることができたと考えられる。							

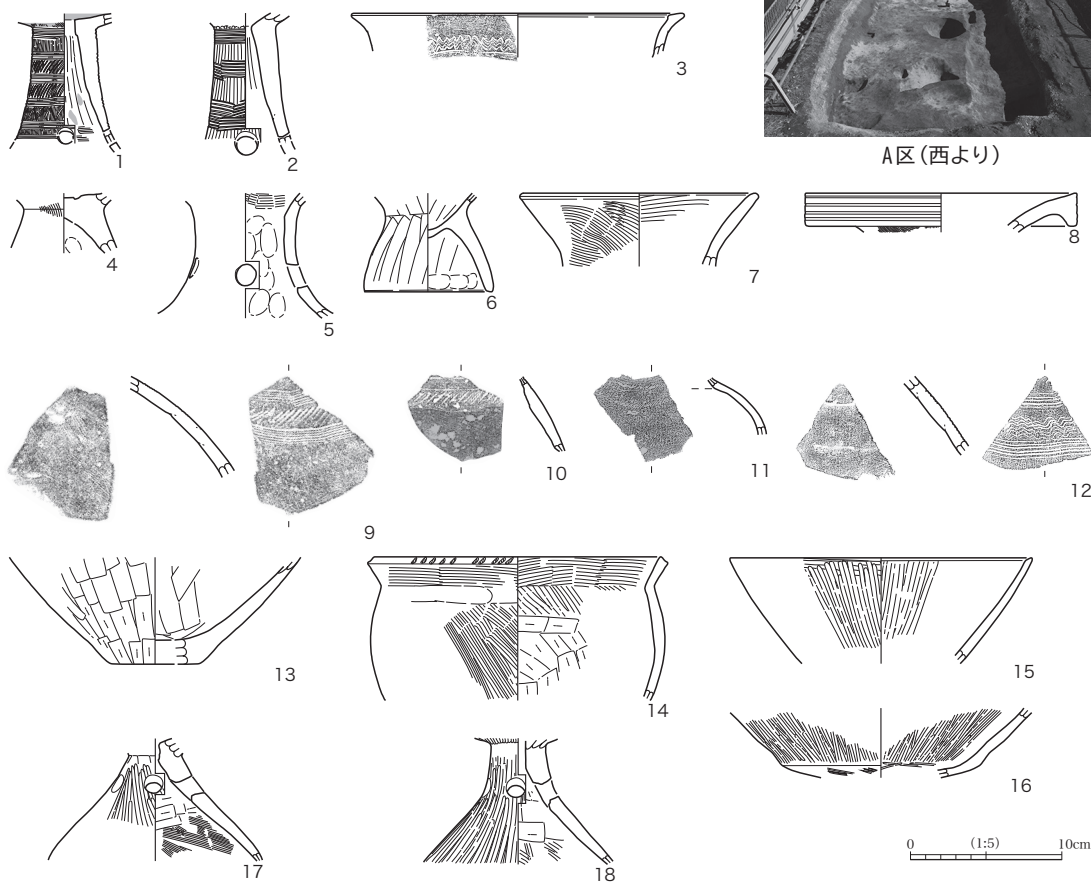
第238集 蕎麦田遺跡

本遺跡では調査範囲をAからGの7調査区に分割して行った。調査によって確認された遺構遺物は主に古墳時代、平安時代、近世の3時期に属する。古墳時代前半の遺構としてA区で溝3条、E～G区で溝7条を検出した。いずれも南北方向の溝である。古墳時代後半は、D・E区で南北方向の溝が4条が検出された。平安時代の遺構としてはE区で南北方向の溝1条が検出された。近世の遺構は、G区で南北方向の溝1条が検出された。その他時期不明の南北方向の溝が2条検出された。遺物としては古墳時代は土師器および須恵器、平安時代は灰釉陶器と須恵器が出土した。近世の溝からは瀬戸窯産陶器類などが出土した。

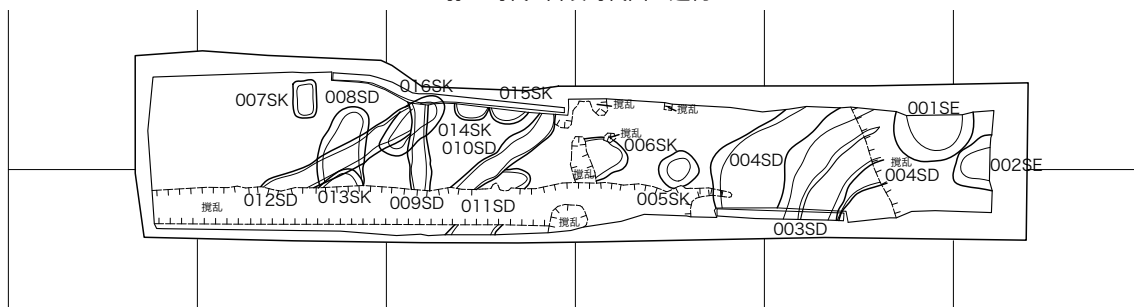
調査の結果、古墳時代では建物の遺構は検出されなかったが、中央のD区の旧河道を中心に東側と西側の微高地上に集落が展開すると推定される。 (酒井俊彦)



A区(西より)



弥生時代・古墳時代出土遺物



A区遺構図(1/200)

報告書抄録

ふりがな	そばたいせき							
書名	蕎麦田遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第238集							
編著者名	酒井俊彦							
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2026年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
そばたいせき 蕎麦田遺跡	あいちけんいわくらし 愛知県岩倉市 だいちちよう そばた 大地町 蕎麦田	232289	110056	35度 16分 31秒	136度 51分 45秒	2023.10.01~ 2024.01.31	1,098	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
蕎麦田遺跡	集落	古墳時代 古代	溝・土坑	土師器 須恵器 灰釉陶器				
文書番号	発掘届出(5埋セ第72号 2023.9.6) 通知(5文芸第1053号 2023.9.25) 終了届・保管証・発見届(5埋セ第122号 2024.2.8) 鑑定結果通知(5文芸第1943-1号 2024.2.22)							
要約	蕎麦田遺跡は愛知県の尾張平野に所在する遺跡であり、五条川右岸に立地する。本遺跡は県道春日井一宮線工事に伴う試掘調査で確認された。周辺には大地遺跡、西北出遺跡などよく知られた遺跡が存在する。今回の調査では古墳時代から近世までの遺構・遺物が確認された。古墳時代の遺構・遺物としては溝と土坑が確認され、古墳時代土師器が出土した。古代の遺構・遺物は溝とこれに伴う灰釉陶器、須恵器などが確認された。							

IV. 普及・公開活動の記録

埋蔵文化財展

埋蔵文化財展

愛知県埋蔵文化財センターでは、遺跡の発掘調査により発見された資料を広く公開するとともに、講座や体験プログラムなどの企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図ることを目的とした埋蔵文化財展を行なっている。

令和7年度は、春に愛知県埋蔵文化財調査センターと共催し、「春の特別公開 2025」と新出土品展「やとみ新発見展」2025」、常設展示のリニューアル「あいち発掘銘泉展」を行なった。また、秋には「秋の特別公開 2025」に併せて「身近になった遺跡（IGアリーナ）名城公園遺跡の土器」として報告書整理作業中の資料の一部を公開した。

春の埋蔵文化財展

1. 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター
2. 会期：令和7年3月29日（土）～4月11日（金）
3. 開催趣旨

「やとみ新発見展」（しんはっけんでん）2025」と題して前年度の発掘調査成果を中心に展示し、同時に常設展示のリニューアル「あいち発掘銘泉展」展示解説を実施した。入館無料。

4. 内容

「やとみ新発見展」2025

2階収蔵庫Cにて、令和6年度に発掘調査を実施した13遺跡（一色天神遺跡、辻惣山遺跡、清洲城下町遺跡、西二葉町遺跡、青山神明遺跡・青山金剛遺跡、多気中町東遺跡、寄島遺跡、姫下遺跡、中狭間遺跡、野添遺跡・萱野遺跡、ハラビ平遺跡）の出土遺物や写真パネル等を展示した。保存処理を終えた豊川市花の木古墳群出土の蛇行剣と鉄製品の展示を期間限定で行い、特に注目を集める資料となった。期間中の入場者数は326名。

「埋文桜ニュース 2025」

配布資料として埋文桜ニュースを発行し、遺跡の概要説明と本年度イベント案内および愛知県埋蔵文化財調査センター春の特別公開の展示解説を掲載した。期間中の配布部数は254部。（武部真木）



「やとみ新発見展」2025」チラシ



「あいち発掘銘泉展」チラシ



埋文桜ニュース

朝日遺跡ミュージアム企画展「あいちの発掘調査2025」

愛知県県民文化局文化財室からの受託事業として、清須市のあいち朝日遺跡ミュージアムにおいて、企画展「あいちの発掘調査2025」を開催した。

本展では、県内各地で行われた最新の発掘調査の出土品と調査成果のパネルを展示した。今回は、森後町遺跡（名古屋市中区東区）、青塚古墳（幸田町）、エベス塚古墳（西尾市）、青山神明遺跡・青山金剛遺跡（豊山町）、西二葉町遺跡（名古屋市中区東区）、史跡小牧山の7遺跡を紹介した。また、朝日遺跡からは、佐久島に所在するエベス塚古墳に関連して、海に関わる漁労具の優品を展示した。関連講演会においても『海の考古学』と題して、シンポジウムのほか、研究発表を行った。印刷物としては、ポスター・チラシ・パンフレットの企画・編集とガイドブックの作成を行った。

企画展 あいち朝日遺跡ミュージアム
あいちの発掘調査 2025

2026
1/17(土) 3/18(日)

【関連講演会等】※応募詳細は裏面に記載されています。

2月7日	「海の考古学—伊勢湾—三河湾をめぐる新たな発見点—」 講師：佐藤 隆夫（愛知県立歴史民俗学館学芸員） 会場：愛知県立歴史民俗学館（名古屋市中区東区） 定員：200名（先着順） 入場料：無料	280円
2月21日	「発掘調査のやり方教えます—旧石器時代編—」 講師：佐藤 隆夫（愛知県立歴史民俗学館学芸員） 会場：愛知県立歴史民俗学館（名古屋市中区東区） 定員：200名（先着順） 入場料：無料	250円
3月18日	発掘調査最新成果報告会「弥生集落と古墳」 講師：佐藤 隆夫（愛知県立歴史民俗学館学芸員） 会場：愛知県立歴史民俗学館（名古屋市中区東区） 定員：200名（先着順） 入場料：無料	50円
3月8日	発掘調査最新成果報告会「古代以降の集落・城・屋敷・学校」 講師：佐藤 隆夫（愛知県立歴史民俗学館学芸員） 会場：愛知県立歴史民俗学館（名古屋市中区東区） 定員：200名（先着順） 入場料：無料	50円

あいち朝日遺跡ミュージアム
1452-0932 愛知県清須市朝日段1番地1 1階 TEL.052-409-1467
※休館日：毎月第1日（祝祭日の場合は、翌日0日休館）※11月4日（土）休館
※11月17日（土）休館 ※11月18日（日）休館 ※11月19日（月）休館

あいち朝日遺跡ミュージアム
https://aichi-asahi.jp/

「あいちの発掘調査2025」チラシ

企画展
あいちの発掘調査 2025

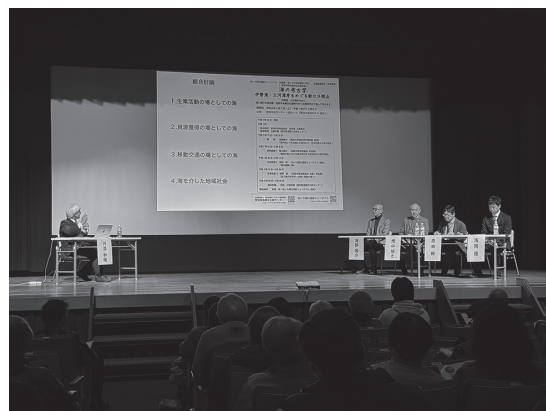
あいち朝日遺跡ミュージアム
1452-0932 愛知県清須市朝日段1番地1 1階 TEL.052-409-1467
※休館日：毎月第1日（祝祭日の場合は、翌日0日休館）※11月4日（土）休館
※11月17日（土）休館 ※11月18日（日）休館 ※11月19日（月）休館

あいち朝日遺跡ミュージアム
https://aichi-asahi.jp/

「あいちの発掘調査2025」ガイドブック表紙



企画展示室の展示状況



講演会の開催状況

1 企画展

(1) 会期 令和8年1月17日(土)から3月8日(日)まで

休館日：毎週月曜日(※2月23日(月・振替休日)は開館、翌24日(火)は休館)

(2) 開館時間 9:30～17:00

(3) 会場 あいち朝日遺跡ミュージアム 本館(企画展示室)

2 関連講演会

(1) 関連講演会「海の考古学」

① 日時：令和8年2月7日(土) 13:00～17:00

② 場所：清洲市民センター1階(ホール)

③ 講師：海部陽介氏(東京大学総合研究博物館 教授)

講演「海の向こうを目指した祖先たち：日本列島4万年の歴史」

増山禎之氏(田原市教育委員会 学芸員)

研究発表1「渥美半島における縄文時代から弥生時代の海上交通」

原田幹氏(あいち朝日遺跡ミュージアム 館長)

研究発表2「朝日遺跡と海」

浅岡優氏(西尾市教育委員会 主査/学芸員)

研究発表3「佐久島の考古学—古墳と製塩の島—」

④ 参加費：無料

⑤ 当日参加人数：154人

(2) 発掘調査最新成果報告会I「弥生集落と古墳」

① 日時：令和8年3月1日(日) 13:30～15:30

② あいち朝日遺跡ミュージアム 本館(研修室)

③ 講師：大岡由紀子氏(名古屋市教育委員会)「森後町遺跡」

稲垣彩乃氏(幸田町教育委員会)「青塚古墳」

浅岡優氏(西尾市教育委員会)「エバス塚古墳」

④ 参加費：無料

⑤ 当日参加人数：49人

(3) 発掘調査最新成果報告会II「古代以降の集落・城・屋敷・学校」

① 日時：令和8年3月7日(土) 13:30～15:30

② あいち朝日遺跡ミュージアム 本館(研修室)

③ 講師：鈴木正貴(愛知県埋蔵文化財センター)「青山神明遺跡・青山金剛遺跡」

田中芳樹氏(小牧市教育委員会)「史跡小牧山」

川添暁(愛知県埋蔵文化財センター)「西二葉町遺跡」

④ 参加費：無料

⑤ 当日参加人数：44人

あいち朝日遺跡ミュージアム 企画展「あいちの発掘調査2025」 企画展講演会・研究発表
(清須市教育委員会共催事業)

海の考古学

伊勢湾・三河湾をめぐる新たな視点
伊勢湾・三河湾を中心に、海に開く諸活動・役割を後期旧石器時代から古墳時代まで通して考えます。

開催日 令和8年2月7日(土) 午後1時から5時まで
会場 清洲市民センター1階ホール(清須市清洲弁天96番地1)

午後0時30分	開場
午後1時	開会挨拶 清須市教育委員会 教育長 天笠幸治 趣意説明 川添和暁(愛知県埋蔵文化財センター)
午後1時10分～2時10分	講演 海部陽介(東京大学総合研究博物館 教授) 「海の向こうを目指した祖先たち：日本列島4万年の歴史」
午後2時20分～2時45分	研究発表1 増山禎之(田原市教育委員会 学芸員) 「渥美半島における縄文時代から弥生時代の海洋活動」
午後2時45分～3時10分	研究発表2 原田幹(あいち朝日遺跡ミュージアム 館長) 「朝日遺跡と海」
午後3時10分～3時35分	研究発表3 浅岡優(西尾市教育委員会 主査/学芸員) 「佐久島の考古学—古墳と製塩の島—」
午後3時50分～4時50分	総合討論 司会 川添和暁(愛知県埋蔵文化財センター) 閉会挨拶 原田幹(あいち朝日遺跡ミュージアム 館長)

公益財団法人 愛知県埋蔵文化財センター <http://www.milans.com> あいち朝日遺跡ミュージアム <https://aichi.asahi.jp/>

関連講演会「海の考古学」資料

(樋上 昇)

連続歴史講座

目的：最新の発掘調査成果や、考古学研究の最前線を広く一般県民に公開するため。参加費は無料。

会場：愛知県埋蔵文化財調査センター 2階 研修室(第1回・第2回)

安城市民ギャラリー創作実習室(第3回・第4回) (安城市埋蔵文化財センターと共催)

日時：第1回 4月24日(木)、第2回 6月19日(木)、第3回 10月30日(木)、第4回 11月20日(木)

各回午前10時30分から正午まで

	タイトル	講師	参加人数
第1回	身分を示す木製品 ～華麗なる威儀具の世界～	樋上 昇	33名
第2回	社会の役割が見える骨角器 ～さまざまな骨角製装身具類の世界～	川添和暁	24名
第3回	亀塚遺跡の竪櫛とその時代 ～弥生と古墳のはざま～	河嶋優輝	27名
第4回	色彩でひもとく弥生のアクセサリ 管玉・勾玉の魅力/山陰地方を中心に	茶谷 満	16名

本年度の連続歴史講座は「よそおいの考古学」というテーマで実施した。本講座はこれまで弥富市の愛知県埋蔵文化財調査センター（以下センター）で開催してきたが、会場が愛知県西端部となるため、三河地域の県民には参加しづらいことが懸念されていた。

そのため、今年度は第1回・第2回を例年通りセンターでの開催とし、第3回・第4回は安城市での開催とした。その際は安城市埋蔵文化財センターとの共催として、安城市民ギャラリー創作実習室で開催した。

安城市での開催時はアンケートでも初参加という回答が多く、センター以外での開催は、広く一般県民に公開するという当講座の目的を達するに有効な施策だったといえる。(河嶋優輝)



講座の様子（安城市民ギャラリー創作実習室にて）

歴史講座『よそおいの考古学』 全4回
※参加無料・予約不要 ※各回ごとにお申し込みください。

最新の発掘調査成果や、考古学研究の最前線をご紹介する歴史講座です。
今年度のテーマは「よそおいの考古学」。
毎年安城市の埋蔵文化財センター、安城市民ギャラリー、2つの会場で開催します。
考古学に興味のある方、「よそおい」

会場：愛知県埋蔵文化財調査センター

歴史講座 第1回 4月24日(木)

身分を示す木製品
～華麗なる威儀具の世界～

講師：樋上 昇

「威儀具(いぎ)」とは、王や貴族が身に華やかさを示すための道具です。その時代、王や貴族の威風凛々な姿によって変わって来たと考えられています。

歴史講座 第2回 6月19日(木)

社会の役割が見える骨角器
～さまざまな骨角製装身具の世界～

講師：川添 和暁

骨角器は、動物の骨や角から作られた道具や装身具です。その時代、骨角器の用途や作りかたが、社会の役割や生活様式を反映しています。

歴史講座 第3回 10月30日(木)午前10時30分から正午まで

亀塚遺跡の竪櫛とその時代
～弥生と古墳のはざま～

講師：河嶋 優輝

一枚の櫛で出た、色とりどりの装身具。その時代、櫛の用途や作りかたが、社会の役割や生活様式を反映しています。

歴史講座 第4回 11月20日(木)午前10時30分から正午まで

色彩でひもとく弥生のアクセサリ
管玉・勾玉の魅力/山陰地方を中心に

講師：茶谷 満

弥生時代のアクセサリである「管玉」「勾玉」の魅力について、主に山陰地方の出土品を紹介しながら、色彩の観点で紐とんと一緒に考えてみたいと思います。

お問い合わせ先
愛知県埋蔵文化財調査センター
〒466-0017 愛知県豊田県豊田野原5-802-24
Tel. 0547-47-4143 Fax. 0547-47-3094
http://www.mibizen.com

お問い合わせ先
愛知県埋蔵文化財調査センター
〒466-0017 愛知県豊田県豊田野原5-802-24
Tel. 0547-47-4143 Fax. 0547-47-3094
http://www.mibizen.com

お問い合わせ先
愛知県埋蔵文化財調査センター
〒466-0017 愛知県豊田県豊田野原5-802-24
Tel. 0547-47-4143 Fax. 0547-47-3094
http://www.mibizen.com

開催告知チラシ

愛知県生涯学習推進センター協力講座

『令和7年度生涯学習あいち県民講座』の一環として、愛知県埋蔵文化財センターと愛知県生涯学習推進センターの協力講座が開催された。今年度は3回の企画でいずれも室内講座と現地学習の組み合わせである。

【1】あいちの遺跡を学ぼう「豊山町 青山神明遺跡～台地の開拓とまぼろしの古代寺院～」

①講義

令和7年6月18日(水) 午前10:00～12:00 愛知県教育会館3階教室

「遺跡にみる台地の開発と古代寺院」

講師：永井邦仁 参加者：19名

②現地学習

令和7年6月27日(金) 午後1:00～3:00 豊山町社会教育センター集合

「豊山町・青山神明遺跡に台地開発の痕をさぐる」

講師：永井邦仁 参加者：16名

【2】あいちの遺跡を学ぼう「西二葉町遺跡～江戸成瀬家屋敷跡と近代学校変遷史～」

①講義

令和7年10月10日(金) 午前10:00～12:00 愛知県教育会館3階教室

「江戸成瀬家屋敷跡と近代学校変遷史」

講師：川添和暁 参加者：20名

②現地学習

令和7年10月17日(金) 午後1:00～3:00 明和高等学校敷地内

「近現代の土地利用～武家屋敷から学校運営まで」

講師：川添和暁・柳原麻子 参加者：18名

【3】あいちの遺跡を学ぼう「豊橋市 萱野遺跡～三河の霊峰・石巻山仰ぐ遺跡群～」

①講義

令和7年12月3日(水) 午前10:00～12:00 豊橋商工会議所507会議室

「石巻山を頂く遺跡と萱野遺跡」

講師：早野浩二 参加者：17名

②現地学習

令和7年12月10日(水) 午後1:00～3:00 石巻生涯学習センター集合

「石巻山拝し東三河環状線、調査遺跡を歩く」

講師：早野浩二・小柳篤史 参加者：14名

(武部真木)

栄中日文化センター協力講座

上半期

『万葉びとの思いにのぞむ～発掘調査で見つかった情景を通して～』

日程：令和7年4月22日(火)・5月27日(火)・6月24日(火)の3回、13:00～14:30

担当：蔭山誠一

内容：「令和」になって六年、「令和」の由来である万葉集の詩を受講者と毎回数首～40首程を詠み、発掘調査でわかる古代の遺構から推定される情景や発見された出土遺物の痕跡からわかることを紹介した。

1回目は「廬(いほ)」で万葉集の中にある「貧窮問答歌」の世界から、発掘調査で見つかった水田遺構に伴う竪穴建物について解説、2回目は「黄金(こがね)」で奈良時代にあった改元とその後の物語を、『今昔物語集』の記事をヒントに読み解き、愛知県をはじめとする東海地域で見つかった金・銀・銅の加工技術を紹介した。3回目は「占(うらない)」で愛知県の朝日遺跡などで出土している占骨などを紹介し、『古事記』にある記事をヒントに古代の占いを受講者と考えた。

参加者は1回目13名、2回目13名、3回目13名であった。

(蔭山誠一)

下半期

『「イノリ」と「マツリ」の考古学 —愛知県下の古代・中世の発掘調査事例を中心として—』

日程：令和7年10月1日(水)・11月5日(水)・12月3日(水)の3回、10:30～12:00

担当：池本正明

内容：講座全体の趣旨は、古代・中世の人々が、カミ・ホトケをどのように理解していたのかを考える内容で、主に愛知県を中心として特徴的な遺構・遺物を紹介する方法を取った。

1回目(水に流そう・・・)では、律令制の主導により整備された律令的祭祀とよばれる作法を中心に紹介した。伝統的な祭祀に新たな要素を加えて再編成されたマツリのカタチで、7世紀頃に登場するとされている。遺構・遺物からこれを捉えると、主に木製の形代に代表される祭祀具が、水辺でまとまって出土する事例が多い。これらはマツリに伴うハラエに関わる資料と考えられ、名古屋市志賀公園遺跡などの事例を中心として紹介した。

2回目(カミとホトケのマネジメント)では、主に8世紀以降の事例を中心とした。この時代は神祇信仰と仏教の習合が進む一方、民間信仰なども加わって、多様なイノリの作法が登場する時代と言われている。この時代の遺構・遺物のあり方を、『風土記』や『日本霊異記』などにヒントを求めながら、カミ・ホトケを自らの都合の良い様に差し向けようと創作された、したたかな信仰のカタチを紹介した。

3回目(多様化するマツリ 願わくばご利益を・・・)では、中世の話題も含めて、マツリと関わりが強いとされる生産活動の場面で登場する遺構・遺物に注目し、主に安城市鹿乗川流域遺跡群の墨書土器や、日進市金萩遺跡の刻書土器などを紹介した。

参加者は1回目13人、2回目13人、3回目14人であった。

(池本正明)

清須市文化財講座(協力事業)

清須市教育委員会が主催する文化財講座において、協力講座として1回行った。

日時：令和7年9月25日(木) 午前10:00から午前11時30分

場所：清須市清洲市民センター 302視聴覚室

担当と題目：田中 良「比べる！尾張と三河の戦国時代

—清洲城下町遺跡と野添遺跡(豊橋市)の比較から—

本講座では、まず、清洲城下町遺跡の最新の発掘調査成果(令和5年度・令和6年度)について触れ、令和5年度調査で出土した瓦について、上層の瓦だまりと下層の石垣から出土した瓦には、規格や紋様に違いがあることに言及した。また、石垣が意図的に壊され機能しなくなったのちも、瓦葺建物が存続していた可能性が高いことが、瓦だまりと石垣の関係から判明したことも紹介した。

次に、瓦(軒丸・軒平)の規格や紋様に違いがあることについて、過去の調査で大量の瓦が出土した後期清須城の本丸地点と比較し、その由来について迫った。その結果、軒丸瓦は瓦だまりよりも石垣に伴うものの方が、規格が大きいことが分かった。また、瓦だまりや石垣には、本丸で出土した左巻きの三つ巴紋の瓦が出土していないことも判明した。軒平瓦は、本丸では菱紋や菊紋などにバリエーションがあるのに対し、瓦だまりや石垣のものは大形(17cm)にしか用いられない紋様のみで構成されることが分かった。このことから、時期差(工人差)だけでなく、建物の規模などにも差があることが分かってきた。

そして、戦国時代の尾張と三河の違いを比べるために、土師器の内耳鍋を題材として検討した。清洲城下町遺跡を含め尾張地域では、ボール状の「半球形内耳鍋」が主流で、戦国時代前半のものには胴部に沈線が施されるのが特徴で、後半になると沈線が消え、器形が浅くなり、足が付くものが特徴的となる。さらには、「焙烙」が戦国時代後半から登場する。それに対して、豊橋市の野添遺跡では、「半球形内耳鍋」

比べる！尾張と三河の戦国時代
—清洲城下町遺跡と野添遺跡(豊橋市)の比較から—

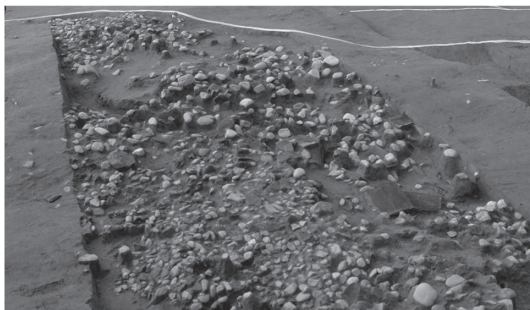
と共に、くの字形に器形が屈曲する「くの字形内耳鍋」や口縁から頸部までが垂直でそこから膨らむ「内湾形内耳鍋」が組成するのが特徴で、東三河では総じて鍋のバリエーションが豊富である。「半球形内耳鍋」の変化に関しては、尾張地域と同様に器形が深く沈線が施される→浅く沈線が消えるに変化する傾向があるが、尾張地域と比べて器厚が分厚いのが通時的な特徴である。

今後の課題として、野添遺跡では鍋のセット関係とその変遷を遺構の変遷と共に検討する必要があることと、清洲城下町遺跡の瓦については瓦だまりと石垣の瓦(軒丸・軒平)を検討し、本丸との比較検討が重要になってくることに言及した。

(田中 良)

清須市清洲市民センター
(302 視聴覚室)
2025年9月25日(木)
愛知県埋蔵文化財センター
調査研究主事 田中 良

↓清洲城下町遺跡の本丸地点 瓦出土状況



↓清洲城下町遺跡の令和5年度調査区 瓦出土状況(瓦だまり)



考古学フェア あいちの考古学2025

本事業は、ポスター展示とプレゼンテーションによる調査・研究発表会を主体とし、これに識者による講演会とシンポジウムを加えた考古学的な成果の普及を目的とした「考古学セミナー」と、考古学関連のワークショップやゲームなどによってより考古学や埋蔵文化財を身近にすることを目的とした体験型の普及活動である「考古学フェスタ」で構成されている。本事業は令和5年度より開始され、今年度は3回目となる。「考古学セミナー」と「考古学フェスタ」への参加は、県、財団法人、市町村、大学、NPO法人、民間調査機関、遺跡調査会、研究グループなどから5～7月にエントリーを受付け、内容審査を経て計29件の出展となった。

【主催】 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

【主管】 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

公益財団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

【開催場所】 金山南ビル（名古屋市中区金山1丁目1-1）

【内容】

1 考古学セミナー（入場料等無料）

① ポスター展示

- (1) 開催期日 令和7年11月5日（水）～11月24日（月）※月曜（10・17日）休館
- (2) 開館時間 火～金曜日 10：00～18：00 土・日・祝日 10：00～17：00
- (3) 会場 名古屋都市センター11階 まちづくり広場
- (4) 発表者 14団体（個人も含む）
- (5) 入場者数 のべ3,109人

② 調査・研究発表会（発表資料集を無料配付）

- (1) 開催日時 令和7年11月15日（土）・16日（日）13：00～16：00
- (2) 会場 名古屋都市センター11階 ホール
- (3) 発表者 15日：6名、16日：5名
- (4) 参加者数 15日（土）：6つの発表のべ332人、16日（日）：5つの発表のべ285人

③ 講演会・シンポジウム（発表資料集を無料配付）

- (1) 開催期日 令和7年11月24日（月）13：00～16：00
- (2) 会場 名古屋都市センター11階 ホール
- (3) 参加者数 132人
- (4) タイトル 「名古屋城の御庭～下御深井御庭と二之丸庭園～」
- (5) 講演会 「絵図と発掘から名古屋城二之丸庭園を考える」
講師 丸山 宏（名城大学名誉教授）

(6) シンポジウム

関連発表 「名城公園遺跡と下御深井御庭」永井邦仁（愛知県埋蔵文化財センター）
「文献史料からみた名古屋城下御深井御庭」堀内亮介（名古屋城調査研究センター）
「発掘調査成果からみた名古屋城二之丸」高橋圭也（名古屋城調査研究センター）
「水琴窟の音響く武家屋敷の庭園」武部真木（愛知県埋蔵文化財センター）

2 考古学フェスタ（入場料等無料、材料費は別途）

- (1) 開催期日 令和7年11月9日（日）12：00～16：00
- (2) 会場 名古屋都市センター11階 ホール、企画展示コーナー
- (3) 出展者 犬山焼ミュージアム、東海石割り会、愛知県埋蔵文化財センター
- (4) 参加者数 4つの出展のべ131人

（田中 良）

あいち埋文サポーターズクラブの活動について

令和5年度から愛知県埋蔵文化財センターの広報普及活動をサポートしていただくための組織「あいち埋文サポーターズクラブ」を実施している。今年度も年会費1,000円を納めていただき、活動内容の充実に努めた。令和7年度は3月から会員の募集を開始し、令和8年1月にて61名の方々にご登録をいただいている。

活動内容は、遺跡の現場見学会が7回、ワークショップ「石鏝づくり体験」が4回、ワークショップ「パレススタイル土器を作ろう」が4回、イベント「考古学フェスタ」への参加が1回の計16回の活動実施であった。

今年度の初めての試みであるワークショップ「石鏝づくり体験」では、縄文時代から登場する弓矢と石鏝について職員が解説し、北海道の白滝産黒曜石を使用した石鏝を押圧剥離で整形する体験だった。講師となった職員も含め、参加された会員とアットホームな雰囲気の中、意見交換を多くしながら楽しく実施することができた。

また、3年目となる「パレススタイル土器を作ろう」では、1回目にあいち朝日遺跡ミュージアムでパレススタイル土器の観察会、2回目に愛知県陶磁美術館陶芸館にて土器の製作、3回目に愛知県陶磁美術館にて土器焼成で使う焚き木採集と本館の特別展「This is SUEKI」展の見学、4回目に土器焼成を実施した。

クラブの主要な活動の一つである遺跡見学会は、現場担当者からの遺跡の解説だけでなく、より具体的な質疑応答が行われ、会員にとっては発掘調査のより深い情報に触れる機会となり、好評を得ている。

(蔭山誠一)



下延坂遺跡見学会



ワークショップ「パレススタイル土器を作ろう」
土器製作

令和7年度サポーターズクラブ参加者一覧

日付	イベント	参加人数
R7.5.30	石鏝づくり体験 AM・PM	計9名
R7.6.6	石鏝づくり体験 AM・PM	計7名
R7.6.17	下延坂遺跡見学会	4名
R7.8.1	青山神明遺跡A区見学会	10名
R7.9.12	西二葉町遺跡見学会	8名
R7.9.17	パレススタイル土器を作ろう① 土器観察会	10名
R7.11.9	考古学フェスタ	8名
R7.11.27	パレススタイル土器を作ろう② 土器製作会	10名
R7.12.17	パレススタイル土器を作ろう③ 燃料採取・愛知県陶磁美術館 特別展見学	10名
R8.1.27	パレススタイル土器を作ろう④ 土器焼成編	9名
R8.2.12	青山神明遺跡P区見学会	8名
R8.2.17	サポーターズクラブ活動の振り返りの会	10名
R8.2.26	萱野遺跡見学会	6名
R8.2.27	内山遺跡見学会	5名
		のべ114名

V. 埋蔵文化財センターの活動

資料の貸出一覧

貸出先	目的	遺跡名	貸出・提出資料	期間
鈴鹿市考古博物館	企画展『鈴鹿の遺跡5 徹底解剖！須賀遺跡』におけるパネル展示のため	朝日遺跡	遺物写真 2点	5月7日
個人	名古屋西法人会『名古屋西法人会だより』No.172 「朝日遺跡と清須城」掲載のため	朝日遺跡	遺構写真 3点	5月16日
一宮市博物館	企画展「モノに残った文字・記号・墨書土器」の解説書およびパネルに掲載するため。	勝川遺跡	遺物写真 1点	5月22日
東海国立大学機構大学 文書資料室	『名古屋大学メールマガジン NEXT』第51号「ちょっと名大史」の記事に掲載するため。	西二葉町遺跡	遺構写真 2点	6月16日
あいち朝日遺跡ミュージアム	企画展『弥生人といきもの2025 虫のおしらせ』に使用のため。	『YAYOI・モダンデザイン-ニッポンの美、ここに始まる-』にて作成	成人女性衣装一式(借用)、ヒメミコイラスト始め 4点	6月24日
NPO 法人フィールド ミュージアム文化研究所	ヒスイ博物館で開会する日本コストリカ外交関係樹立90周年記念パネル展『縄文の世界』のパネルに掲載するため。	牛牧遺跡	遺構写真 2点	7月7日
可見市	「広報かに」9月号に掲載するため。		銅鐸づくりの想像図 1点	8月18日
経営科学出版	古代史(藤尾慎一郎様ご出演)の動画講座で使用するため。	朝日遺跡	遺構写真 2点	8月18日
公益財団法人犬山城白 帝文庫	公益財団法人犬山城白帝文庫研究紀要第19号に掲載のため。	西二葉町遺跡	遺構写真 5点	8月18日
清須市役所生涯学習課	『令和7年度 災害関連企画展』に展示するため。	清洲城下町遺跡	遺構写真 2点	9月24日
個人	『ムシの考古学図鑑』(雄山閣)に掲載するため。	岩倉城遺跡 清洲城下町遺跡 一色青海遺跡	遺構写真 1点 遺構写真 1点 遺物写真 1点	10月3日
株式会社新泉社	『銅鐸の世界』に挿図として掲載するため。	朝日遺跡	遺物写真 1点	10月9日
サイネット株式会社	株式会社帝国書院発行、高等学校地歴科 日本史探究 副教材『図説 日本史通覧』に掲載するため。	朝日遺跡	遺構写真 1点	10月16日
株式会社ジャンプコー ポレーション	BS日テレ「磯田道史の歴史をゆく」に使用するため	断夫山古墳	遺構図面 1点	10月21日
株式会社テレビ朝日	テレビ朝日『くりいむクイズ ミラクル9』に補足情報として放映するため。	四池A古窯	遺構写真 2点	11月4日
株式会社ジャンプコー ポレーション	BS日テレ「磯田道史の歴史をゆく」に使用するため	断夫山古墳	遺構写真 4点	11月13日
NHK コンテンツ制作 局 第2制作センター	歴史探偵「出陣！信長親衛隊(仮)」で画像データを使用するため。	名古屋城三の丸遺跡	遺構図面 1点 遺構写真 4点	11月13日
豊橋市文化財センター	企画展「古代のやきもの工場-深田古窯址群と湖西窯-」に使用するため。	境川遺跡 東中田A古窯	遺構写真 3点 遺構写真 3点	12月19日
名古屋市教育委員会	比良・月縄手遺跡の広報物「比良遺跡と西区の遺跡」及びイベントに使用するため。	月縄手遺跡	遺構写真 7点 遺物写真 3点	1月8日
大阪府立弥生文化博物館	令和7年度 常設展示室多言語パネル改修工事に伴う、借用画像の再掲載のため。	朝日遺跡	遺構写真 2点	1月8日
アムステルダム国立博 物館	『ARTSOFASIA』MAGAZINE 8000copiesに掲載するため。	名古屋城三の丸遺跡	遺物写真 1点	1月14日

ホームページなど

今年度末までに公開されたPDFおよび画像データは以下のとおりである。

報告書PDF	300本	その他チラシ類	121本
説明会資料	134本	遺跡位置登録	290本
年報PDF	615本	写真登録(遺跡アルバム)	46,283本
各遺跡の広報誌	266本	実測図登録	31,463本
埋蔵文化財展資料	22本	Youtubeコンテンツ	16本
講座資料	41本		

SNSによる情報発信

愛知県埋蔵文化財センターとして、X(旧Twitter)およびFacebook、Instagramでの公式アカウントを運用し、原則として平日1日に1回の頻度で情報発信を行っている。

アカウントのフォロワー数は2026年1月20日現在でXが4,128名、Facebookが2,303名、Instagramが332名である。今年度当初から12月末日にかけての投稿回数は144回であった。



エフエムななみにおける情報発信

エフエムななみは尾張南西部を放送区域としたFMラジオである。そこで放送される番組「ななみアフタヌーンバラエティ」の1コーナーに、愛知県埋蔵文化財センター職員が1ヶ月に1回程度の頻度で出演し、地元説明会や歴史講座といったイベント告知等の広報を行っている。今年度の出演回数は10回(予定含む)で、出演者と内容は以下のとおりである。

日付	出演者	広報内容
5月1日(木)	田中 良	サポーターズクラブ告知・イベント案内
5月29日(木)	永井邦仁・田中 良	協力講座告知
6月26日(木)	中里伸明	青山神明遺跡の現場紹介
8月7日(木)	水野領介	設楽ダム関連遺跡の現場紹介
9月4日(木)	柳原麻子	西二葉町遺跡地元説明会告知
10月23日(木)	茶谷 満	廻間遺跡の現場紹介・連続歴史講座告知
12月4日(木)	小柳篤史	萱野遺跡の現場紹介・地元説明会告知
2月5日(木)	樋上 昇・川添和暁	あいち朝日遺跡ミュージアム企画展「あいちの発掘調査2025」・関連講演会・シンポジウム告知
3月26日(木)	荒木徳人	春の埋蔵文化財展告知

地元説明会・遺跡検討会

遺跡名	所在地	開催日	参加人数
下延坂遺跡	北設楽郡設楽町	令和7年6月17日(火)	15名
青山神明遺跡(河川)	西春日井郡豊山町	令和7年8月2日(土)	30名
西二葉町遺跡	名古屋市東区	令和7年9月13日(金)・14(土)	511名
青山神明遺跡(防災)	西春日井郡豊山町	令和7年11月8日(土)	30名
萱野遺跡	豊橋市	令和7年12月13日(土)	36名
青山神明遺跡(防災)	西春日井郡豊山町	令和8年2月14日(土)	28名
内山遺跡	豊田市	令和8年2月28日(土)	62名
姫下遺跡	安城市	令和8年3月14日(土)	57名

発掘調査現場における遺構・遺物などの指導

遺跡名	指導日	指導者	所属
西二葉町遺跡	令和7年11月14日(金)	金子健一	(公財)瀬戸市文化振興財団
	令和8年1月14日(水)	古尾谷知浩	名古屋大学文学研究科
		斎藤夏来	名古屋大学文学研究科
		佐藤一希	名古屋大学文学研究科
廻間遺跡	令和7年12月12日(金)	村田泰輔	奈良文化財研究所
萱野遺跡	令和8年1月29日(木)	西宮秀紀	愛知教育大学
	令和8年2月26日(木)	梶原義実	名古屋大学大学院文学研究科
姫下遺跡	令和8年2月26日(木)	田尻直子	九州大学
青山神明遺跡	令和8年2月17日(火)	赤塚次郎	特定非営利活動法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク
内山遺跡	令和8年2月24日(火)	森 泰通	豊田市

萱野遺跡地元説明会資料
令和7年12月13日



制作・編集
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒466-0017 豊橋市富岡町3-100 電話 053-47-4163 (直通線)
http://www.mabun.com

SMSでは発掘調査の様子やイベントのお知らせなど、様々な情報を発信しています。フォローよろしくお願いします！

調査支援
安西工業株式会社
〒461-2411 豊橋市神宮町上野地3丁目3番1号
tel. 078-96-5330
http://fukushokogyo.com/

X (旧 Twitter) Instagram

愛知県基幹的広域防災拠点整備事業に伴う
青山神明遺跡地元説明会資料



令和7年11月8日

令和7年度の愛知県基幹的広域防災拠点整備事業に伴う発掘調査は5月から行っており、愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施しています。今回の説明会では、これまでに発掘調査を終えた調査区のうち、25M区を中心に25Q区と25R区、さらに25M区に隣接する24F区と24G区も合わせその調査成果を紹介します。主に鎌倉時代から江戸時代の遺構と遺物が確認されました。発掘写真は江戸時代の溝27550の調査に携われた土木員の遺跡です。

編集 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
配布 愛知県埋蔵文化財センター
調査 国際文化財株式会社
支援



西二葉町遺跡地元説明会

説明会資料

令和7年度 愛知県埋蔵文化財センター 組織一覧

運営協議会委員

市川 真	愛知県民文化局文化部長
梶原義実	名古屋大学大学院人文学研究科教授
城ヶ谷和広	愛知県埋蔵文化財調査センター主任
竹内 誠	名古屋大学大学院環境学研究科教授
都築暢也	元中京大学文学部歴史文化学科客員教授
馬場 基	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長
土方宗広	愛知県都市教育長協議会会長(常滑市教育長)
古尾谷知浩	名古屋大学大学院人文学研究科教授

専門委員

岩 石 学	榎並正樹	名古屋大学名誉教授
日本考古学	加藤一郎	愛知学院大学文学部歴史学科教授
考 古 学	柴垣勇夫	元愛知淑徳大学教授
形質人類学	多賀谷 昭	長野県看護大学名誉教授
考 古 学	内記 理	愛知県立大学日本文化学部歴史文化学科准教授
動物考古学	新美倫子	名古屋大学博物館・情報研究科准教授
日本古代史	西宮秀紀	愛知教育大学名誉教授
建築史学	濱田晋一	名古屋工業大学大学院准教授
木材組織学	吉田正人	名古屋大学大学院生命農学研究科准教授
保存科学	脇谷草一郎	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター 保存修復科学研究室長

センター長 伊藤尚巳

管理課

管理課長	下野直樹
主 査	榊原聡史
主 事	村岡 香
主 事	犬飼沙知

調査課

調査課長	堀木真美子
主任専門員	樋上 昇 永井宏幸 武部真木 蔭山誠一
調査研究専門員	早野浩二 川添和暁 永井邦仁
調査研究主任	池本正明 酒井俊彦 鈴木正貴
調査研究主事	茶谷 満 中里伸明 柳原麻子 田中 良 荒木徳人 河嶋優輝 梶田真由 水野領介 小柳篤史

年報 令和7年度

令和8年3月

編集・発行 (公財)愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 株式会社クイックス 名古屋支部
